

豊かな学びと育ちをつなげる

かつしかっ子就学前教育カリキュラム

葛飾区教育委員会

目次

はじめに

1 かつしかっ子就学前教育カリキュラムの基本的な考え方	
(1)葛飾区の幼保小連携教育の現状	1
(2)就学前教育において育みたい資質・能力と円滑な接続について	1
2 保育・教育課程	
(1)発達過程の区分についての考え方	3
(2)0歳児から5歳児の発達に応じて経験させたい内容	4
(3)保育事例	8
・ 0歳児から3歳児の保育	8
・ 4歳児、5歳児の保育	17
〈4歳児Ⅰ期〉	17
〈4歳児Ⅱ期〉	22
〈4歳児Ⅲ期〉	28
〈4歳児Ⅳ期〉	33
〈4歳児Ⅴ期〉	38
〈5歳児Ⅰ期〉	44
〈5歳児Ⅱ期〉	49
〈5歳児Ⅲ期〉	56
〈5歳児Ⅳ期〉	63
〈5歳児Ⅴ期〉	68
3 充実のためのポイント	
(1)家庭との連携	76
・ 育て大きく!力あふれるかつしかっ子	78
(2)かつしかっ子生活スタイル	80
(3)葛飾保育者のスタンダード	81
4 小学校への接続	
(1)学習の様子	83
(2)生活の様子	91
(3)円滑な接続のための指導の工夫	95

はじめに

葛飾区教育委員会 教育長 小花 高子

葛飾区では、葛飾区教育大綱の四つの理念の一つに「幼保小中高連携教育を推進し、切れ目のない教育を実現します。」を掲げ、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校までの連続性を考慮し、連携を進め、段階を追って成長できる教育を推進しています。そして、乳幼児期から、少年期、青年期までの期間にわたって、子どもたちが伸び伸びと成長できる切れ目のない教育環境を目指しています。

平成 26 年から本格的に幼保小連携教育が進められ、各連携校園による様々な連携教育が進められてきました。近年では、園児と児童による交流や体験活動だけでなく、教職員による保育見学や保育体験、授業参観、研究会や研修への参加など、教員同士による指導観交流も行われています。

そして、更なる教育の接続を目指し、平成 31 年度から本格実施された「かつしかっ子スタートカリキュラム」に続き、この度「かつしかっ子就学前教育カリキュラム」を作成しました。

本資料には、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の事例が多く掲載しています。本資料の活用により、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る更なる一助となることを期待しております。

結びに、本カリキュラムの作成にご尽力くださいました、就学前教育カリキュラム作成委員の皆様をはじめ全ての方々に心より感謝申し上げます。

1 かつしかっ子就学前教育カリキュラムの基本的な考え方

1 かつしかっ子就学前教育カリキュラムの基本的な考え方

(1) 葛飾区の幼保小連携教育の現状

「葛飾区教育振興基本計画」では、全ての子どもが等しく質の高い教育環境で学ぶことができるよう、就学前教育や学校間連携、教員研修等の充実を図ってきました。小1問題解消の必要性から、幼稚園、保育所等と小学校の連携教育充実について検討し、「幼児期の学びと小学校教育の連携のための取組表」が作成され、それを基に、各校園により様々な幼保小連携教育が進められてきました。

また、令和元年度からは、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続し、入学したかつしかっ子が、幼児教育での学びと育ちを基に、主体的に自己を発揮し、生き生きと新しい学校生活を創り出せるようスタートカリキュラムが本格実施されることとなりました。

一方、学習指導要領の改訂に伴って、平成30年4月「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の全面実施に伴い、教育及び保育のねらい、内容等の一層の整合性が図られることとなりました。生きる力の基礎を培うため、幼児教育で育みたい資質・能力（幼児教育を行う施設として共有すべき事項）が明確化されるとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化され、小学校の教員と共有するなど連携を図り、小学校教育との円滑な接続がより一層求められています。

そこで、本区では、これまでの取組に加え、更なる子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実に向け、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るため「かつしかっ子就学前教育カリキュラム」（以下、「本カリキュラム」とする）を作成しました。

(2) 就学前教育において育みたい資質・能力と円滑な接続について

就学前の乳幼児期は、義務教育及びその後の教育の基礎を培う大切な時期です。そして、生きる力の基礎を培う役割を担っています。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、小学校以降の教育を見通し、子どもに生きる力の基礎を育むため、次に示される資質・能力を一体的に育むようにすることが求められています。

〔幼児教育で育みたい資質・能力〕

- 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
 - 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
 - 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
- 【「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」】平成29年3月告示

また、5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）に示されたねらい、内容に基づく教育及び保育活動全体を通して資質・能力が育まれる幼児期終了時に見られる具体的な姿を明確化した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が新たに示されました。保育者は、この姿を念頭に置き、遊びや生活の中で子どもが発達していく姿を捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られる環境をつくったり援助したりすることが求められます。

一方、小学校では、幼児期における遊びを通した総合的な学びを各教科における学習へと円滑に移行できるよう工夫することが求められています。

そのため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、保育者と小学校教員が子どもの成長を共有し、指導方法を工夫しながら、子どもの発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実を図っていく必要があります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」)

本カリキュラムは、小学校との接続を踏まえ、幼児期の子どもに生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら、0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したものです。

【0歳児】

健やかに伸び伸びと育つ

身近なものに関わり感性が育つ

保育(養護・教育)

※生活や遊びを通じて、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達の基盤を培う

身近な人と気持ちが通じ合う

【1・2歳児】

保育(養護・教育)

※生活や遊びを通じて、総合的に展開

5領域に
関わる学びの
重なり合い

【幼児教育で育みたい子どもたちの資質・能力】

(健康、
人間関係、環境、言葉、表現)

幼児教育5領域

「知識及び技能の基礎」

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

「思考力、判断力、表現力等の基礎」

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

教育・保育全体

※遊びを通しての総合的な指導

「学びに向かう力、人間性等」

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

生きる力の基礎

【確かな学力につながる、豊かな人間性につながる、健康・体力につながる】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

小学校教育への円滑な接続

小学校以上
各教科・領域

「知識及び技能」

「思考力、判断力、表現力等」

学校の教育活動全体

「学びに向かう力、人間性等」

生きる力

【確かな学力、豊かな人間性、健康・体力】

2 保育・教育課程

2 保育・教育課程

(1) 発達過程の区分について

「就学前教育カリキュラム改訂版」(平成28年3月東京都教育委員会)には、発達区分が以下のよう示されています。

6か月未満	<ul style="list-style-type: none"> ○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的にかかわる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。
6か月～ 1歳3か月	<ul style="list-style-type: none"> ○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。
1歳3か月～ 2歳未満	<ul style="list-style-type: none"> ○歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働き掛けていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働き掛ける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物とのかかわりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。
2歳	<ul style="list-style-type: none"> ○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。 ○排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。 ○発声が増え、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事の間接性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
3歳	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。
4歳児 Ⅰ期～Ⅴ期	<ul style="list-style-type: none"> ○運動バランス、コントロール、が取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種類以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。
5歳児 Ⅰ期～Ⅴ期	<ul style="list-style-type: none"> ○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しを持ち、友達と相談しながら活動を発展させていくようになる。 ○今までのような知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。

(2)0歳児から5歳児の発達に応じて経験させたい内容

乳児保育 3つの 視点	0歳児	5 領域 に関する 学び	1歳児	2歳児	育みた い資質 能力	幼児期の終わり までに育つて ほしい姿	3歳児
	保育（養護・教育）の中で 経験させたい内容		保育（養護・教育）の中で 経験させたい内容	保育（養護・教育）の中で 経験させたい内容			保育（養護・教育）の中で 経験させたい内容
身体的発達 に関する 視点	<ul style="list-style-type: none"> 食事、睡眠等の生活リズムの感覚が整っていく。 離乳食から徐々に乳幼児食へ移行する。 手づかみ、スプーン、フォークを持って自分で食べようとする →事例「もぐもぐじょうず」 はいはい、高ばい、伝い歩きから一人歩きへ移行する。 歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど全身を使った遊びを楽しむ。 	健康	<ul style="list-style-type: none"> 援助されながら簡単な身の回りのことをやってみようとする。（手洗い、衣服の着脱、排泄など） →事例「ゆっくり降りようね」 色々な食べ物に興味をもち、スプーンやフォークを使い保育者に手伝ってもらいながら食べようとする。 保育者と一緒に全身を使った遊びを楽しむ。（歩く・走る・よじ登る・くぐる・跳ぶ・ぶら下がる） →事例「タイヤを運びたい」 保育者と一緒に指先を使った遊びを繰り返し楽しむ。（つまむ・めくる・ちぎる・引っ張る・押す等） →事例「団子づくり」 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に見守られながら、自分でできることをしようとする。（手洗い、うがい、衣服の着脱、排泄など） →事例「手伝うよ、大丈夫」 ゆったりとした雰囲気の中で、スプーン、フォークを使って食べる。 保育者と一緒に戸外や室内で十分に体を動かして遊ぶ。（歩く・走る・登る・降りるなど） 指先を使った遊びを楽しむ。 保育者や友達と一緒にかけっこや追いかっこを楽しむ。 保育者の表情や言葉掛けて、危ないことに気付く。 	知識及び技能の基礎	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがい、衣服の着脱、排泄などの手順が分かり自分でしようとする。 保育士や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。（走る、跳ぶなど） 保育者や友達と一緒に簡単なルールを知り楽しく体を動かして遊ぶ。
「健やかに 伸び伸びと 育つ」	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや周囲の人への興味や関心が高まり興味のあるもの等に近づいて行こうとする。 →事例「どれちゃっただけだよ」 保育者の語り掛けや、応答的な関わりの中で、声を出したり、応えようとする。 →事例「大事なおもちゃだったんだね」 表情や身振りなどで自分の気持ちを表現できるようになる。 →事例「ハッピーバースデートゥーユー」 	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の受容的、応答的な関わりの中で周囲の子どもの興味や関心を持つ。 保育者や友達のやっていることを真似して遊ぶ。 異年齢のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、関わってもらうことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者の名前を呼び、親しみをもって関わろうとする。 友達に話しかけたり自分の知っていることを伝えたりして、関わることを喜ぶ。 →事例「おおきいね」 生活や遊びの中で、異年齢児との関わりを通し模倣することを楽しむ。 保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。 	思考力、判断力、表現力等の基礎	自立心	<ul style="list-style-type: none"> やってみたいと思う遊びを見つけて楽しむ。 異年齢の友だちの真似をすることを楽しむ。
社会的発達 に関する 視点	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の物や人に興味を示し、探索活動が盛んになる。 玩具や身の回りの物を使って一人遊びを楽しむ。 指差し、身振り、片言などを使うようになる。 →事例「チューリップだよ」 保育者と一緒に水・砂・土・紙などの様々な素材に触れる。 絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 	環境	<ul style="list-style-type: none"> 自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場所が分かる。 →事例「できたよ」 身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助を受けながら、やって良いことと悪いことの区別や順番・交代のルールを知る。 →事例「かーわって！」 身近な自然などに興味をもち、見たり触れたりして遊ぶ。（水、砂、土、泥、動植物など） 少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。 	思考力、判断力、表現力等の基礎	協同性	<ul style="list-style-type: none"> 友達と同じことがしたいという気持ちが高まり一緒に遊ぼうとする。 保育者や友達と一緒に行事や様々な活動をするを喜ぶ。 →事例「Bちゃん、優しいね。」 簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。 生活や友達との関わりの中で、良いことと、悪いことに気付く。 →事例「先生がびっくりするようしよう。」
「身近な人 と気持ちが 通じ合う」	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の物や人に興味を示し、探索活動が盛んになる。 玩具や身の回りの物を使って一人遊びを楽しむ。 指差し、身振り、片言などを使うようになる。 →事例「チューリップだよ」 保育者と一緒に水・砂・土・紙などの様々な素材に触れる。 絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに興味や関心が広がり「これなあに」などと聞いたり答えてもらったりすることを喜ぶ。 保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 →事例「言えたね」 いろいろな素材に触れて遊ぶ。 絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 →事例「おいしいね」 歌や音楽に合わせて、手遊びや体操などを保育者と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に、自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。 →事例「ダンゴムシ探し」 保育者を仲立ちとして生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。 →事例「ありがとう。」 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作を真似て遊ぶことを楽しむ。 保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。 	思考力、判断力、表現力等の基礎	道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思っていることや、したいことなどを言葉や動きで表現しながら遊ぶ。 様々な遊びを通して異年齢の友達と触れ合い楽しさを感じたり、大きい子への憧れを感じたりする。 →事例「一緒に楽しいね」 身近な素材や材料に興味をもって関わり必要な物を使ったり、作ったりして遊ぶ。（大小の紙、箱、カップ等）
精神的発達 に関する 視点	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の物や人に興味を示し、探索活動が盛んになる。 玩具や身の回りの物を使って一人遊びを楽しむ。 指差し、身振り、片言などを使うようになる。 →事例「チューリップだよ」 保育者と一緒に水・砂・土・紙などの様々な素材に触れる。 絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 	表現	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに興味や関心が広がり「これなあに」などと聞いたり答えてもらったりすることを喜ぶ。 保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 →事例「言えたね」 いろいろな素材に触れて遊ぶ。 絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 →事例「おいしいね」 歌や音楽に合わせて、手遊びや体操などを保育者と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に、自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。 →事例「ダンゴムシ探し」 保育者を仲立ちとして生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。 →事例「ありがとう。」 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作を真似て遊ぶことを楽しむ。 保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。 	学びに向かう力・人間性等	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思っていることや、したいことなどを言葉や動きで表現しながら遊ぶ。 様々な遊びを通して異年齢の友達と触れ合い楽しさを感じたり、大きい子への憧れを感じたりする。 →事例「一緒に楽しいね」 身近な素材や材料に興味をもって関わり必要な物を使ったり、作ったりして遊ぶ。（大小の紙、箱、カップ等）
「身近な ものと関わり 感性が育 つ」	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の物や人に興味を示し、探索活動が盛んになる。 玩具や身の回りの物を使って一人遊びを楽しむ。 指差し、身振り、片言などを使うようになる。 →事例「チューリップだよ」 保育者と一緒に水・砂・土・紙などの様々な素材に触れる。 絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 	表現	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに興味や関心が広がり「これなあに」などと聞いたり答えてもらったりすることを喜ぶ。 保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 →事例「言えたね」 いろいろな素材に触れて遊ぶ。 絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 →事例「おいしいね」 歌や音楽に合わせて、手遊びや体操などを保育者と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達に、自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。 →事例「ダンゴムシ探し」 保育者を仲立ちとして生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。 →事例「ありがとう。」 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作を真似て遊ぶことを楽しむ。 保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。 	学びに向かう力・人間性等	自然との関わり 生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> 自然物に興味や関心をもち、見たり聞いたり、触れたり、感じたりする。（木の葉、木の実、虫、季節、寒さ、暑さ等） →事例「セミ捕獲！」 生活や遊びの中で、身の回りの色、数、量、形などに興味をもつ。 →事例「もうすぐ大きい組」 親しみをもって保育者の話を聞いたり、困ったことやしてほしいことを言葉で伝えたりする。 遊びやおしゃべりの中でやりとりを楽しみながら、生活に必要な言葉を増やしていく。 好きなものになりきったり、見立てたりして遊ぶ中で、感じたり考えたり自分のイメージを表現して楽しむ。 →事例「思い出した！」 絵本やお話のイメージを楽しむ。 リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。

育みたい 資質、能力	幼児期の終わりま でに育ってほしい 姿	4 歳 経験させたい内容	5 歳 経験させたい内容
知識及び技能の基礎	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・食べることを楽しみ、食べられないものや嫌いなものでも少しずつ食べようとする。 ・自分の健康に関心を持ち、うがい、手洗いや衣服の調整などをすすんで行う。 ・遊びや生活に必要な準備や片付けなど、やり方が分かりすすんで行おうとする。 ・園生活の決まりや危険なことが分かり、約束を守って行動する。 ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいや手洗いなどの病気の予防に必要な活動を理解し、すすんで行う。 ・箸の持ち方や食事のマナー、栄養のバランスを意識して、食べることを楽しむ。 ・様々な運動遊びに進んで取り組み、自分の目的に向かって繰り返し挑戦したり、チーム対抗の遊びを楽しんだりする。
	自立心	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具、用具などを使い、様々な動きを組み合わせて積極的に遊ぶ。 ・簡単なルールの下で、体を動かす遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動用具を進んで使い、工夫して遊ぶ。 ・時間を意識して生活するとともに、準備や身の回りの物の始末、片付けの必要性が分かり、見通しをもって進んで行う。
	協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に目的をもち、繰り返し挑戦する楽しさを知る。 ・自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められることを通して、自信をもつ。 ・クラスの友達と声や動きがそろ心地よさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動や係活動、共同の場を整えることなどの必要性が分かり、一人、あるいは友達と一緒に進め、自分の役割を果たすことや認められることの喜びを感じ、満足感や自信をもつ。 ・危険な物や場所、遊び方が分かり、状況を判断して、安全に気を付けて遊ぶ。 ・友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げる充実感を味わう。 ・友達との考えの違いやうまくいかない経験を通じて、友達と工夫したり折り合いをつけたりしながら、問題や課題を乗り越えようとする。
思考力、判断力、表現力の基礎	道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から友達に何かをしてあげたり、してもらったりすることを楽しむ。 ・簡単なルールを守って友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・友だちと楽しく生活する中でまじりの大切さに気づき、守ろうとする。 ・やって良いことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ではできないことが友達と一緒にだてできる喜びや満足感を味わい、互いのよさを認め合う。 ・やってよいことと悪いことがあることが分かり、考えながら行動する。 ・共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。
	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる年齢の友達に親しみをもちたり、進んで遊んだりする。 ・話をしている人に気持ちを向けて聞き、理解しようとする。 ・保育者や友達の話に、親しみをもちて聞く。 ・うまくいかないことや葛藤場面を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ・園内の大人や地域の方などに親しみをもち、一緒に活動する楽しさを感じる。 ・身近な道具の使い方がほぼ分かり、様々な場面で積極的に使おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊び方や決まりをつくり出し、守って遊ぶ ・身近な友達との関わりを深めるとともに、異なる年齢の子どもなど、様々な友達と関わり、思いやりや親しみをもち、 ・高齢者をはじめ地域の方々など、自分の生活に関係の深い色々な人に親しみをもち、 ・身近に起こる様々な事象に関心を持ち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。
	思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話していることや考えていることを受け止めて行動しようとする。 ・自然の美しさに触れて感動したり、自然物を使って遊ぶことを楽しんだりする。 ・自然現象や冬から春への自然の変化に関心を持ち、感動したり疑問をもちたりする。 ・身の回りの物の色、形などに興味をもち、集める、分ける、組み合わせるなどしながら選ぶ。 ・重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど物の性質に気づき、遊びに取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の性質や仕組みについて考えたり気付いたりし、遊びに生かす。 ・目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなどして工夫して取り組む。 ・ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることなどを通して、数量、形や文字、標識などに関心を持ち、取り入れて遊んだり、必要感をもって使ったりする。 ・自然に触れて生活し、五感を十分に働かせて、その大きさ、美しさ、不思議さなどに心を動かす。 ・身近な生き物との触れ合いや飼育活動に取り組み、命の尊さに気づき、いたわったり大切にしたりする。
学びに向かう力・人間性等	自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なことを通して、数や量などに興味をもち、簡単な数の範囲で数えたり、比べたりすることを楽しむ。 ・いろいろな言葉を知り積極的に使い、言葉や文字で伝える楽しさを味わう。 ・遊びや生活に必要な言葉の意味が分かり、すすんで使う。 ・保育者や友達に親しみをもちて挨拶をしたり、 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶をしたり、遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとしたりする。 ・聞いて心地よい言葉や嬉しい言葉があることに気づき、自分も使おうとする。 ・自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ・様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わい自らも表現し、言葉の美しさや楽しさを味わう。 ・物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、友達とイメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな言葉を知り積極的に使い、言葉や文字で伝える楽しさを味わう。 ・遊びや生活に必要な言葉の意味が分かり、すすんで使う。 ・保育者や友達に親しみをもちて挨拶をしたり、 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶をしたり、遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとしたりする。 ・聞いて心地よい言葉や嬉しい言葉があることに気づき、自分も使おうとする。 ・自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ・様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わい自らも表現し、言葉の美しさや楽しさを味わう。 ・物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、友達とイメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。
	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達の中で、思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ・気に入った絵本や図鑑などに興味をもち、繰り返し見て楽しむ。 ・自分なりに工夫して表現することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶をしたり、遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとしたりする。 ・聞いて心地よい言葉や嬉しい言葉があることに気づき、自分も使おうとする。 ・自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ・様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わい自らも表現し、言葉の美しさや楽しさを味わう。 ・物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、友達とイメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。
豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本等の中の人や身近な動物などになりきって遊んだり、音楽やリズムに合わせて動いたりすることを楽しむ。 ・絵本や紙芝居などの内容やストーリーに興味をもち、イメージを広げて楽しむ。 ・音楽に親しみ、友達と一緒に聞く、歌う、体を動かす、簡単なリズム楽器を鳴らすなどして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材や用具を使って、自分なりに描いたり作ったりすることを楽しむ。 ・音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、踊る、楽器を鳴らすなど、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 	

【0歳児から3歳児の保育】

(3)保育事例

【0歳児から3歳児の保育】

※0歳児から3歳児までの保育のポイントと具体的な事例を示しました。下線部は保育者の援助を示しています。

乳児（0歳児）の保育

愛情豊かに、応答的に関わることを大切にします。

子どもは自分の思いや欲求を伝えようと、相手に向かって手を伸ばしながら声をあげたり顔を見て笑いかけたりと、体の動きや表情、声や喃語等で働き掛けます。それに対して、保育者が応答的に触れ合ったり、言葉を添えて関わったりすることで、子どもは次第に相手の言っていることを理解するようになり、自分も言葉で伝えようと意欲を高めていきます。

0歳児

離乳食「もぐもぐ、上手。」

スープをスプーンで保育者にすくってもらい、A児は一口食べてみる。「おかゆもどうぞ。」と声を掛けられると、自分から口を開けて、もぐもぐと口を動かす。「美味しいね。もぐもぐ上手だね。」すると嬉しそうに顔を見ながら満足そうに微笑む。おかゆの茶碗に手を伸ばして「あっあっ。」「もう一回ちょうだいだね。」と気持ちを代弁してもらい、自分から口を開けてぱくっと食べる。「上手だね。」の言葉に、保育者の目を見てにこっと微笑む。「んっんっ。」と今度はスプーンに手を伸ばし、保育者に手を添えてもらいながら自分でおかゆを食べるA児。たくさん食べてお皿が空になると、「んーっ。んーっ。」と両手を振る。「いっぱい食べたね。おいしかったね。」と気持ちに共感してもらい満足そうだった。



好きな遊び「とれちゃっただけだよ。」

電車の玩具で遊んでいるA児。途中でレールが外れてしまい泣き出す。近くにいたB児は心配そうにA児の近くに寄ってくる。保育者は穏やかな声でA児に向かって「とれちゃったね。」と状況を代弁する。そして、B児に向かって「Bちゃん、大丈夫よ。とれちゃっただけ。心配してくれてありがとうね。」と心配している思いを汲み取り言葉を掛ける。その言葉に安心した様子のB児。一方、保育者にレールを直してもらいA児はまた安心して遊び始めた。

室内遊び「大事なおもちゃだったんだね。」

室内の滑り台で遊びたくなったA児。両手にそれまで遊んでいたおもちゃを2つ両手で抱えながら滑り台の近くまで歩いて来る。「Aちゃん、おもちゃを持っていると危ないから置いてきてね。」首を横に振る。「じゃあ、ここに置く？」再び首を横に振る。保育者が、A児の気持ちを察し「じゃあ、先生が持っていてあげようか？」と聞くと、うんうんと頷いて保育者におもちゃを2つ渡した。安心して滑り台を何度も滑って嬉しそうだった。「気持ちが通じて良かったね。大事なおもちゃだったんだね。」

好きな遊び「ハッピーバースデー トゥーユー。」

誕生日おめでとうの歌を保育者の膝の上で歌ってもらい、心地よさそうにしているA児。しばらくすると、A児がケーキを取ったり置いたりし始める。保育者は「綺麗に並べたいのね。」とA児の気持ちを汲み「これをこうしたら…」とケーキが綺麗に並ぶように入れ替え、「ほら、できた。」と拍手をすると、A児は声を出して笑い保育者と一緒に拍手をして喜び。そこへB児がやってきて、ケーキを握る。A児は「あー！」と大きな声を出す。保育者が「そうだよね、Aちゃんのケーキだよ。Bちゃんかーえーして。」とA児の思いを言葉に代えて声を掛ける。少し戸惑いながらB児がすぐに机に戻したので、保育者は「返してくれるの？優しいね、ありがとう。」と伝え、A児は落ち着いた様子だった。

戸外遊び「チューリップだよ。」

A児と保育者が園庭のプランターのもとへ向かう。チューリップを見付け「あっ。あっ。」と笑顔で指さすA児に、保育者は「きれいに咲いてるね。」と声を掛ける。A児は「うっ。うっ。」とさらにチューリップを指さす。保育者はA児と同じ目線でチューリップを見つめ、「お花、チューリップだよ。ちゅ、う、り、っぷ。」と優しく教える。A児は指で触ったり別のプランターを見たりしていたが、チューリップを引っ張ろうとした。保育者は「引っ張るとチューリップさん痛いから、見るだけね。きれいね。」とA児の関心を受け止めながらも言葉で伝えた。



1歳以上3歳未満児の保育

子どもの生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに応答的に関わることを大切にします。

身近な保育者との愛着を拠りどころにして、少しずつ自分の世界を拡大していきます。人への基本的信頼感に支えられ、また、生活や遊びへの気持ちが高まる中で、周囲の同年代の子ども等に興味を示し、自ら関わりをもとうとします。こうした意欲が、この時期の豊かな生活や遊びを支え、その中で、子どもは人と関わりあうことの楽しさや一緒に過ごすことの喜び、安心感といったものを味わいます。こうした経験が、人と関わる力の基礎を培っていきます。

1歳児

戸外へ「ゆっくり降りようね。」

手すりに掴まりながら、階段を降りる子どもたちに保育者は「順番こ。」「押さないよ。」と声を掛け、階段では前の子を追い越したり、押ししたりしないことを伝える。A児は靴箱の自分の靴を見つけ「あったー！」と言い、保育者は「あったね。」と共感する。自分の靴をテラスに持って行き、靴下を履いて靴を履く。自分でできる子どももいれば、一人では難しい様子の子どものもいる。保育者は全て履かせたり、つま先だけ履かせたりと、一人一人に応じた援助を行う。



戸外遊び「タイヤを運びたい。」

A児がタイヤを移動させようと一生懸命持ち上げる。転がしたり引きずったりしながら1.5mほど動かすが、重さに耐えられなくなりタイヤが地面に倒れてしまう。保育者は、A児が大きい子どもたちや友達の様子を見て「やってみたい」と思う気持ちを察し、再度挑戦する姿を見守っている。今度はA児なりに考えて姿勢を変え低くかがみ、足で地面を踏ん張り両手で2回ほど押ししてみるが、それでも進まない。しかし、A児はまだ諦めない。もう一度立ち上がり、タイヤを持ち上げてみようとする。それでも持ち上がらず、その場に置いて友達遊ぶ場に駆けていく。



砂場遊び「団子づくり。」

保育者が「お団子こねて…」と言いながら砂で団子を作る。保育者の姿を見た数人の子どもたちが砂を握り、保育者の真似をする。保育者が「ぎゅっぎゅっぎゅっ。」と言いながら握ると、子どもも真似をして「ぎゅっぎゅっ。」と言いながら握る。団子を握る子どもの姿を見て「そう！」と保育者と同じように握って作れたことや、楽しさを共感し言葉を掛ける。

着替え「できたよ！」

戸外遊びを終えた子どもたち。保育室の前で靴下を履くところでは、自分で靴下を探したり、履いたりすることが嬉しく、「ぼくのあった。」「できた。」と大きな声で保育者に報告する。また、手洗い場に並んでいた子どもは、自分の番がくると「待てたよ。」と嬉しそうに保育者に伝える。保育者は一人一人に対し「本当だね、待てたね。」と嬉しさに温かく共感したり認めたりする。



室内遊び「言えたね！」

A児はみんなで使っていたブロックを箱ごと持って行こうとする。それを見てB児が「あーっ。」と叫ぶ。B児の声に気付いた保育者が「持って行かないで。一緒にやろうよって言おうね。」と穏やかに声を掛けると、B児が真似して「持って行かないで。」と言う。保育者が「そう、持って行かないでって言えたね。」とB児が言えたことを認めていく。

パネルシアター「おいしいね。」

保育者が部屋の一角で、給食の準備ができるまでの間パネルシアターをする。ロッカーと壁で囲まれた場所は配膳を進める様子が見えにくく、シアターに集中できるように配慮している。子どもたちはパネルシアターのストーリーに沿って、「ばいばい。」と手を振ったり、「やった。」等と声を出したりしながら見ている。「りんご、食べたい。」との子どもの声に「はいどうぞ。」「おいしいね。」と保育者もお話の世界を一緒に楽しむ。傍にいる子どもたちも保育者と友達のやり取りを安心感と楽しい気持ちでじっと笑顔で見つめている。



2歳児

着替え「手伝うよ、大丈夫。」

戸外遊びから帰ってきた子どもから、着替え、手洗いうがい、水分補給をし、絵本を見る。なかなか着替え始められないA児は保育者に抱きつく。保育者は「先生に上手に着替えるところを見せてほしいな。」とA児が気持ちを切り替え、やる気になるような言葉かけをする。すると、A児は「手伝って！」と怒ったように保育者に言う。保育者は「手伝うよ。大丈夫。」とA児に優しく言葉を掛けながら、次に着る物が分かるよう洋服を広げていく。A児が一つ着るごとにできたことを認めながら言葉を掛け、自分で着替えを進められるようになったところで静かに少し離れて見守る。

好きな遊び「おおきいね。」

A児は、磁石で付く玩具に夢中になっていた。電車のように長く繋げる度に保育者に見せている。隣にいた保育者から「すごいね。長く繋がったね。」と共感してもらい、満足そうであった。一つずつ繋がる度に「できたっ！」と嬉しそう。その声を聞いたB児は、「おおきいね。」とA児に伝える。A児の表情を見ていたB児もまた笑顔で遊び始めた。最近、クラスの子どもたちは、相手が嬉しそうにしていると、一緒に喜ぶ姿や、悲しくしている時には、そばで声を掛ける姿など、『優しい気持ち』が育ってきていることを感じ、嬉しく思いながら笑顔で見守る。



戸外遊び「かーわって！」

三輪車に乗っているA児を見つけたB児。「かーわって！」「だーめーよ！」もう一度挑戦。「かーわって！」「だーめーよ！」保育者「Bちゃんも乗りたいんだよね。Aちゃんも乗りたいからもう少し乗ったら代わってもらおうね。」「Aちゃん、終わったらBちゃんに貸してくれる？」「いいよ。」しばらく保育者と待っていたB児の所へ、A児が「いいよ。」と貸してくれた。保育者「Aちゃん代わってくれてありがとう。Bちゃんよかったね、嬉しいね。」自分ではうまく言葉にできないけれど、保育者が代弁することで自分の気持ちを受け止めてもらい、友達の気持ちにも気付く事ができた。



戸外遊び「ダンゴムシ探し。」

数人が保育者と一緒に、裏庭にダンゴムシを捕まえに行く。保育者が「行かなかったお友達にも見せてあげよう。」と友達と共有できるように提案する。A児・B児・C児は、自分たちの捕まえたダンゴムシが入っている洗面器を囲み、「私ダンゴムシ触れるよ。」などと話している。A児は洗面器に小石を入れ、「お待たせしました、石のコロケです。」と見立てて遊び始める。B児は砂を入れ「砂お風呂！」と笑顔で言う。C児は「見て、棒につかまるんだよ。」と枯草を一本ダンゴムシに向けながら知っていることを言葉で伝えようとする。さらに、「お姉ちゃんが、外に出しちゃ駄目だって。ダンゴムシがいなくなっちゃうから。」と、家族に聞いたことを言葉で伝えようとする。自分の生活経験と結び付けて遊びを楽しむ姿が見られた。



給食「ありがとう。」

保育者は、おかわり用のおにぎりをクラスに持ってきてくれた他クラスの保育者に対し、「ありがとうございます。」と声をかける。子どもたちに視線を向け「おにぎり持ってきてくれてよかったね。ありがとうだね。」と笑顔で言う。保育者の言葉を受けて、子どもたちは「ありがとう！」「ありがとう！」と口々に声をかける。「ありがとう。」の言葉は他のグループへと広がり、クラス全体でお礼を言う温かい雰囲気包まれた。



3歳児の保育

一人一人の成長と集団としての活動が充実できるように援助することを大切にします。

人と関わる力の基礎は、自分が保育者に温かく見守られているという安定感から生まれる人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われます。また、子どもは友達や保育者と触れ合う中で、自分の感情や意志を表現しながら一緒に活動し、楽しさを味わう体験を積み重ねていきます。

3歳児

外遊び 「Bちゃん、優しいね。」

A児は二人ずつかけっこをしていて負けてしまい、大泣きする。保育者が「悔しかったね。」とA児の気持ちに共感して声を掛けていると、近くにいたB児が突然走り出し、ベンダに置いてあったティッシュを取り、泣いているA児に無造作に渡す。保育者が「ありがとう！Bちゃん、優しいね。」と言葉を掛けると、B児は恥ずかしそうな顔をした。

B児が友達の悔しい気持ちに気付き、優しい行動をしてくれた姿を認めたことで、その後、A児が他の友達のことも気遣う姿が増えていくようになった。

給食準備「先生がびっくりするようにしよう。」

給食の準備をしに保育者が廊下に出ると、A児は「先生がびっくりするようにしよう。」とクラスのみんなに伝える。「静かに、お背中ピンだよ。」と当番で前に出ているB児がみんなに伝える。A児はなかなか姿勢がよくなるしないC児に分かってもらいたい思いから「Cくん、お背中ピンだよ！」と強い口調で何度も伝えてしまう。「もうなってるから大丈夫。」と同じことを何度も言われ、ちょっと怒り気味のC児。保育者が保育室に戻り、静かに姿勢を正して待っている子どもたちを見て、「あら先生がいなくても静かに待っていていられて嬉しいな。」と子どもたちの取組を認めると、皆、満足そうな表情が見られた。

室内遊び 「一緒に楽しいね！」

今までは一人で遊ぶことで満足していた A 児。「ままごとの食材を全部使いたい！」「三輪車にずっと乗っていたいから、友達には貸したくない！」と、独り占めをする姿があった。そこで、A 児が友達と喜びを共有する楽しさを味わえるように、保育者が仲立ちとなって、友達と粘土遊びで同じ形を作ったり、友達と一緒に虫探しをしながら笑い合ったりする経験ができるようにした。次第に「小さい子に貸してあげよう。」「ちょっとだけ貸してみようかな。」という思いをもったり、「これあげるよ。」「ありがとう。」「これおもしろいね。」等の言葉のやり取りが増えたりしている。

外遊び「セミ捕獲！」

地面に降りているセミを子どもたちが発見する。A 児は自分で捕まえようとする。一緒にいた B 児、C 児はシャベルと容器を持ってきて「この中に入れたらどう？」と言って、セミを怖がりながらも観察している。A 児はついに素手でセミの羽を持ち捕まえる。「A くんすごい！」と友達が言うと、A 児も得意げな表情をする。いつもはすぐに「先生捕まえて。」と頼ることが多いが、今回は自分で捕まえられたことがとても嬉しかったようだ。チャレンジできた姿を見守っていた保育者にも誇らし気な表情を見せてくれた A 児。

食事前保育者が、A 児がセミを捕まえたことをクラスみんなに伝えると、子どもたちから拍手が起きる。A 児は、恥ずかしそうにしながらも嬉しそうな笑顔だった。



給食「もうすぐ大きい組。」

テーブルごとに人数分の果物が入ったお皿を配っていく。保育者が「ここは何人グループですか？」と数に関心が持てるよう尋ねると、指で4と示したり、「僕が数える。」と言って友達を指さしながら数え「4人。」と答えたりする。「もうすぐ大きい組だから、大きいお皿だよ。」と進級の喜びを感じられるように声をかけながら配膳する。保育者も子どもたちと一緒に食べながら、「今日のメニューは何だろう？」「スープに入っている野菜はカリフラワーって言うのよ。」と食材などに関心をもてるよう話題にする。また、時間が分かるように時計の文字盤にイチゴの絵が貼ってある。保育者が「イチゴの時間になったので、お食事おしまいにしましょう。」と伝えると、子どもたちはそれぞれ食事を終わらせ、汚れた服を一人で着替え、午睡室へ移動した。



室内遊び「思い出した！」

3人で道路シートの上で車の玩具を走らせて遊んでいる。A児が消防署のエリアに消防車と救急車を止める。それを見つけたB児が「消防署に救急車は止めないよ!!。」と強い口調で言うと、A児も「止めるよ。」と言い返し、口論になる。保育者が「消防署で消防車と救急車が停まっているのを見たことあるよ。」と言葉を掛けると、C児が「あっ、私も見たことある。」という。するとB児は「あー。俺も思い出した！」と言い、それからは3人での遊びが広がっていく。保育者の一言がきっかけとなり、共通のイメージを持つことができ、遊びが続くようになった。



【4歳児・5歳児の保育】

4歳児Ⅰ期

【4歳児、5歳児の保育】 期ごとに経験させたい内容、環境構成、事例をまとめました。

4歳児 I期（4月～5月）


資質・能力 育みたい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	5領域	生きる力の基礎	経験させたい内容 新・新入児 進・進級児
知識や技能の基礎	健康な心と体（健）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・園での過ごし方を知る。新 ・新しいクラスでの生活の仕方を知る。進 ・手洗い、うがいの大切さが分かり行う。 ・所持品の置き場所や始末の仕方、いろいろな遊具・用具の置き場所や使い方、片付け方が分かり、自分でしようとする。 ・危険なものや場所を知り、安全に気を付ける。進 ・園での食事の仕方を知り、楽しく食べる。新 ・園での食事の仕方やマナーを知り、みんなで楽しく食べる。進 ・3歳時に経験した遊びに取り組み、体を動かして遊ぶことを楽しむ。進 ・友達や保育者の動きを見て、同じように体を動かそうとする。進 ・友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする。新 ・戸外に出て歩いたり走ったりしながら体を動かして遊ぶことを楽しいと感じる。新
	道徳性・規範意識の芽生え（道）			人間関係
思考力・判断力・表現力等の基礎	社会生活との関わり（社）	環境	確かな学力につながる	
	思考力の芽生え（思）			言葉
学びに向かう力・人間性等	自然との関わり・生命尊重（自然）	環境	確かな学力につながる	
	豊かな感性と表現（豊）	表現		

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、保育者との関わりを基盤に、自分の思いを表しながら遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達や保育者と自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に緊張したり、不安定になったりしている子どもには、安心して生活できるよう一人一人の思いを十分に受け止めていく。 ・新しい環境で、自分の生活をする場所や物が分かるように、靴箱やロッカーなどに個別のマークをつけ、安心して生活できるようにする。 ・進級児はできるだけ自分で行動できるような分かりやすい環境を構成し、進級した喜びが味わえるようにする。新入園児は、みんなで一緒に生活することを楽しめるようにする。 ・所持品の始末や片付けなどそれぞれの子どものペースを大切にして、自分なりにやっけていこうとする気持ちを認め、個人差に応じて丁寧に繰り返し指導していく。 	<p>〈幼稚園、学級の中で安心して過ごせるように〉 マークやシールを付けた靴箱やタオル掛け、引き出しなど、物の置き場所を示した絵表示、食事に必要な物や手順を示した絵カード</p> <p>〈体を十分動かして遊ぶ心地よさを味わえるように〉 滑り台、ジャングルジム、あぶく立った、オオカミさん今何時、追いかけて鬼、ボール遊び →事例「鬼遊び むっくりクマさん」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育者や友達に親しみが感じられるような言葉をかけ、安心して過ごせるようにする。 ・友達と同じ場で過ごしたりかわりをもったりできるように、遊びの場を設定したり遊具の数を十分に用意したりする。 ・挨拶、交通ルール、食事の準備・マナー、集会への参加の仕方など日常生活の習慣や園生活の決まりを、進級をきっかけにして、生活の中で確認していく。 ・新入園児には一人一人が安心できる遊具や落ち着ける場を用意したり、保育者が一緒に遊んだりする。 ・保育者や友達と触れ合う時間を十分に保障する。 	<p>〈学級のみんなと一緒に集まって活動する楽しさが味わえるように〉 いちごミルク、カレーライス、追いかけて鬼、あぶくたった「動物体操」「できるかな体操」「はしってはしって」「エビカニクス」など →事例「ゲーム イチごミルク」</p> <p>〈友達と関わって遊ぶ楽しさを味わえるように〉 砂遊び、おうちごっこ、製作コーナーでの遊び、遊びの場を仕切るための衝立、カラー積み木、ごさ、Bブロックや井型ブロックなど</p> <p>〈友達と一緒に過ごすことが楽しいと感じられるように〉 →事例「泣いてない！」 手遊び「グーチョコキパー」「むすんでひらいて」など 絵本「ノントンシリーズ」「ぐるんぱのようちえん」「いやだいやだの絵本」「あーんあーんの絵本」など</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が遊具や用具の使い方を一緒に遊びながら知らせ、簡単に作れて、作ったものを持って遊べるようにする。材料などは一人一人十分に遊べる数や量を準備する。 ・一人一人が、興味をもって遊んでいる様子を認めたり、遊びに必要なものを一緒に考えたりする。 ・新しい環境を試したり、工夫したりする時間を十分に保障する。 ・自分で持ち出せたり片付けたりできるよう遊具や用具の置き場所に写真や絵で分かりやすい表示をつける。 ・絵本や紙芝居など、子どもの興味・関心に合った内容を用意し、楽しめるようにしていく。 ・5歳児が世話している様子を見せたり、保育者と一緒に見たり触れ合ったりしながら、動植物への親しみや興味をもたせていく。 ・動物のアレルギーのある子どもには十分配慮する。 ・自然の変化や草花、虫の様子などに気付かせたり、親しみをもたせたりしていく。 	<p>〈好きな遊びを見つけて安心して過ごせるように〉 ままごと、人形、自由画、粘土、折り紙、絵本、ブロック、プラレール、ミニカー、床上積み木、トランポリン、小麦粉粘土、油粘土、砂場、ボール、フープ、虫かご、○△□等いろいろなものに見立てやすく切った紙</p> <p>〈様々な素材や材料に興味をもち扱えるように〉 こいのぼりづくり、クレヨンの散歩、お団子づくり スタンピング、セロテープ、のり、シール、ハサミ 遊具や用具の置き場所の写真や絵表示</p> <p>〈植物への興味関心がもてるように〉 ダンゴムシ捕り、種まき、野菜の苗植え、水やり 絵本「ダンゴムシ」「ぼく、だんごむし」「はらぺこあおむし」など 歌「ことりのうた」「ありさんのおはなし」「さくらんぼ」など</p> <p>〈春の季節に興味をもち、楽しめるように〉 歌「はるがきたんだ」「チューリップ」</p>

幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

「鬼遊び むっくりクマさん」

幼稚園 2年保育4歳児4月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園で保育者や友達と体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・保育者に追いかけられたり、受け止めてもらったりして、つながりを感じる。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の活動でリズム遊びや手遊びなどを楽しむ。 ・リズム遊びや好きな遊びを通して、少しずつ友達の存在に気付き、近くにいる友達と関わりをもつ。 ・A児：保育者や友達が鬼遊びをしているのを見ている。手遊びやリズム遊びには参加する。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりを楽しめるよう、園庭ではなく限られた広さのホールで行う。 ・鬼役が分かりやすく、イメージをもって遊べるようにお面をつくる。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>入園してから数日がたち、園生活に慣れてきた頃、むっくりクマさんの鬼遊びを学級の活動に取り入れる。ホールの真ん中にクマのぬいぐるみを置き、保育者が一緒に輪に入り、保育者が歌いながら眠る振りをする。「むっくりくまさん・・・」「ねむっているよグーグー。」と声を出しながら幼児もまねる。<u>保育者は歌が終わるとぬいぐるみを持ち、「まてまてー。」「クマだぞー。」と追いかける。追いかけられた幼児は「キャー。」と叫びながら嬉しそうに逃げる。</u></p> <p><u>A児に対しては保育者がゆっくり追いかけるようにすると、少しずつ慣れ、怖がらずに逃げ回ることができるようになる。</u></p> <p>次の日、A児が登園してくると「今日何やるの？」と保育者に尋ねる。保育者が「何して遊びたい？」と聞き返すと、A児は「今日もクマさんやろうよ。」と答える。保育者は「いいね。昨日楽しかったよね。」と言う。</p> <p>数日繰り返し遊び、学級のみんながルールを理解した頃に、今度はぬいぐるみではなく、<u>保育者がクマのお面を付けて鬼役となりむっくりクマさんを楽しむ。</u></p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の経験している内容  </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。(健) ・自分のやりたい遊びを繰り返し楽しむ。(健) ・保育者や友達と一緒に関わって遊ぶ楽しさを味わう。(協) 	

※下線は保育者の支援を示しています。

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

「泣いてない！」

幼稚園 2年保育4歳児4月

ねらい	・ 保育者や友達に親しみを感じ、幼稚園で安心して過ごす。	
これまでの経験	A 児：入園してすぐ、幼稚園で過ごすことに慣れて、喜んで登園している。 B 児：母子分離に不安があり、毎日泣きながら登園している。したい遊びを見つけて取り組み始めると落ち着き、夢中になって遊ぶ。	
環境構成	・ 分かりやすい視覚表示を掲示し、見守り、言葉を掛けたりする。 ・ 身支度を終えた後、すぐに遊び始められるよう環境を準備する。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>入園してから2週間たった頃、A児は、泣きながら登園してくるB児を気にして、上履きを靴箱から出してあげたり、手をつないで一緒に保育室に入って支度の手伝いをしたりしている。<u>その度に保育者は見守り、「Bちゃんよかったですね、嬉しいね。」と言葉を掛ける。</u></p> <p>それから数日たった日の朝、A児が「Bちゃんすごい！泣いてない！」と保育者に伝えに来る。<u>保育者は「本当だね、すごいね。ぜひBちゃんにも言ってあげて。」と促す。</u>A児が「すごいね！」とB児に伝えると笑顔を見せる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の助けになろうとする幼児の姿を見守る。 ・ B児の嬉しい気持ちを代弁することでA児の行動を認める。 ・ B 児が友達から認められる嬉しさを感じられるように、A 児には、思いを直接 B 児に伝えるよう言葉を掛ける。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達の支えを受け入れながら、自分の足で保育室に向かう。(自立) ・ 友達に認められることで、泣かずに登園できたことへの自信をもち、喜びを感じる。(自立) ・ 友達の不安な思いに寄り添い、手を差し伸べる。(社)(道) ・ 友達の頑張りを言葉で伝える。(言) 	


協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

「ゲーム イチゴミルク」 幼稚園 2年保育4歳児5月

ねらい	・保育者や学級のみなどと一緒に活動する楽しさを感じる。
これまでの経験	・学級の活動や好きな遊びの中で、鬼遊び「おおかみさん」に何度か取り組んでいる。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール：2色のグループに分かれ、保育者の「イチゴ」や「ミルク」の声掛けに合わせて、そのチームの幼児が席を移動する。「イチゴミルク」は全員移動する。 ・自分のグループが分かり、イメージが楽しめるように、カラー帽子のピンクをイチゴ、白をミルクに見立ててかぶるようにする。 ・保育者や学級のみなどと一緒に活動する楽しさを味わえるよう、中央向きに円形で椅子を並べる。

幼児の姿	援助のポイント
<p>向かい合わせになった友達に、「おーい、〇〇ちゃん。」と言いながら手を振ったり、「みんなの顔が見える。」と笑顔で言ったりする。保育者が一人ずつ「イチゴ」か「ミルク」を伝えながらイチゴグループの幼児はピンク帽子、ミルクグループの幼児は白帽子にするよう伝えていくと、仲の良い友達と同じ色がいいと言う幼児もいる。</p> <p>ゲームを始めると、「どっちかな。」「イチゴがいいな。」などと言いながら参加する。「イチゴさんのお引っ越し！」と保育者が言うと、イチゴグループの幼児が歓声を上げて移動する。自分のグループが呼ばれるのを楽しみにしている幼児や、仲の良い友達が座るのを待って隣に座ろうとする幼児、椅子を動かして仲の良い友達の隣に座ろうとする幼児がいる。移動する場面になっても座ったままの幼児に対して、「〇〇ちゃん、イチゴだよ。」と強く言う幼児もいる。保育者が「教えてあげたのよね、でもちょっとびっくりしたね。優しく言おうね。〇〇ちゃんもお引っ越しするよ。」と声を掛けると移動する。</p> <p>何度か行い、「楽しかったね。またみんなでやろうね。」と言うと「楽しかった。」「またやりたい。」と言う声上がる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを始める前に自分がイチゴグループかミルクグループかが理解しやすいように、何度か「イチゴさん。」「ミルクさん。」「イチゴミルクさん。」と呼びかけ、返事をする活動をする。 ・ルールが理解しやすいように、また、興味をもって参加できるように、保育者も仲間に入り、楽しい雰囲気活動を進めていく。 ・自分の思いを強く伝える幼児、やり方の理解が難しい幼児の双方の思いを丁寧に言葉で伝え、相手の気持ちに気付けるようにする。 ・双方の気持ちを受け止め、友達との心地よい関わり方を知らせる。

<p>幼児の経験している内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、少しずつ好きな友達ができ始め、親しみを感している。(協) ・学級の活動に参加する中で、みんなで一緒に遊ぶことの楽しさを共有する。(協) ・簡単なゲームのルールに沿って遊ぶ。(道) ・友達に遊び方を伝えようとする。(言)(道) 	
--	--

【4歳児・5歳児の保育】

4歳児Ⅱ期

4歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）


資質・能力 育みたい	幼児期の終わり までに育ってほ しい姿（10の姿）	5 領域	生 きる 力 の 基 礎	経験させたい内容 新 ・新入児
知識や技能の基礎	健康な心と体 （健）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活の流れが分かり、自分から動く。新 ・天候に合った生活の仕方を知り、自分で行おうとする。 ・園外に出た時の行動の仕方を知る。新 ・夏野菜の収穫を通して、皆で一緒に食べられた楽しさやうれしさを感じる。 ・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・プール遊びを通して、水の中での動きを楽しみ、開放感を味わう。
	自立心 （自立）			
	協同性 （協）			
思考力・判断力・表現力等の基礎	道徳性・規範意識 の芽生え （道）	人間関係	豊かな人間性につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。 ・思い通りにならないことがある時に保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり、気持ちを切り替えたりする。新 ・受け入れてくれる友達に自分の気持ちや感じたことを伝えようとする。 ・友達の言葉や動きに気付き、自分なりに応じていく。 ・安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 ・集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 ・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
	社会生活との 関わり（社）			
	思考力の芽生え （思）			
学びに向かう力・人間性等	自然との関わり・ 生命尊重（自然）	環境	確かな学力につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物に興味をもって、生長を楽しみにしたり収穫したりすることを喜んだりする。 ・砂や泥、水などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。 ・保育者の仲立ちによって、思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。 ・自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。 ・絵本の読み聞かせを楽しんで聞く。 ・歌や絵本、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。 ・身近な素材を使って作ることや作ったものを使って遊ぶことの楽しさを感じる。 ・身近な素材を使い遊びに必要な物やイメージしたものを作る楽しさを感じる。 ・保育者の仲立ちによって思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。新 ・新しい素材や材料に興味をもって関わり、必要な物を使ったり作ったりして遊ぶ。
	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚（数）	言葉		
	言葉による伝え 合い（言）	表現		
	豊かな感性と表 現（豊）			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 ・気の合う友達と互いの思いを出して遊ぼうとする。 ・クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむ。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が流れや方法を理解して、自分から動いていけるように、動線に配慮したり、用具を分かりやすく置いたりする。 ・汗をかいたり汚れたりした衣服の始末や汗の始末の方法を知らせていく。 ・園内の栽培物を収穫したり、収穫物を味わったりする機会をつくっていく。 ・皆と一緒にすると楽しいと思えるような簡単なルールの遊びや、季節にふさわしい歌や踊りを取り入れていく。 ・プール遊びの約束、着替えや水着の始末の仕方などを分かりやすいように工夫して伝え、プール遊びに期待をもち、楽しく取り組めるようにする。 ・9月当初は夏休みなど夏の生活の過ごし方が違うことに配慮し、保育者や友達との関係を取り戻しながら徐々に園生活のリズムに適應できるようにしていく。 	<p>〈水の感触や開放感を味わえるように〉 色水遊び シャボン玉 スライム フィンガーペインティング 洗濯ごっこ プール遊び水遊び 歌「しゃぼんだま」「みずあそび」「プールごっこ」 〈音楽に合わせて踊ったり、体を動かして遊んだりすることを楽しめるように〉 「タタロチカ」「地球はドンドン」「にんじゃでござる」 おおかみさん むっくりくまさん ひも取り鬼 〈季節ならではの遊びを楽しめるように〉 プール遊び 水鉄砲</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学級の友達と一緒に過ごすことが楽しいと感じられるよう活動を工夫して取り入れていく。 ・一緒に遊びたい友達と関われるように、場作りのための遊具や用具、友達と同じものを身に付けたり持ったりできる材料（簡単に自分でつくれるもの）を用意していく。 ・自分の思い通りにならない気持ちに共感していく。自分で気持ちの切り替えができた時は、その姿を十分認め、自分だけでは難しい場合はその手助けをしていく。 ・自分の思いを言葉で表せるように言い方を教えたり、気持ちを聞き出したり、相手の幼児に気付かせたりする。 ・幼児一人一人の動きやイメージを言葉にしていくことで、一緒に遊んでいる友達の動きや言葉を意識し合えるようにする。 ・保育者も一緒に動いていく中で、用具の扱い方や安全な遊び方（ウレタン積み木、固定遊具、プール遊びなど）を知らせ、安心して取り組めるようにする。 	<p>〈学級のみなどと過ごすことが楽しいと感じられるように〉 あぶくたった 引っ越し鬼 フルーツバスケット 〈友達と同じものを持ったり身に付けたりできるように〉 ヒーローごっこ お姫様ごっこ にんじゃごっこ 警察ごっこ リボン お面バンド ままごとのスカート エプロン セロファンなど →事例「仲良くしようね」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜や夏の植物を育てることで自然の変化や生長に気付かせていく。 ・季節の変化や動植物に対する発見、疑問、感動などを保育者も幼児と共感したり、表現したりして、より関心もてるようにし、周囲の幼児の気付きも知らせていく。 ・砂や水を使った遊びに興味をもって関わり、解放感を味わう遊びができるよう素材や材料を用意する。 ・友達とのつながりができてくるので、思いを表したり伝えたりすることを楽しめるように、いろいろな友達の姿を伝えたり、思いが伝わり合うように言葉を補ったりしていく。 ・イメージを広げたり、遊びに取り入れられたりできるような絵本や歌などの環境を提示していく。 ・自分なりのイメージを出したり実現したりできるように、イメージに適した素材や材料、用具などを遊びの流れに応じて提示していく。 ・興味をもって自分から様々な素材や材料に触れられるよう留意したり、一人一人の取り組みに応じて用具の使い方を知らせたりしていく。 	<p>〈身近な自然の変化や動植物の生長に気付けるように〉 夏野菜の栽培（ミニトマト、ピーマン、キュウリなど） 雨や風 水たまり しずく ダンゴムシ カタツムリ オタマジャクシ ザリガニ アジサイ →事例「赤いからだよ」 →事例「ザリガニを育てよう」 〈興味をもったことに繰り返し取り組めるように〉 色水遊び 砂場遊び 粘土遊び（小麦粉粘土など） 〈イメージを広げ、遊びに取り入れられるように〉 絵本「おおかみと七ひきのこやぎ」「おおきなかぶ」「三匹のヤギのガラガラドン」 リズム体操「どうぶつたいそう」「エビカニクス」 歌「うちゅうせんのうた」「ながぐつマーチ」「かたつむり」「そうだったらいいのにな」「たなばたさま」 〈様々な素材や材料に興味をもち自分から関われるように〉 モール リボン 様々な大きさの紙 ストローなど →事例「アジサイとの出会い」 小麦粉粘土 フィンガーペインティング スタンピング 〈遊びの基礎となるような経験ができるように〉 七夕飾り（はさみ ステープラー のりなど）空き箱製作</p>

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

「仲良くしようね」

幼稚園 2年保育4歳児6月


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・したいことを見付け、場や物に自ら関わって遊ぶ。 ・友達に関心や親しみをもって関わり、自分の思いを表す。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・色水遊びがジュース屋さんごっこに変わり、ビールケースを台にしてジュースを売って遊ぶことを繰り返していた。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を溶いた水で混色ができる色水遊びのコーナーを、自分で扱えるように用意する。 ・お店屋さんごっこで使う遊具を自分で出し入れしやすいように準備する。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>ビールケースの前で、A児とB児がもみ合いになってけんかしている。保育者が「どうしたの?」と尋ねると、「僕が最初にここにいた。」と、互いに場所を譲らない。保育者は「最初にB君がここでお店屋さんを準備しているのを見てたな。」と言うと、「そうだよ、ぼくが最初にここにいたんだよ。」と言い切る。保育者が「A君、今はここに誰もいないから、やってもいいかなって思ったよね。」と言うと、A児は小さくうなずく。そこで、保育者は「A君も同じようにお店やさんをみるのはどう?」と聞くとA児がうなずく。保育者はB児に「このビールケース、A君にも貸してくれる?」と尋ねる。B児が「うん」とうなずくので、保育者は「よかったねA君、貸してくれるって。嬉しいね。先生と一緒に隣にお引越ししよう。」と言い、A児と一緒に少し離れた所にビールケースを運ぶ。</p> <p>最後に保育者は「よかったね、これで2人ともジュース屋さんできるね。」と声を掛け、お客さん役になって一緒に遊んだり、遠くから見守ったりする。</p> <p>片付けの後、水道で2人が手を洗いながら、A児が笑顔で「仲良くしようね。」と声を掛けると、B児が「うん。」と答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児なりに思いを出せるよう肯定的に受け止める。 ・言葉を補う、代弁するなど、相手の状況に気付けるようにする。 ・したいことを汲み取り、実現できるよう一緒に考えたり代弁したりする。 ・遊具を貸してもらえた嬉しさに共感すると共に、B児の行動を認める。 ・それぞれが自分なりに遊びに取り組みながらも、友達の様子を感じられるよう、互いの様子が見える場作りをする。 ・問題が解決し、互いにしたいことができる嬉しさを感じられるよう声を掛ける。 ・遊びに満足感がもてるよう、一緒に遊ぶ。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の経験している内容  </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に支えられながら、友達の思いや気持ちを知ったり、折り合いを付けたりする。(道) ・問題が解決し、友達と仲良く過ごす心地よさを味わう。(道) ・自分なりにしたい遊びに取り組めた満足感、友達と同じ場・物を使って一緒に遊ぶことの面白さ、楽しさを味わう。(健) ・自分の思いを言葉や動きで伝える。(言) 	

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

「赤いからだよ」


幼稚園 2年保育4歳児6月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に触れて遊び、感触を楽しむ中で、面白さや不思議さを感じたり、気付いたり、考えたりする。 		
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> A児は好きな遊びの時間に砂場で裸足になって泥遊びをしていた。足を洗ってテラスに立つと地面が熱いことに気が付いた。 		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 砂や泥、水などに関わり開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを十分に出せるように、幼児が水を汲みやすい大きさのたらい、バケツ、じょうろ、足洗いなどを用意する。 		
<table border="0" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:50%;">幼児の姿</td> <td style="width:50%;">援助のポイント</td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント
幼児の姿	援助のポイント		
<p>テラスの日向にいたA児が「先生来て。こっちすごい熱いよ。」と言って保育者を呼び、「あちち。」と日陰側に移動する。保育者も「どれどれ。」と手で地面を触り、「本当だ。すごく熱いね。」と答える。そして「先生も靴を脱いでみよう。」と保育者も上履きを脱ぎ、「あちっ。」「大丈夫。」などと言いながら、日向と日陰を往復して見せる。A児や近くにいた幼児数名も保育者の動きを真似て、歓声を上げながら行ったり来たりする。</p> <p>保育者が「面白いね。どうしてこっちは熱いんだろう？」とA児に尋ねると、A児は少し考える素振りをして、「こっちは赤いからだよ。」と答えた。保育者は「なるほど、赤いからなのか。こっちとこっちで地面の色が違うもんね。」とA児の考えを受け止めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとの身の回りの自然現象に関心をもてるよう、保育者も幼児と一緒に見たり、話題に取り上げたりする。 周囲の幼児も関心もち、日向と日陰の地面の熱さの違いを体感することができるように、A児の気付きを受け止め、保育者が真似て共感する。 日向と日陰の熱さの違いに気付いたA児になぜ日向は熱いのか問いかけ、考えるきっかけをつくる。 A児なりの考えを肯定的に受け止める。 		
<table border="0" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:50%;">幼児の経験している内容</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table>		幼児の経験している内容	
幼児の経験している内容			
<ul style="list-style-type: none"> 日向と日陰の地面の温度が違うことに気付く。(思)(自然) 温度が違う理由を自分なりに考え、伝えようとする。(思)(言) 保育者や友達の動きに面白さを感じ、真似る。(思)(協) 季節ごとの身の回りの自然現象に関心をもつ。(自然) 			

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもち、関わるようになる。

「ザリガニを育てよう」

保育園 4歳児7月

ねらい	・自分たちで釣ったザリガニに関心をもち、親しみをもって関わろうとする。	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで保育者が釣ってきたザリガニを飼っていた。 ・数日前にみんなで、保育園の近くの親水公園でザリガニ釣りをした。 	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニの生態を知るための図鑑を用意する。 ・ザリガニを描いたり作ったりできるよう、画用紙や折り紙を用意する。 	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p><u>保育者が、みんなで釣ってきたザリガニを飼うことを提案し、ザリガニの餌や世話の仕方について問いかけると、幼児は図鑑を出して友達と一緒に調べ始める。「イカで釣ったから、イカを食べるよ。」「ザリガニのエサは100均に売っていたよ。」「(図鑑より)煮干しや魚、ご飯も食べるって。」と気付いたことや知っていることを伝え合う。</u></p> <p><u>保育者が、名前を付けることを提案すると、幼児同士で考え、名前を付ける。名前を付けたことで愛着が湧き、「絵を描きたい。」「折り紙で折りたい。」と言う。絵を描く場を作り、ザリガニを近くに置くと「ザリガニの色は赤、黒、青、緑、オレンジがある。」と言う幼児がいる。それに刺激を受け、更によくザリガニを観察し、自分なりの感じた色で描く幼児、ハサミの大小や数を話す幼児がいる。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釣ってきたザリガニを飼うことを提案し、生き物に関心をもてるようにする。 ・自分たちが釣ってきたザリガニに名前を付けることを提案し、大切に扱われるようにする。 ・友達とザリガニの名前を決める機会をもち、考えを出し合えるようにする。 ・幼児なりの表現方法を認め、思いが実現できるように、必要な環境を用意する。
	活動の中で経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニに興味をもち、親しむ。(自然) ・ザリガニの生態を知る。(自然) ・友達と気付きや考えを伝え合う。(言) ・生き物に触れ、感じたことを表現しようとする。(表) 	

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「アジサイとの出会い」

幼稚園 2年保育4歳児6月

ねらい	・心を動かす出来事に触れ、感じたことを表現することを楽しむ。	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びの中で、ダンゴムシやザクロの花など自然物に触れて遊んでいる。 ・画用紙や空き箱を使って、虫や動物など身近な動植物を描いたり作ったりすることを楽しんでいる。 	
環境構成	・幼児がアジサイに関心を持ち、触ったりにおいを嗅いだりして関わられるよう、保育室の中央にテーブルを出し、花瓶に入れたアジサイを飾っておく。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>A児が登園後アジサイに気付く。A児「この花知ってるよ！えっと…お名前なんだっけ。」、保育者「アジサイっていうんだよ。」、A児「きれいだね、触ってみてもいい？」、保育者「優しく触ってあげてね。」、A児はそっと花びらをなでる。A児「なんだかふわふわしてる。」、保育者「気持ちいいね、においはどうかな？」、A児はアジサイに鼻を近づけ「うん、なんだかいいにおい。」と言う。身支度を終えた他の幼児も次々に集まり、そっと花びらに触れたりにおいを嗅いだりする。</p> <p><u>翌日、保育者はスポンジ製のスタンプを準備しておき、アジサイをつくる活動を行えるようにする。</u>B児「あそこに飾ってあるお花だ！」、A児「えっと、アジサイ…だっけ？」、保育者「よく覚えていたね。」、C児「私もやりたい！お花をいっぱい付けたいな。」、D児「ピンクいっぱいがいい。」幼児は自分のイメージを口にしながらスタンプを押していく。</p> <p>E児は2色のスタンプを交互に押していき、出来上がりをじっと眺める。E児「ピンクと紫、どっちもあるときれいだね。」、保育者「どちらの色も素敵だね。」、F児「スタンプをクルってしたら不思議なお花になっちゃった。」、保育者「ふわっとして、他のお花と違う形になったね。」など、それぞれ絵について幼児が話すことを、保育者が受け止める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感性を働かせて関わるができるよう、声を掛けたりモデルを示したりする。 ・心を動かした経験を表現する楽しさを感じられるような活動を準備する。 ・表現する楽しさや満足感を十分に感じられるよう、一人一人の感じたことや気付いたこと、表現したものに対して共感的な言葉を掛ける。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にアジサイを見たり触れたりにおいを嗅いだりし、感性を十分に働かせる。(豊)(自然) ・スタンプという新たな表現方法を使って感じたことを表現して楽しむ。(豊) ・自分でつくったアジサイに美しさや面白さを感じ、表現する満足感をもつ。(豊) 	

【4歳児・5歳児の保育】

4歳児Ⅲ期

4歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

資質・能力 育みたい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	5領域	生きる力の基礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎 学びに向かう力・人間性等	健康な心と体（健） 自立心（自立） 協同性（協）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの物の始末や、使った物の片付けを自分でしようとする。 生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。 安全に過ごすための約束や決まりが分かり、守ろうとする。 いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 用具や遊具の使い方に慣れ、組み合わせて場を作って遊ぶ。
	道徳性・規範意識の芽生え（道） 社会生活との関わり（社） 思考力の芽生え（思）	人間関係	豊かな人間性につながる	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達とのかかわりを楽しむ。 クラスの人々と一緒にルールのある遊びをして遊ぶ楽しさを味わう。 友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いがあることに気づく。 年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。（かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など） 行事を通して様々な人（職員、ほかの保護者、地域の方など）と関わり、親しみをもつ。 集団遊びやゲームを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 約束やルールを守ることでみんなが気持ちよく過ごせることを感じる。
	自然との関わり・生命尊重（自然） 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（数） 言葉による伝え合い（言） 豊かな感性と表現（豊）	環境	言葉	表現




ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事に関わり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 ・友達との関わりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 ・戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやろうとする気持ちを大切に、自分でできた喜びや気持ちよさに気付かせたり、やりやすい方法を知らせたりする。 ・運動会をきっかけに繰り返し遊べるように必要な用具を身近に用意しておく。 ・競い合ったり、繰り返し取り組んだりすることで楽しさが味わえる場や遊具を用意する。 ・運動的な活動では、体を動かす楽しさが味わえるように、保育者も一緒に動いて活動し満足感もてるように工夫する。また、一人一人が頑張っている姿を認め励まし、次の活動への意欲につなげていく。 	<p>〈生活に必要なことを思い出し、自分からしようとしていくように〉 登園時の活動や生活の流れを示す絵カード</p> <p>〈戸外で体を動かす気持ちよさや一緒に動く楽しさを味わえるように〉 かけっこ ダンス 玉入れ 縄跳び 巧技台 マット など 島鬼 ジャングルジムや滑り台などの園庭の固定遊具</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士で思いがぶつかる時は、保育者が双方の思いをくみ取りながら相手の思いに気付けるように仲介していく。その後の手立てを一緒に考え、心を落ち着けたり気持ちを切り替えたりして遊べるようにする。 ・気の合う友達、好きな友達と触れ合ったり遊んだりできるようなコーナーや場を確保できるように援助していく。 ・場面をとらえて遊具の使い方や遊びのルールを守る大切さを知らせる。また、できたことを十分に認めたり励みとなるよう言葉を掛けたりして、遊びが発展していくようにする。 ・運動会では5歳児のやっていることに刺激を受けたり、今までの経験を思い出したりしながら自分たちもやりたいという気持ちをもてるようにする。 ・園外に出かける機会を活用して、地域の人と触れたり、地域のよさに気付かせたりしていく。 	<p>〈自分なりの思いを出して遊びながら、友達との関わりを楽しめるように〉 自分たちの場がつくれるような囲いや衝立 積み木 など</p> <p>〈友達と一緒に取り組む楽しさを味わえるように〉 運動会のリズムや玉入れなどの競技 鬼ごっこ 巧技台 ビーム トランポリンなど</p> <p>〈生活の中で、様々な人と触れ合う楽しさを感じられるように〉 近隣の散歩、未就園児との触れ合い →事例「おはようございます！」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、いろいろな動きを試せるような用具を使ったり、子どもが興味をもっているイメージを取り入れたりして、自然に体を動かして遊ぶ気持ちが高まっていくようにする。 ・自分なりのイメージを出したり実現したりできるようなイメージに適した素材や材料、用具などを遊びの流れに応じて提示していく。 ・生活の中で、必要感を感じて数量や文字に触れ合えるようにする。 ・遊びに必要な物を並べたり、見立てたり、作ったりする楽しさを感じられるような遊び方を知らせていく。 ・秋の遠足やサツマイモ掘りなどを通して、秋の自然に触れた喜びや感動を共に味わい形や大きさ、色の変化などにも興味もてるようにする。 ・生活や遊びの流れに応じて必要な材料を準備し、素材や材料の魅力を感じながら興味をもって取り組めるようにする。 ・秋の自然を感じとっていかれるような絵本や紙芝居を用意する。 	<p>〈身近な自然物と関わって遊ぶことができるように〉 色水遊び、キバナコスモスやあさがお、オシロイバナなどの園庭の草花 サツマイモ堀 野菜スタンプ、ドングリ拾い 絵本「14ひきのおつきみ」「はっぱのぼうけん」「つき」</p> <p>「さつまのおいも」など 季節の歌「とんぼのめがね」「くだものれっしゃ」など</p> <p>〈みんなで一緒にすることを楽しみながら自分の力が出せた喜びを感じていけるように〉 旗作り リズムや競技で身に付ける物作り 運動会の立て看板作り →事例「時計の針、分かるよ」</p> <p>〈必要感を感じて遊びに使う物を作り、作って遊ぶことを楽しめるように〉 空き箱 プラスチック容器 お面バンド →事例「カタグルマをつくって」</p>

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

「おはようございます！」

保育園 4歳児10月


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と挨拶を交わし、親しみをもつ。 ・安全に歩くために、自分で考えて行動する。 				
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩の時、地域の人に挨拶をしている。 ・園外活動の際には交通ルールを保育者と細かく確認し、意識して歩こうとしている。 				
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、図書館に行って本を借りる機会をつくる。 ・図書館に行くことに期待をもてるよう、カレンダーに記入しておく。 				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 50%;">幼児の姿</th> <th style="width: 50%;">援助のポイント</th> </tr> <tr> <td> <p>楽しみにしていた「図書館の日」の朝、<u>幼児は鞆に絵本を入れる準備を自ら行う。</u>学級全体で、事前に出かける時の交通ルールや歩き方、<u>近隣の人に会った時は挨拶をすることを確認する。</u></p> <p>園を出発して数分後、地域の方から「おはよう。」と挨拶されると、幼児が「おはようございます。」と笑顔で返答する。A児は周りの幼児よりも大きな声で張り切って「おはようございます！」と頭を下げ挨拶をする。すると地域の方から「すごい、しっかりしているね。」と言ってもらい、A児は「はい、しっかりしているんです。」と目を輝かせながら返答し、嬉しそうな表情を見せる。</p> <p>横断歩道を渡る際には、自分で気付いて手を挙げる幼児がいる。B児はスーパーのトラック搬入口の前を通るときにも手を挙げている。保育者が「<u>どうして手を挙げたの？</u>」と尋ねると、「<u>だって、僕たちがもっと大きく見えるように、手を挙げるんでしょ？</u>」と答える。</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に「図書館の日」の準備を知らせることで期待感をもち、自ら進んで行えるようにする。 ・挨拶をして地域への親しみをもてるように、出発前に地域の人々の存在や挨拶をすることの意味を伝え、コミュニケーションの方法を知らせる。 ・交通安全を考えて行動する幼児に理由を尋ねることで、幼児自身が意識を高められるようにする。 </td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント	<p>楽しみにしていた「図書館の日」の朝、<u>幼児は鞆に絵本を入れる準備を自ら行う。</u>学級全体で、事前に出かける時の交通ルールや歩き方、<u>近隣の人に会った時は挨拶をすることを確認する。</u></p> <p>園を出発して数分後、地域の方から「おはよう。」と挨拶されると、幼児が「おはようございます。」と笑顔で返答する。A児は周りの幼児よりも大きな声で張り切って「おはようございます！」と頭を下げ挨拶をする。すると地域の方から「すごい、しっかりしているね。」と言ってもらい、A児は「はい、しっかりしているんです。」と目を輝かせながら返答し、嬉しそうな表情を見せる。</p> <p>横断歩道を渡る際には、自分で気付いて手を挙げる幼児がいる。B児はスーパーのトラック搬入口の前を通るときにも手を挙げている。保育者が「<u>どうして手を挙げたの？</u>」と尋ねると、「<u>だって、僕たちがもっと大きく見えるように、手を挙げるんでしょ？</u>」と答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に「図書館の日」の準備を知らせることで期待感をもち、自ら進んで行えるようにする。 ・挨拶をして地域への親しみをもてるように、出発前に地域の人々の存在や挨拶をすることの意味を伝え、コミュニケーションの方法を知らせる。 ・交通安全を考えて行動する幼児に理由を尋ねることで、幼児自身が意識を高められるようにする。
幼児の姿	援助のポイント				
<p>楽しみにしていた「図書館の日」の朝、<u>幼児は鞆に絵本を入れる準備を自ら行う。</u>学級全体で、事前に出かける時の交通ルールや歩き方、<u>近隣の人に会った時は挨拶をすることを確認する。</u></p> <p>園を出発して数分後、地域の方から「おはよう。」と挨拶されると、幼児が「おはようございます。」と笑顔で返答する。A児は周りの幼児よりも大きな声で張り切って「おはようございます！」と頭を下げ挨拶をする。すると地域の方から「すごい、しっかりしているね。」と言ってもらい、A児は「はい、しっかりしているんです。」と目を輝かせながら返答し、嬉しそうな表情を見せる。</p> <p>横断歩道を渡る際には、自分で気付いて手を挙げる幼児がいる。B児はスーパーのトラック搬入口の前を通るときにも手を挙げている。保育者が「<u>どうして手を挙げたの？</u>」と尋ねると、「<u>だって、僕たちがもっと大きく見えるように、手を挙げるんでしょ？</u>」と答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に「図書館の日」の準備を知らせることで期待感をもち、自ら進んで行えるようにする。 ・挨拶をして地域への親しみをもてるように、出発前に地域の人々の存在や挨拶をすることの意味を伝え、コミュニケーションの方法を知らせる。 ・交通安全を考えて行動する幼児に理由を尋ねることで、幼児自身が意識を高められるようにする。 				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 50%;">幼児の経験している内容</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と挨拶し合い、コミュニケーションを楽しむ。(社) ・地域の方に自分の行動を認められることで、嬉しさ、親しみの気持ち、安心感をもつ。(社) ・交通安全ルールの意味が分かり、自分で考えて守ろうとする。(健) </td> <td>  </td> </tr> </table>		幼児の経験している内容		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と挨拶し合い、コミュニケーションを楽しむ。(社) ・地域の方に自分の行動を認められることで、嬉しさ、親しみの気持ち、安心感をもつ。(社) ・交通安全ルールの意味が分かり、自分で考えて守ろうとする。(健) 	
幼児の経験している内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と挨拶し合い、コミュニケーションを楽しむ。(社) ・地域の方に自分の行動を認められることで、嬉しさ、親しみの気持ち、安心感をもつ。(社) ・交通安全ルールの意味が分かり、自分で考えて守ろうとする。(健) 					

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

「時計の針、分かるよ」

幼稚園 2年保育4歳児 10月


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の中で、文字や数字に親しみをもつ。 次の活動に期待をもち、片付けをする。 				
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 学級の活動をするときに、時計を使って時間を知らせながら、活動を進めるようにしてきた。 				
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の目のつきやすい場所に時計を設定し、目印になるマークや色シールなどを時計に貼り、幼児が分かりやすいようにする。 				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">幼児の姿</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">援助のポイント</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><u>保育者「今日は保育室の時計の長い針が9、パンダのところをきたら片付けしようね。玉入れをみんなでやろうね。」</u>、A児「やった！楽しみだな。」しばらく園庭や保育室でそれぞれに好きな遊びを楽しむ。</p> <p>3人の幼児と保育者が遊んでいる。B児「先生、もうすぐパンダになるよ。」、C児「片付けの時間だよね。」、D児「玉入れ早くやりたいね。」、B児「長い針が12になったらできるんだよね。」と時計の針を見ながら口々に言う。<u>保育者が「B君よく気付いたね。玉入れ楽しみだね。」</u>と言うと、B児「動物が描いてあるから分かるんだよ。」と得意げに言う。保育者「まだ遊んでいる友達はどうでしょうか？」、B児「僕が行ってくるね。もう長い針が9になったよ。」</p> <p>B児に声をかけられた幼児はそれぞれに時計を見て、片付け始めたり、保育室に戻ったりする。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 時間の目安が分かりやすいように、幼児に片付けの時間を知らせる。 幼児同士の会話を見守ったり、一緒に会話に参加したりし、共感して認める。 次の活動を知らせて、見通しと期待をもてるようにすることで、片付けの意欲を高める。 </td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント	<p><u>保育者「今日は保育室の時計の長い針が9、パンダのところをきたら片付けしようね。玉入れをみんなでやろうね。」</u>、A児「やった！楽しみだな。」しばらく園庭や保育室でそれぞれに好きな遊びを楽しむ。</p> <p>3人の幼児と保育者が遊んでいる。B児「先生、もうすぐパンダになるよ。」、C児「片付けの時間だよね。」、D児「玉入れ早くやりたいね。」、B児「長い針が12になったらできるんだよね。」と時計の針を見ながら口々に言う。<u>保育者が「B君よく気付いたね。玉入れ楽しみだね。」</u>と言うと、B児「動物が描いてあるから分かるんだよ。」と得意げに言う。保育者「まだ遊んでいる友達はどうでしょうか？」、B児「僕が行ってくるね。もう長い針が9になったよ。」</p> <p>B児に声をかけられた幼児はそれぞれに時計を見て、片付け始めたり、保育室に戻ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間の目安が分かりやすいように、幼児に片付けの時間を知らせる。 幼児同士の会話を見守ったり、一緒に会話に参加したりし、共感して認める。 次の活動を知らせて、見通しと期待をもてるようにすることで、片付けの意欲を高める。
幼児の姿	援助のポイント				
<p><u>保育者「今日は保育室の時計の長い針が9、パンダのところをきたら片付けしようね。玉入れをみんなでやろうね。」</u>、A児「やった！楽しみだな。」しばらく園庭や保育室でそれぞれに好きな遊びを楽しむ。</p> <p>3人の幼児と保育者が遊んでいる。B児「先生、もうすぐパンダになるよ。」、C児「片付けの時間だよね。」、D児「玉入れ早くやりたいね。」、B児「長い針が12になったらできるんだよね。」と時計の針を見ながら口々に言う。<u>保育者が「B君よく気付いたね。玉入れ楽しみだね。」</u>と言うと、B児「動物が描いてあるから分かるんだよ。」と得意げに言う。保育者「まだ遊んでいる友達はどうでしょうか？」、B児「僕が行ってくるね。もう長い針が9になったよ。」</p> <p>B児に声をかけられた幼児はそれぞれに時計を見て、片付け始めたり、保育室に戻ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間の目安が分かりやすいように、幼児に片付けの時間を知らせる。 幼児同士の会話を見守ったり、一緒に会話に参加したりし、共感して認める。 次の活動を知らせて、見通しと期待をもてるようにすることで、片付けの意欲を高める。 				
幼児の経験している内容					
<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な時間を感じ、時計を意識する。(数) 幼稚園にある数字やマークに親しみをもつ。(数) 					
					

言葉による伝え合い

先生（保育士等・保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

「カタグルマをつくって」

幼稚園 2年保育 4歳児9月

ねらい	・自分から遊びに取り組む中で、思いを言葉や動きで表す。	
これまでの経験	A児はしたい遊びが見付からず、友達の遊びに自分本位に関わり、場や遊びを壊す様子があつた。	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して、したいこと、思いや考えを出せるような雰囲気作りをする。 ・作りたいものが作れるように、素材や用具を準備しておく。 	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>A児「先生、ヒーローごっこやりたい、昨日テレビで見たんだ。」、<u>保育者「いいよ。でも先生あんまりそのヒーローのことを知らないから教えてほしいな。」</u>、A児「カタグルマをつくって」、保育者「カタグルマ?」、A児「そう」、保育者「カタグルマってパパやママの肩の上に乗せてもらうカタグルマ?」、A児「違う、飛ぶの。」、保育者「カタグルマだよな?」、A児「そうだよ。」、保育者「そういう名前の武器があるのかな?」、A児「う〜ん。」、保育者「どんなものだろう。」、A児「クルクルまわるんだよ。」、保育者「もしかして、風車?」、A児「うーん。」、<u>保育者がホワイトボードに絵を描いて見せながら「風が吹くとクルクルまわるやつ。」</u>、A児「そう、カザグルマ。」とゆっくり言う。保育者「分かったよ。<u>一生懸命教えてくれてありがとう。」</u>と風車をつくる。A児「これを背中に貼るの。」、保育者「そういうことね。そしたら明日も使えるようにベルトに貼ろうよ。」、A児はベルトを持ってきて風車を貼り、身に付ける。それから園長に「先生が作ってくれた。」と見せに行く。</p> <p>それを見た2人の幼児が「僕もやりたい。」と言う。<u>保育者は2人にも同じ物を作り、巧技台を用意する。</u>3人はそこから繰り返しジャンプしてポーズを決めるなど、なりきって遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児がイメージを言葉で伝えられるように、言葉を補足したり、じっくり話を聞いたりする。 ・イメージしているものと言葉が一致するように、絵を描いて示す。 ・時間をかけて寄り添い、幼児の諦めずに伝えて分かり合えた喜びや嬉しさに共感する。 ・周りの幼児にも楽しさが広がっていくように、同じように身に付ける物を用意し、一緒に遊べる場を設定する。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージしているものをいろいろな言葉を使って表し、保育者が分かるまで諦めずに伝えられた満足感を味わう。(言) ・自分のしたい遊びが形になり、取り組める喜びを味わう。(健) ・友達と同じものを身に付けるうれしさを感じる。(協) ・遊びの中で身に付ける物を作り、それを使って遊ぶ。(豊) 	

【4歳児・5歳児の保育】

4歳児Ⅳ期

4歳児 IV期（11月～12月）

資質・能力 育みたい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	5領域	生きる力の基礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎 学びに向かう力・人間性等	健康な心と体（健）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがいの大切さが分かり、自分から進んで行く。 自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、進んで取り組む。 必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。 友達と一緒に、鬼ごっこやしっぽ取りなどの簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。 いろいろな遊具や道具を使って、様々な動きを組み合わせる遊ぶ。
	自立心（自立）			
	協同性（協）	人間関係	豊かな人間性につながる	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 友達の動きに関心を持ち、その動きに合わせてたり応じたりして動く楽しさを感じる。 簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きが関わり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。 友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。 友達と生活する中できまりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。 共同の遊具や用具を大切にし、貸し借りをしたり、一緒に片付けたりする。
道徳性・規範意識の芽生え（道）				
社会生活との関わり（社）				
思考力の芽生え（思）	環境	確かな学力につながる	<ul style="list-style-type: none"> 季節による自然の変化に気づき、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。 保育者や友達との会話を楽しむ。 絵本やお話などを喜んで見たり聞いたりして、イメージを広げる。 絵本や歌の中にある面白い言葉に気づき、喜んだり繰り返したりする。 みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 お話の中の人や動物などになりきって遊ぶ。 自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。 思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。 	
自然との関わり・生命尊重（自然）				
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（数）				
言葉による伝え合い（言）	表現			
豊かな感性と表現（豊）				


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表見したりして遊ぶことを楽しむ。 遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがい、食事のマナー、着替えなど、一人一人の生活習慣を毎日の繰り返しの中で再確認していく。 安全、休息、手洗い、うがい、薄着の習慣等、秋から冬の生活の仕方についてクラス全体に投げかけたり場面をとらえて個々に知らせたりしながら必要感をもって自分でできるようにしていく。 友達と一緒に戸外で体を動かしたり、思い切り走ったりする心地よさに共感し、一人一人の動きや思いを認めていく。 リズムや体操など、みんなが興味をもって楽しく取り組めるような曲や内容を用意する。 	<p><健康な生活の仕方を知るために> 手洗い・うがいの励行 薄着の奨励</p> <p><いろいろな動きを楽しみながら体を思い切り動かして遊べるように> 助け鬼（氷鬼 高鬼 色鬼） ねことねずみ しっぽとり ドンジャンケン 縄跳び 縄跳び 竹馬 ボール運びゲーム ラウンドチェーン</p>
<ul style="list-style-type: none"> 気の合う友達と触れ合ったり遊んだりできるようなコーナーや場を確保できるように援助していく。 友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなってくるので、友達とのかわりの中で、相手の気持ちに気付くように、個々の思いを保育者が受け止めながら、言葉で相手に伝えていく。 互いの遊びのイメージが伝わっていくように、それぞれの言葉や動きをつぶやいたり、相手に分かるように言葉を補ったりして仲立ちをしていく。 イメージや思いが相手に伝わっていく楽しさに共感していく。 様々な場面を通して、友達の中で自分の思いを出していくことの大切さを知らせていくとともに時には、自分の気持ちを抑えていくことが必要であることにも気付かせていく。 友達とのトラブルの場面では、それぞれの考えを受け止めて支えとなったり、仲立ちをしたり、しながら、様々な感情を味わい、相手の気持ちに気付いていく機会となるようにしていく。 	<p><友達と関わって遊べるように> 砂遊び 秋の自然物を使った遊び 楽器遊び 鬼遊びなど</p> <p><様々な友達と関わることを楽しめるように> ダンス「あくしゅでこんにちは」「アルプス1万尺」「ラウンドチェーン」「なべなべそこぬけ」 歌「やきいもグーチャーパー」</p> <p><友達と声がそろうことで一緒にする楽しさが感じられるように> リズム体操「タタロチカ」「ヤンチャリカ」「地球をドンドン」 歌「きのこ」「ドロップスのうた」「しょうしょうじの狸ばやし」</p>
<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを自分なりに実現していく楽しさを感じられるように一人一人のイメージに合った用具や材料に使い方を知らせたり、アイデアを提供したりしていく。また、自分なりに考えたり工夫したりできるような提示の仕方を工夫していく。 遊びの中で「こうしたい」という子どもの思いを受け止め、イメージや目的に合うような素材や材料と一緒に見付けたり提示したりするなど保育者が積極的に支え、自分たちで遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。子どもが思いついた事を自分で実現できたと思えるような援助の工夫をする。 共通のイメージをもったり、イメージが広がったりする題材やみんなで動きや声を合わせる楽しさを味わえたりする活動など様々な表現を楽しめる内容を工夫する。 飼育物や園庭、公園などの自然の様子に興味をもっている姿を認め、関心をもって関わっていかれるようにする。 保育者がモデルとなって秋から冬の自然に関わり、感じたことや気づいたことを言葉にして伝えたり、子どもの思いに共感したりする。 自然物を遊びに取り入れられるような環境工夫をする。 	<p><新しい遊びを取り入れ、遊びの経験や表現の幅が広がるように> 縄跳び 鉄棒 秋の自然物を使った製作 絵の具で描く動物づくり 車作りなど →事例「くじびきやさんですよ」</p> <p><共通のイメージをもったり、イメージが広がったりするように> レストランごっこ ヒーローごっこなどのごっこ遊び 劇遊び 絵本「どうぞのいす」「そらいろのため」「3じのおちゃんにきてください」 →事例「ドラムサークル（ジャンベ体験）」</p> <p><花の名前を知り、成長を楽しみにできるように> チューリップ ヒヤシンス スイセン クロッカス</p> <p><秋の自然に親しみ、遊びに取り入れられるように> 身近な公園への散歩 落ち葉やドングリなど自然物を使った製作物 →事例「落ち葉のプール」</p>

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

「くじ引き屋さんですよ！」

幼稚園 2年保育4歳児 10月


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないことに気付き、保育者と一緒に考えたり、やってみたりする。 ・友達の動きに関心を持ち、自分の思いを実現する喜びを味わう。 		
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・A児は自分のやりたい遊びにじっくりと取り組むことを好む。友達や保育者と一緒にお化け屋敷を経験したことをきっかけに、友達とのやり取りを楽しめるようになってきた。 		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の遊びを見て自分もやってみたいという思いを実現できるよう、素材や道具の種類や数を十分に用意する。 		
<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:50%;">幼児の姿</td> <td style="width:50%;">援助のポイント</td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント
幼児の姿	援助のポイント		
<p>くじ引きをしている友達の刺激を受けて、友達の姿を見ながら自分で材料を用意し、A児もくじ引き屋を始める。他の幼児もくじ引き屋を開いているため、なかなかお客さんが来ない。そこへ保育者が遊びに行くと、A児は笑顔でくじ引き屋のやり取りを楽しむ。しかし、保育者とのくじ引きが終わると「またお客さんが来なくなる・・・。」とつぶやく。</p> <p>保育者はお客さんが来るように宣伝することを提案する。するとA児は「いらっしゃいませー！くじ引き屋さんですよー！」と大きな声で呼び込むが、お客さんはなかなか集まらず、「誰も私の言ってることを信じてくれない！」と言って泣き出しそうになる。</p> <p>「そんなことないよ。Aちゃんが頑張っているのを先生はずっと見ていたよ。もう少し待ってみよう！」と伝えると、A児は小さくうなずく。他のくじ引き屋が終わったタイミングでもう一度呼び込むと、A児の店に友達が集まり、嬉しそうにお客さんとのやり取りを始める。</p>			
<p style="text-align:center;">幼児の経験している内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のしている遊びに興味を持ち、自分なりに取り入れて遊ぼうとする。(思) ・保育者に自分の思いや気持ちを受け止めてもらい、安心したり、やってみようという気持ちをもったりする。(思) ・うまくいかないときに保育者に助けをもらいながら諦めないで取り組む。(思)(自立) <div data-bbox="1050 1686 1407 1921" style="text-align:right;">  </div>		

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかけて関わるようになる。

「落ち葉のプール」

幼稚園 2年保育4歳児 12月


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に触れて遊び、季節の変化を感じる。 ・戸外で思い切り体を動かすことで、開放感を味わう。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉を拾ってきて、砂場のケーキ作りの飾りにしてごっこ遊びに取り入れたり、動物の耳に見立ててコラージュをして遊んだりした。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・藤の落ち葉を段ボールの仕切りの中に集めておく。 ・園内の自然の変化に関心をもてるように、季節ごとに写真を残しておく。
幼児の姿	援助のポイント
<p>好きな遊びの時間になると、いつもは園庭にない段ボールの仕切りを見付け「先生、これ何？」と多くの幼児が集まってくる。「<u>昨日の夜、風が強くて葉っぱがたくさん落ちてたから、集めておいたの。落ち葉のプールだよ。</u>」と伝え、保育者が段ボールの中に入り、<u>葉っぱをすくったり、上から降らせたりする。</u>保育者の真似をして「<u>落ち葉のシャワー。</u>」と言い、上から葉を降らせることを繰り返す幼児、園庭に落ちている落ち葉を拾ってきて段ボールの中に入れる幼児がいる。</p> <p>降園活動で、保育者が<u>寒くなると葉の色が変わることや葉が落ちることを伝える</u>と、「知っている。」「えー！？そうなの？」「枯れちゃうの？」など自分の感じたことや思ったことを言葉にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの自然を遊びに取り入れられるよう、タイミングを逃さず計画・準備する。 ・プール遊びの経験を思い出し、イメージをもって遊べるような言葉を掛ける。 ・保育者が実際に落ち葉を降らせるなどの動きをし、モデルとなる。 ・季節の変化を感じられるよう、木の様子を保育者が言葉に出して伝えていく。
幼児の経験している内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・藤棚の落ち葉という身近な自然を取り入れて遊ぶことを楽しむ。(自然) ・葉の色の変化や落ち葉など自然の変化を知る。(自然) ・開放感を味わいながら、落ち葉に触れて遊ぶ。(自然)(健) ・友達と一緒に見立てたり、同じ場に集まったりすることを楽しむ。(協) 	

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「ドラムサークル(ジャンベ体験)」

幼稚園 2年保育4歳児 11月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を使って、音を出したり、楽器を作ったりすることを楽しむ。 		
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・自発活動や学級の活動で、鈴やかスタネットを使って、リズム遊びや楽器遊びをした。 ・親子でドラムサークルを経験し、太鼓(ジャンベ)の鳴らし方を知り楽しさを味わった。 		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・共通に経験したことを遊びにいかせるように、洗面器の太鼓やリボンをすぐに提示できる場所に準備しておく。 		
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">幼児の姿</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">援助のポイント</td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント
幼児の姿	援助のポイント		
<p>A児はドラムサークルが終わると、すぐに空き箱をたたいたり、トイレットペーパーの芯でいろいろな場所をたたいて音を鳴らしたりし始める。そこで、<u>保育者が洗面器にガムテープを貼り、太鼓を作って渡すと</u>、A児は嬉しそうに太鼓をたたきながら歌を歌う。</p> <p>次の日、A児は登園するとすぐに身支度を済ませ、洗面器の太鼓を持ち園庭に出たが、太鼓を手を持ったままでは遊びにくかったようで保育室に戻ってくる。すると製作コーナーに太鼓を持っていき、太鼓が首にかかるように、リボンを洗面器に付け始める。太鼓を首にかけてみるが思い通りにいかず、何度もリボンの長さを調節したり、貼る場所を変えてみたりする。そこへ、<u>園長が通りかかり、「あら、すてきね。」と声を掛ける。</u>A児は喜んで太鼓をたたいて見せるがすぐに太鼓がひっくり返ってしまい、「うまくいかない。」とつぶやく。そこで園長が「こうしてみる？」とA児の太鼓にリボンをつけ腰に巻くとA児は「いいね。」と言って得意げに太鼓を鳴らしながら、友達に見せて歩く。</p>			
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">幼児の経験している内容</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">援助のポイント</td> </tr> </table>		幼児の経験している内容	援助のポイント
幼児の経験している内容	援助のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて出合う太鼓(ジャンベ)の音を聞いたり音を鳴らしたりすることで心が動き、身の回りの素材を用いて音を出すことを楽しむ。(豊) ・思いを実現しようと、何度も繰り返し自分なりに工夫する。(豊) (自立)(思) ・自分の作ったものを認められたり、共感してもらえたりすることの気持ちよさを味わう。(協) 			

【4歳児・5歳児の保育】

4歳児V期

4歳児 V期（1月～3月）


資質・能力 育みたい	幼児期の終わり までに育ってほ しい姿（10の姿）	5 領域	生 きる 基 礎 力	経験させたい内容
知識や技能の基礎	健康な心と体 （健）	健康	健康・ 体力につな がる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは、自分です。 ・自分の健康に関心を持ち、様々な食べ物を進んで食べようとする。 ・気持ちよく食事をするために、挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の文化を知る。 ・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。
	自立心 （自立）			
	協同性 （協）			
思考力・判断力・表現力等の基礎	道徳性・規範意識 の芽生え （道）	人間関係	豊かな 人間性につ ながる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 ・クラスのみなどと一緒に活動する中で、満足感を感じたり学級の仲間としてのつながりを感じたりする。 ・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児と交流したり、当番の引継ぎなどをしたりして、年長児の生活に期待をもつ。 ・よいこと悪いことに自分で気付き、自分なりに考えて行動する。 ・簡単なルールを作ったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
	社会生活との 関わり（社）			
	思考力の芽生え （思）			
学びに向かう力・人間性等	自然との関わり・ 生命尊重（自 然）	環境	確かな 学力につな がる	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然現象や冬から春への自然の変化に関心を持ち、感動したり疑問をもったりする。 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字などに興味や関心をもつ。 ・保育者や友達の話聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、進んで使ったり、自分から挨拶したりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。 ・友達と気持ちを合わせて歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 ・遊びに必要な物を工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。
	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚（数）	言葉		
	言葉による伝え 合い（言）	表現		
	豊かな感性と表 現（豊）			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしようとする姿や、自分なりにやっているところを十分に認めていく。 ・生活習慣が身に付いているか、自分できちんとできているか確認しながら一人一人に対応して身の回りの始末、うがい、手洗い、食事のマナーなどを指導していく。 ・自分でできたという自信がもてるように、個々に試したり考えたりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて相談に乗ったり、方向性を示したりする。 ・進級に向けて自分たちで生活を進めていくようにする。 ・積極的に戸外に出るように、戸外で行う子供たちの興味や関心に即した遊びを取り入れ、体で寒さや暖かさを感じられるようにする。 	<p><寒さを感じながら体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるように></p> <p>凧あげ、サッカー、なわとび、助け鬼、氷鬼、バナナ鬼、中あて</p> <p><日本の伝統や文化に触れることができるように></p> <p>はねつき、ふくわらい、すごろく、豆まき、雛飾りなど</p> <p><自分なりの目当てをもって体を動かして遊べるように></p> <p>縄跳び、フープ遊び、鉄棒、巧技台、ボール遊びなど</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引継ぎの機会を設けたりして、5歳児になることへの期待をもたせていく。 ・異年齢児との関わりの中で自分たちのしていることを見せたり、一緒に遊んだりして小さい子どもたちへの関心を高めていく。 ・もうすぐ5歳児になるという期待を十分に受け止め、そのことが自分で様々なことに取り組んでいこうとする意欲につながるくよう援助する。 ・1年間を思い返したり、楽しかったことを再現したりしながらみんなで成長を喜びとともに5歳児になることに期待をもてるようにする。 ・一人一人が自分の思いやイメージを出したり伝えたりできるよう仲立ちしていく。また、友達と気持ちが通じるうれしさやつながりを感じている姿、一緒に遊ぶ楽しさに共感していく。 ・友達と思いが通じなかったり、遊びが停滞した時には仲間に入ったり、他の遊びの様子を知らせたりするなど場に応じて援助する。 	<p><異年齢児との関わりや行事への参加を通して5歳児になる期待がもてるように></p> <p>当番活動の引継ぎ 交流昼食 お別れ会 修了（卒園）プレゼント製作 修了（卒園）式への参加</p> <p>→事例「カメさん持てたよ！」</p> <p><簡単なルールをつくり友達と遊びを進めていけるように></p> <p>助け鬼 色鬼 中あて ドンジャンケン じゃんけん自動車など</p> <p>→事例「鬼やりたいのに」</p> <p><友達と一緒にイメージを広げながら遊ぶ楽しさを感じられるように></p> <p>おうちごっこ お店ごっこなどのごっこ遊び</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から目的を見付けて取り組む姿を十分に認めたり、励ましたりしていく。 ・目的を見付けにくい子どもには、周りの子どもの様子を知らせて刺激にしたり、興味のもてそうな活動に誘ったりしながら、自分の目的を見付けられるように援助する。 ・興味のあることを追及したり、イメージを実現したりできるう、用具や材料を用意したり、よりよい方法を知らせたりしていく。 ・イメージを膨らませたり、友達と楽しさを共感したりできるような絵本や童話、音楽などを用意する。 ・友達と大まかな遊びのイメージを共有したり、イメージや思いを伝え合ったりして、自分たちで遊びを進めていくための時間と場、遊具などを十分に保障していく。 ・様々な場面で一人一人のよさや取組を認め、他の子どもに伝えることで、クラスの中で、一人一人が自信をもてるようにする。 ・冬から春の様々な自然に気付くよう声をかけていく。また、子どもの驚きや発見に共感していく。 	<p><イメージを実現する楽しさを味わいながら自分の力を発揮するように></p> <p>鬼のお面作り ひな人形作り</p> <p><イメージを膨らませたり、友達と楽しさを共感したりできるように></p> <p>絵本「おまえうまそうだな」「すてきな三にんぐみ」「しょうぼうじどうしゃじぶた」「だいくとおにろく」「おいしいのぼうけん」など</p> <p>歌「たのしいね」「にんげんっていいな」「鬼のパンツ」「ひなまつり」</p> <p><文字や数量、図形に興味をもてるように></p> <p>すごろく トランプ かるたなど</p> <p>→事例「ハンバーガー屋さんの値段表を作ろう」</p> <p><大まかな遊びのイメージを共有し遊びを進めていけるように></p> <p>ゲームボックス 巧技台 段ボールで作った衝立などの大型遊具</p> <p>→事例「ラーメンに入っている具は？」</p> <p><植物の成長を楽しみにできるように></p> <p>ヒヤシンス チューリップ スイセンなど</p>

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

「鬼やりたいのに」


幼稚園 2年保育4歳児1月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • 簡単なルールを作ったり守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> • 2学期から「氷鬼」に繰り返し取り組む。初めは鬼役をやりたい幼児が順番にできるよう保育者が調整していたが、兄弟から鬼決めの歌を教わった幼児がみんなに伝え、自分たちでやってみようとするようになった。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> • 安全面に配慮し、他の遊びと場が重ならないようラインを引く。 • 鬼役が誰か分かりやすいよう、カラー帽子で色分けする。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>幼児が集まり、鬼決め歌に合わせて鬼役を決めると、A児が「鬼やりたいのにー！」と泣き出す。保育者「みんなで決めているんだよね、でもA君も鬼をやりたいんだね。」と状況を言葉にする。B児「A君も鬼でいいんじゃない?」、保育者「鬼が二人でもいいってこと?」、B児「うん。」と三人で話をしていると、<u>子役の幼児が逃げ始めたため、保育者が声を掛け集める。</u></p> <p>保育者「今C君が鬼に決まったんだけど、A君も鬼をやりたいんだって。B君は、二人とも鬼でいいって言うんだけど…。B君はどうして二人でもいいと思うの?」、B児「その方が面白いと思うから。」ほとんどの幼児が「いいね。」とうなずく。</p> <p>D児「じゃあ鬼が三人でもいい?」と言うと、E児「それじゃあすぐ捕まっちゃうよ。」と言う。保育者はずっと黙ってうつむいているF児に「F君はどう?」と声を掛ける。F児「二人でもすぐ捕まるから嫌だ。」B児「大丈夫だよ、なかなか捕まらないのもつまらないよ。」保育者「じゃあ鬼二人でやってみて、やっぱりすぐ捕まるから嫌だと思ったら、また相談してみるのはどう?」と提案すると、F児は「分かった。」と答える。</p> <p>鬼役が二人になるとより追ったり逃げたりするスピードが速くなり、F児も笑顔で繰り返し取り組む。<u>保育者が「みんなで決めた人数でやってみたら面白かったね。」と伝えると、笑顔で「うん。」と答える。</u></p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の経験している内容 援助のポイント </div>	
<ul style="list-style-type: none"> • 遊びをより楽しくする方法を考え、ルールを変えようとする。(道) • 友達の考えを聞き、自分の気持ちを調整しようとする。(道) • ルールを変えると遊びがより楽しくなることを感じる。(道) 	
	

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づき、これらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

「ハンバーガー屋さんの値段表を作ろう」

保育園 4歳児1月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • 遊びの中で必要感をもち、標識や文字を使おうとする。 • 遊びをとおして、数量に興味・関心をもつ。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> • ハンバーガー屋さんごっこに必要なもの（食材、道具、お金など）を、保育者と一緒に製作する。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> • 落ち着いて取り組めるように、遊びの場を用意する。 • 必要なものを製作できるように、製作コーナーを設定する。
<p>幼児の姿</p>	<p>援助のポイント</p>
<p>ハンバーガー屋さんごっこを、A児B児C児が店員役になって始める。保育者がお客さんとなり値段を尋ねると、3人がそれぞれに発言し意見がまとまらない。保育者が「書いてあると分かるのにな。」とつぶやくと、「値段表を作ろう。」と言って作り始める。</p> <p>B児が黄色のペンを選んで書く。保育者が「<u>どうして黄色にしたの?</u>」と聞くと、「だってポテト（の色）だから。」と言う。C児がそれを聞いて「いいね、じゃあハッピーセットはカラフルにしよう。」と品物をイメージした色のペンを選ぶようになる。それを見ていたD児が「これ何て読むの?」とC児に尋ねる。<u>「字だと何て書いてあるか分からない友達もいるよね。」と保育者が言う</u>と、「じゃあ絵も描こう。」と描き加える。</p> <p>「ぼてと100円。」「はっぴいせっと300円。」と聞き慣れた値段設定にする。しかし、用意していたお金が10円玉のみだったので、「<u>100円だと10円が10枚必要になるよ。</u>」と保育者が実際に数えて見せる。するとB児は「多いね、すぐにお金が無くなっちゃう。」と気付く。A児が「じゃあ10円にしよう。」と提案したことで、意見が一致し値段は10円に決定する。</p> <p>その後、C児が「ここ（胸）に付ける物も作りたい。」と言ったので、店員役の名プレートも用意し、お店が始まる。</p> <p style="text-align: center;">幼児の経験している内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 遊びの中で必要感をもち、値段表を作る。(数) • 知っている言葉や数字を使う。(数) • 相手に伝わるように品物がイメージできる色を選んだり、絵を描いたりする。(数) • 値段を考える中で、数量に触れ関心をもつ。(数) • 友達の考えを受け入れながら遊ぶ。(協) 	<ul style="list-style-type: none"> • イメージしたものを作れるように、ハサミやペンを製作コーナーに用意する。 • 幼児がこだわっている部分に関心を寄せ、幼児の思いを引き出す。 • 字が読めない友達がいることに気付かせ、どの子にも伝わるにはどうしたらよいか、自分たちで考えられるようにする。 • 幼児が考えた値段を、ごっこ遊びで使うお金を使って実際に示すことで、幼児が値段とお金の量に気付いたり、お金の単位に関心をもったりできるようにする。 

言葉による伝え合い

先生（保育士等・保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

「ラーメンに入っている具は？」

幼稚園 2年保育4歳児1月

ねらい	・保育者や友達と一緒に遊びを進めていく中で、経験したことや知っていることを言葉で伝えようとする。
これまでの経験	・12月、5歳児の蕎麦屋さんに招待してもらった。1月のある日、幼児が「もう1回お店に行きたいな…でももうやってないし…」とつぶやき、それを聞いた学級の友達と保育者は、自分たちのラーメン屋さんを開こうという話をした。
環境構成	・画用紙やペン、折り紙などが常設されている製作コーナーに、ラーメンのイメージにつながりそうな毛糸、どんぶり、小さく切った黒のクレープ紙を加えておく。

幼児の姿	援助のポイント
<p>登園後、黒のクレープ紙を見つけたA児が「それ、のり？」と保育者に尋ねる。保育者は「<u>そう、ラーメンに入れようと思って。</u>」と答え、<u>どんぶりに黄色の毛糸と黒のクレープ紙を入れて見せる。</u>B児が「ラーメンはナルトとかネギもあるよ。」と言うため、保育者は「ナルトいいね、<u>どうやって作ろうか。</u>」と、<u>白画用紙をナルトの形に切る。</u>A児は「<u>ピンクのぐるぐるがないと。</u>」と、ピンクのペンを持ってきて渦巻き模様を描き入れる。保育者「本物みたいでいいね。他にも何かいるかな？」C児「お肉！茶色！」保育者はC児と一緒に茶色の画用紙を探し、<u>しわを付けて丸く切る。</u>D児が加わり、自分で白画用紙をナルトの形に切り取り始める。さらに保育者が、緑の折り紙を筒状に細く丸め、ハサミで短く切りネギに見立てると、E児が真似る。D児やE児の姿を見て、他の幼児も自分で材料を探しながら思い思いの具材を作っていく。具材ができてくると、A児とB児がどんぶりを持ってきてラーメンを作り始める。2人は近くで遊んでいたF児のもとへ行き、A児「ラーメン屋さんです！」B児「一丁上がり！」と声を掛ける。F児「醤油ラーメン1つください。」B児「はい、少々お待ち！」とお店のやりとりを楽しんでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーメンについて思い出せるきっかけを作ること、幼児が自分なりにイメージを広げられるようにする。 ・幼児のイメージを共感的に受け止める。 ・幼児の言ったことを実現する方法を示すことで、伝わった嬉しさや楽しさを感じられるようにする。



幼児の経験している内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ラーメンやラーメン屋について、知っていることや「こうしたらいい」と考えたことを保育者や友達に言葉にして伝える。 (言) ・店員や客になりきって、言葉でやりとりすることを楽しむ。 (言) ・身近にある様々な素材を使って、遊びに必要なものを作る。 (思)(豊) 	

【4歳児・5歳児の保育】

5歳児1期

5歳児 I期（4月～5月）


資質・能力 育みたい	幼児期の終わり までに育ってほ しい姿（10の姿）	5 領域	生 きる 力 の 基 礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎	健康な心と体 （健）	健康	健康・ 体力につな がる	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知り、行おうとする。 ・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。 ・手洗いやうがいなど、必要に応じて自分から行う。 ・進んで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。 ・新しい遊具・用具に関わり使い方を理解し安全に使おうとする。 ・様々な用具・遊具を組み合わせながら、体を十分に動かして楽しむ。 ・渡る、登る、ぶら下がるなど、多様な動きを楽しむ。
	自立心 （自立）			
	協同性 （協）			
思考力・判断力・表現力等の基礎	道徳性・規範意識 の芽生え （道）	人間関係	豊かな 人間性につな がる	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。 ・当番のやり方が分かって、自分なりに取り組もうとする。 ・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさやつながりを感じる。 ・友達と一緒に、必要なものや場を作り、最後まで活動する喜びを味わう。 ・新しい生活の中での決まりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒に作る。 ・友達との関わりの中で、ルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。 ・年下の子どもに対して親しみの気持ちをもって接したり世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもつ。 ・儀式などの行事を通して国旗、国歌、区歌、園歌に親しむ。 ・地域の方々と触れ合ったり近隣施設を訪ねたりして、地域への親しみをもつ。
	社会生活との 関わり（社）			
	思考力の芽生え （思）			
学びに向かう力・人間性等	自然との関わり・ 生命尊重（自 然）	環境	確かな 学力につな がる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が関心をもったことに対して、考える、試す、取り入れて遊ぶなど、積極的に関わる。 ・砂や泥や水の感触を楽しみ、特性に気付いたり試したりする。 ・動植物や自然現象に親しみや関心をもち、世話の必要性を感じる。 ・考える、試す、調べる、自然を取り入れて遊ぶなどする。 ・遊びや生活の中に色、数、形などを取り入れて関心をもつ。 ・簡単な標識、文字などに興味や関心をもつ。 ・自分の気持ち、考えや発見などを伝えたり、相手の話をよく聞いたりして、伝わる嬉しさを感じる。 ・保育者や友達、身近な人に対して、自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。 ・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きをのびのびと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。
	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚（数）	言葉		
	言葉による伝え 合い（言）	表現		
	豊かな感性と表 現（豊）			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のしたい遊びをしたり、友達や保育者との関わりを楽しんだりしながら、学級のつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、進んで行く。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場を保育者とともに一緒に考え作っていく中で、5歳児になった喜びを味わえるようにしていく。 ・基本的な生活習慣（身の回りの始末、食事の準備や後片付け、手洗い、うがいなど）を見直し、自分でできることをやっつけていこうとする姿や気持ちを認め励ましていく。 ・これまで経験してきた運動遊びをしながら、一緒に動くことや、友達と触れ合うことを楽しみ、学級のつながりを感じ取れるようにする。 ・5歳児ならではの遊具・用具の扱い方を知らせ、安全のための約束を幼児とともに考えていく。 	<p><年長としての生活に安心感と喜びがもてるように> 当番活動 誕生会の司会など、園の行事を進めていく活動 5歳児ならではの運動用具を使った遊び →事例「ロープで手作りアスレチック」 手洗いうがいのポスター <友達と誘い合って、体を動かして楽しむために> 氷鬼・色鬼・助け鬼・手つなぎ鬼・鉄棒・ボール遊び 雲梯 ジャングルジム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・進級の喜びや環境の変化に対する戸惑いなど、一人一人の気持ちを受け止めて寄り添い、分かりやすく心地よい生活の仕方をともに考えるとともに、4歳児の時に慣れ親しんだ遊びもできるようにし、安心して過ごせるようにする。 ・個で取り組んでいる姿や友達と取り組んでいる姿を受け止め、必要に応じて考えていることを整理したり、技能的な援助をしたりして、遊びの満足感を味わえるようにする。 ・生活の中で困ったことが起きたときに、学級で考え合う時間を大切にし、みんなが過ごしやすい生活の仕方を徐々に作りあげていく。 ・遊びを楽しむことを積み重ねながら、様々な問題が起きたときに保育者も仲間になって考え会い、ルールを守る必要に気付いていくようにする。 ・それぞれの幼児の関心のもち方に応じて無理なく異年齢児と関わる機会をつくり、成長の喜びを共感する。 ・地域への親しみを感じられるように、安全面に十分配慮し園外に出かける計画を立て、地域の方々と触れ合ったり施設を活用したりする。 	<p><自分なりに新しい環境に関わって遊びを進めるために> 大型積み木、巧技台、板段ボール、衝立、ゲームボックス <友達と誘い合って遊びを楽しむために> 空き箱類、様々な紙類、粘着テープ類、カセットデッキカセットテープなど <年長としての喜びをもって生活を作っていくために> 靴箱やロッカーの使い方、遊具や用具の置き場所、新入園児への関わり方などの話し合い、当番活動 <学級の一因だという気持ちももてるように> フォークダンス（ラウンドチェーン、タタロチカなど）、じゃんけん列車、あらしあらし、ねことねずみなど <ルールを守ることの大切さに気付いていくために> リレー、しっぽとり、中あて、椅子取りゲームなど <役に立つ喜びを味わい、年長としての自覚をゆっくり育てるために> 新入園児の身支度の世話、歓迎会、片付けの手伝い <地域の文化に触れながら、親しみをもてるように> 園外保育→事例「柴又散歩」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある自然物を見たり触れたり調べたりして興味関心を深め、心を動かせるよう、自然に関する絵本、図鑑、虫眼鏡、虫かごなどを用意するとともに、保育者も共に関心を寄せ、学級の共通の話題にしていく。また必要に応じてICT 機器を有効に活用していく。 ・飼育栽培物の世話等は、手順や方法を一緒に確認したり分かりやすく表示などで示したりし、時間を十分に保障して仲間と進められるように援助する。 ・生活や遊びの中で必要感に基づいて色、数、形、文字などに触れる体験ができるよう、機会を逃さず環境を整えておく。 ・相手の思いを感じ取れるように、相手の表情や動きに気付かせたり、思いを言葉にして伝えたり、相手の思いを聞くように援助したりする。 ・自分なりに考えを言葉や動きで出しながら、友達と一緒に取り組んでいく機会を意図的に作るようにする。 ・遊びのイメージが広がるように素材や遊具を用意し、提案したり幼児が自分たちで気付いて取り入れたりできるようにする。 	<p><自ら、考え、試し、工夫するために> 砂、水、泥、絵具、空き容器、接着用素材 <身近な自然と関わるために> 飼育栽培、ダンゴムシ、幼虫、チョウ、色水づくり →事例「ウサギの小屋掃除」 <簡単な標識や文字を取り入れるために> ロッカーや靴箱の表示決め、遊びの場所の看板づくり 新入園児のプレゼント準備 <言葉をはぐくむために> 帰りの会の話し合い、絵本（不思議なナイフ、へんてこはみがきこ、わんぱくだん） <表現を楽しむために> 先行経験のあるリズム、歌（「春が来たんだ」、「ホホホ」、「こいのぼり」、「おかあさん」など）</p>

幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

「ロープで手作りアスレチック」

幼稚園 2年保育5歳児5月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> これまで親しんできた遊具と新しい用具を組み合わせ、多様な動きを楽しむ。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 園庭の固定遊具（雲梯、ジャングルジム、滑り台）や、遊戯室の巧技台などを使って、体を動かす遊びに繰り返し取り組んでいる。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きを引き出せるように、雲梯の下にロープを2本平行に結び付けておく。 いつでも場を作り変えられるよう、ロープを固定遊具の近くに置いておく。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>ロープに気付いた幼児が集まり、1本のみで綱渡りのように渡ったり、両足を広げて2本で渡ったりする。<u>保育者がロープをU字状に結び付けると、幼児は「ブランコみたい！」と立ったり座ったりして体を前後に揺らす。人数が増えてきたため、保育者はロープを雲梯の隣のジャングルジムまでつなぐ。幼児は渡ったり、ロープにしがみついてぶら下がろうとしたりする。</u></p> <p>3日目、保育者は高いところからロープを垂らしておく。ロープに気付いた幼児が「ターザンみたい！」と言ってしがみつく。保育者は幼児が安全に遊べるよう、<u>順番を調整したり幼児の様子に合わせてロープを揺らしたりする。</u>次に保育者は滑り台の上からロープを垂らす。幼児が「山登りしよう！」と言ってロープをつかみながら斜面を登っていく。繰り返し遊ぶうちに幼児が「ここもつなげたい。」と保育者に伝える。<u>保育者は幼児に場所を尋ねながら、一緒にロープを結び、場を作り変える。</u></p> <p>「この方が高くて渡るのが難しいよ。」「おサルさんみたいに足をつかないで登れないかな。」など、自分なりにイメージやめあてをもって取り組む。保育者も幼児の動きを真似たり、<u>新しい動きのモデルを示したりする。</u>数日にわたって取り組む中で、「先生、とれない結び方教えて。」と自分で安全な場を作ろうとする幼児も出てくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きを経験できるよう、幼児の動きに合わせてながらロープで遊べる場を作り変えていく。 初めての用具や動きが多く、またロープを使っているため、安全面に十分配慮して見守りを行う。 幼児一人一人の発想を受け止め面白さに共感したり、新しい動き方を楽しめるように一緒に場を作り変えたりする。 幼児が自分で安全に遊ぶ場を作れるよう、使い方を指導したり一緒に確認したりする。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の経験している内容  </div>	
<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具や遊具を組み合わせながら、体を十分に動かして楽しむ。(健) 渡る、登る、ぶら下がるなど、多様な動きを楽しむ。(健) 自分で安全で楽しい遊びの場を作り出そうとする。(健) 	

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

「柴又散歩」


幼稚園 2年保育5歳児5月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 散歩することを通して、戸外の心地よさや地域の文化に触れ、地域に親しみをもつ。 		
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 4月の親子遠足の際に、幼稚園から江戸川土手まで歩いて行った。柴又帝釈天の横を通るので、「今度みんなで遊びに来ようね。」と声を掛けると、「前の年長さんも行っていたよね。」「楽しみ。」などと話していた。 		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーに予定を書きおいたり、事前に柴又散歩について話をしたりして、期待をもてるようにする。 		
<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:50%;">幼児の姿</td> <td style="width:50%;">援助のポイント</td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント
幼児の姿	援助のポイント		
<p><u>交通ルールを確認した後、幼稚園を出発し、2人組で手をつないで歩く。途中道路の反対側のお店にだるまが飾ってあったため、「見て。」と保育者が声を掛けると「だるまだ。」「大きいね。」と答える。『だるまさんが転んだ』のだるまでしょ。」</u>という幼児もいる。保育者が「願いごとが叶ったら、目を描くんだよ。」と教えると、「目あるかな？」と遠くにあるだるまをよく見ようとする。</p> <p>目的地の柴又帝釈天に到着すると、みんなで境内を回る。保育者が看板の説明文を見ていると、ある幼児が「この松は龍の形なんでしょ。」と言う。それを聞いて他の幼児も会話に入り「へー。」「龍って何？」「ドラゴンのことでしょ。」「あっちまで（枝が）あるよ。」などと盛り上がる。</p> <p>帰りは参道の商店を歩いて帰る。参道ならではの店が多く、珍しそうに見て歩く幼児もいる。お店の人から「みんなで散歩？」と声をかけられると、保育者と一緒に幼児も「<u>こんにちは。</u>」と口々に挨拶する。「元気だね。」「気を付けてね。」と見送られ、元気に幼稚園まで歩いて帰る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達ときちんと手をつなぐ、前をよく見て歩く、車や自転車に気を付けるなど、交通ルールを学級全体で確認したり、個別に声を掛けたりする。 身の回りのものに関心を持ち、出合いを広げられるよう、保育者自身もアンテナを張り、話題に取り上げたり、幼児の気付きを拾って周囲に伝えたりする。 幼児が見つけたものなどを写真に撮ることで、帰ってきた後みんなで振り返ったり、共有したりできるようにする。 保育者がモデルとなることで、挨拶を交し合う心地よさを感じられるようにする。 		
<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:50%;">幼児の経験している内容</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table>		幼児の経験している内容	
幼児の経験している内容			
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが住んでいる地域やその文化について知り、興味や関心をもつ。（社） 自分の知っていることや気付いたことを保育者や友達に教える。（社）（言） 地域の人と挨拶したり、言葉を交わしたりする。（社） 交通ルールを知り、安全に気を付けて歩く。（健） 			

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちをもって関わるようになる。

「ウサギの小屋掃除」

幼稚園 2年保育5歳児4月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育しているウサギの世話の仕方を知る。 	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの世話の仕方を、4歳児2月頃から5歳児に教えてもらい、見たり一緒にやらせてもらったりしていた。 ・普段はウサギを観察したり、保育者の抱いているウサギをなでて触れ合ったりしている幼児が多い。しかし、A児はウサギ当番で、手や服が汚れることに抵抗を強く感じ、当番活動への意欲がもちにくかった。 	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・当番の流れがわかるように、手順表を使い、視覚的に示す。 ・日頃からウサギと関わるができるよう、ウサギが過ごす場に幼児が自分で出入りできる環境を用意する。 	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>当番活動を保育者が一緒に取り組む中で、ウサギのトイレに使う新聞紙の丸め方やフンがーか所に集まるような容器の傾け方など、少しでも手を汚さずにできるような手本を見せながら幼児と一緒に<u>行う</u>。その中で、「<u>みんなのお部屋が(うんちで)汚れていたらどう?</u>」と問い掛けると「いやだ。」「気持ち悪い」などとA児をはじめ、同じグループの幼児が次々に答える。「みんなの使うトイレがきれいなのはおうちの人が毎日掃除してくれているからだよ。」と言うと、「そうだよ。」と言う幼児や黙ってうなずく幼児がいる。A児も黙ってうなずく。</p> <p>次の当番活動では、表情を曇らせながらもA児なりにできることを見つけてグループの友達と一緒に当番活動に取り組む姿が見られるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が実際にやって見せて活動の手順を知らせ、一緒に手伝うことで、やり方が分かり安心して活動に取り組めるようにする。 ・身近なものに例えることで、ウサギの小屋掃除の必要性に気付けるようにする。 ・日頃から、保育者が触れる姿を見せたり、幼児が触れる機会や場を設けたりすることで、飼育物に親しみをもてるようにする。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの世話の必要性を感じる。(自然) ・ウサギと触れ合ったり世話したりすることで親しみをもつ。(自然) ・当番活動のやり方が分かり、自分なりに取り組もうとする。(自立) 	

【4歳児・5歳児の保育】

5歳児Ⅱ期

5歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

資質・能力 育みたい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	5領域	生きる力の基礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎	健康な心と体（健） 自立心（自立） 協同性（協）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの使った遊具や保育室をきれいにしたり、共通の場をみんなで片付けたりする。 汗を拭く、衣服の調節、手洗い、うがい、水分補給などを自分で気付いて行う。 栽培している植物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。 いろいろな運動遊びに興味をもち、様々な体の動きを楽しむ。 水遊び、プール遊びなど、季節ならではの遊びを通して、思い切り活動する充実感を味わう。 遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。
	道徳性・規範意識の芽生え（道） 社会生活との関わり（社） 思考力の芽生え（思）	人間関係	豊かな人間性につながる	<ul style="list-style-type: none"> 一日の園生活に見通しをもち、状況を受け止めて自分なりに動こうとする。 友達と十分に関わり、いろいろな遊びを進める。 友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められた嬉しさを感じる。 自分と発言が違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 分からないことを自分から聞いて、解決を図ろうとする。 友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 地域行事に参加したり、地域の文化に触れたりして、親しみをもつ。 夏休みにそれぞれが経験したことを伝え合い、関心をもつ。 園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせあったり確認したりして守ろうとする。 友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりしようとする。
	自然との関わり・生命尊重（自然） 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（数） 言葉による伝え合い（言） 豊かな感性と表現（豊）	環境	言葉	確かな学力につながる



ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に触れ、自分なりの目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 ・友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 ・自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要なことに気付けるよう、学級のみんなのこととして取り上げて考え合う時間を設け、その内容について掲示物を活用したり言葉掛けを行ったりしていく。 ・自分から気付いて衣服の調節や汗の始末、水分補給や休息ができるように、学級でその大切さを知らせ、話題にしていく。 ・野菜の収穫や調理活動、みんなで食事をする機会などを通して、食への関心や期待を高めていく。また、野菜のもつ栄養や食べ物と体の関係についても話をするなど、自分の体や健康が食事とつながっていることに関心を向けさせていく。 ・水に親しみ経験を広げるために、自分なりに楽しむ時間とみんなで同じ動きを楽しむ時間を設けていく。解放感に共感してともに楽しみ、挑戦する姿を認め周りの幼児にも伝えていく。 ・安全な遊具用具の使い方を学級や個別に確認し、意識して遊ぶようにする。 	<p>＜必要なことに気づき、行えるように＞ 保育室や砂場、ホールなど共有スペースの片付け ＜季節の変化に合わせた健康管理ができるように＞ 手洗い、うがい、汗の始末、水分補給 ＜職への関心を高めるために＞ 夏野菜の栽培、収穫、調理、会食</p> <p>＜季節ならではの遊びを通して、思い切り体を動かせるように＞ プール遊び、水鉄砲</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・友達と声を掛け合って、生活を進めていこうとする姿を認めていく。 ・自分の力で生活を進められるように、園と家庭が十分に連携をとる。 ・友達と思いを出し合ったり受け入れたりしながら遊びを進めていけるように、遊びに必要な場や物作りができる材料や用具を準備する。 ・友達の考えを意識したり気付いたりできるよう、言葉を掛けていく。 ・幼児同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、幼児が自分で乗り越えられるように励ましたり見守ったりして気持ちを支えていく。 ・生活の中で気付いたことや問題などを、みんなのこととして捉え解決に向けて考えを出し合うように話し合う機会を作る。これまで守ってきた決まりや遊びのルールも、機会をとらえて必要性についてみんなで確認する。 ・地域の方を講師に招き行う活動などを企画し、親しみをもつようにする。 ・それぞれの夏休み中の経験を把握し、話題にしながら周りにも伝えていく。 	<p>＜生活に見通しをもち、必要なことに気づき、互いに声を掛け合って行動できるように＞ 時計、日程表、カレンダーの活用 ＜友達と考えながら遊びに必要な場や物を作るように＞ 段ボールを使った場づくり、空き箱などを使った製作</p> <p>→事例「<u>プラネタリウムをつくろう</u>」「<u>11ぴきのねこごっこ</u>」</p> <p>＜ルールを守ることで遊びの楽しさが増すことを実感できるように＞ ラインサッカー、ドッジボール、リレー、助け鬼、しっぽとり じゃんけん鬼 ＜地域の方々や地域の文化に触れ親しみをもつように＞ 地域盆踊り「葛飾音頭」、郷土と天文の博物館</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分に発揮できるようにする。 ・飼育栽培物の世話をしながら気付いたことや今までの経験で知っていることを取り上げて、学級内で伝え合い、みんなで、愛着を共有したり生長に喜びや期待をもったりしていく。 ・幼児の気付きに保育者も関心を寄せ、一緒に驚いたり不思議さに共感したりする。また、それらのことを誰もが調べられるようにし、分かったことやその喜びを共有できるようにする。 ・数、量、形、文字など、生活や遊びの中で幼児にとって必要と感じるところに活用することを提案していく。 ・自分の思いを表現し、友達に伝えている様子を認めたり、伝えるように言葉や言い方を知らせたりして援助する。 ・共通のイメージがもてるような絵本や物語を学級で読んだり、遊びの流れができるような表現遊びなどを積極的に取り入れたりしていく。 ・季節を感じるリズムカルな歌を、みんなで口ずさむことを取り入れていく。 	<p>＜十分に試したり工夫したりできるように＞ 空き箱製作、船作り、水路づくり、シャボン玉、色水遊びなど</p> <p>→事例「<u>ダンゴムシ実験!</u>」「<u>ロケットをつくろう</u>」</p> <p>＜園庭の生き物、栽培物や植物の様子に関心をもち、よく見たり調べたりするように＞ 虫捕り、夏野菜栽培、色水作り 図鑑など ＜遊びや生活の中で、色、数、形、文字などに関心をもちように＞ 形、大きさ、数を意識できる活動や遊具、用具の置き方の工夫→事例「<u>段ボール箱積み</u>」 文字を意識した保育環境 ＜イメージが共有される絵本＞ はじめてのキャンプ、からすのパン屋さん、にじいろのさかな、かいじゅうたちのいるところ など ＜季節感を感じ、イメージが広がる歌＞ あめふりくまのこ、たなばた、うちゅうせんにとつて、おばけなんてないさ、やっほっほ なつやすみ</p>

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

「プラネタリウムを作ろう」 保育園 5歳児7月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と楽しく活動する中で共通の目的を見出し、自分の考えを言ったり相手の考えを聞いたりしながら、工夫し、協力する。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 4歳児の時に、プラネタリウムに行った経験を生かし、室内の照明にカラーセロファンと穴をあけた黒画用紙を貼り、紙を丸めて折り紙を貼った惑星をテグスで吊るし、プラネタリウムを再現した。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを進めていくための場所や時間を十分に確保する。 イメージを実現できるような材料を各家庭にも呼びかけ豊富に用意しておく。 プラネタリウムで星の鑑賞をし、興味関心を深める。 宇宙の図鑑を幼児がすぐに手に取れるところに置いておく。

幼児の姿	援助のポイント
<p>昨年度学級で楽しんだプラネタリウム作りを今年もやることになる。保育者が「<u>遅番の時間に年下の友達も使う部屋だから、部屋の照明には貼れないね。どうしようか。</u>」と言うと「遅番の時だけはさすがのどうかな?」「段ボールで中に入れるようにするのは?」などの意見が出る。そこで、賛同する幼児が多かった段ボールで中に入ることができるものを作ることにする。「プラネタリウムって天井が丸くなっているよね。」など<u>幼児の考えを基に試行錯誤しながら保育者と一緒に骨組みを作り、カラーセロファンや黒の画用紙を貼って仕上げていく。</u></p> <p>学級の話し合いの中で、年下の兄弟がいる幼児が「妹、弟に見せてあげたいな。」と言う。「せっかくだからみんなに見せてあげようか。」と保育者が言う。「うん! プラネタリウム屋さんだね!」と言い、プラネタリウムに他の学年の友達を招待することになる。</p> <p>当日は中に入ることを怖がっている年下の友達に「先に入るから一緒に入ろう。」と声をかける幼児がいる。プラネタリウム屋さんが終わった後、「小さい子が喜んでくれると、嬉しい気持ちになるね。」「でも、たくさんの人に見てもらうのは、大変だった。」「みんなで力を合わせたから素敵なプラネタリウム屋さんになったんだね。」「みんなでやればどんなことでもできると思う。今度は何を作る?」など、たくさん言葉が出ていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いでまとまった共通の目的を明確にすることで、幼児の視野を広げるヒントを出す。 幼児がイメージした物を実現できるように助言したり、必要な部分は手伝ったりすることでイメージを実現させる満足感や達成感を味わえるようにする。
幼児の経験している内容	
<ul style="list-style-type: none"> 友達と考えを出し合ったり保育者の助けを借りたりしながら あきらめずに最後までやり遂げ、満足感を味わう。(協)(自立) 友達の考えを聞いて受け止めたり、考えたことを伝えたりする。(協)(道)(社)(言) 	 

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

「11 ぴきのねごっこ」

幼稚園 2年保育5歳児7月

ねらい	・友達と一緒に共通のイメージをもって遊ぶことを楽しむ。	
これまでの経験	・以前 11 ぴきのねごっこをしてから、約1 週間ぶりにA児がねこのお面を見つけて被ったことをきっかけに、保育者と一緒に絵本に出てくる魚作りをした。途中でB児ら他数名が仲間に入り、完成したところで片付けになった。	
環境構成	・絵本「11 ぴきのねこ」に出てくる船作りなど、共通の目的をもって遊べるように、大型積み木のあるホールで遊ぶ時間を設ける。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p><u>朝の支度中に保育者が 11 ぴきのねこの顔を描き、船の旗を作っていると、「何しているの?」と幼児が集まってくる。</u>好きな遊びの時間になると、A児、B児、C児など6名がねこのお面をかぶり、ホールへ行く。前週に作った魚を交代で持ったり、「ガオー。」と魚が襲う真似をしたりして、じゃれあって遊ぶ。<u>保育者が旗を置き、「ここに船を作って魚釣りをするのはどう?」と提案するが、幼児それぞれに、積み木を運ぶ、魚で遊ぶ、製作をするなど自分のしたいことをして、なかなか船作りが進まない。</u></p> <p>保育者が再度「一緒に運ぶのを手伝って。」とねこになっている幼児に声を掛け、<u>仲間の一員となり積み木を運んで並べる。</u>形になってくると、B児は「床から水が入らないようにしたい。」と言って、積極的に積み木を運び始める。船ができると、みんなで釣りをしたり、船の上でままごとをしたりする。</p> <p>翌日、B児は前日休みだった友達と2人で再び船を作り、船の中に探知機や魚に餌をやる場所も作って遊ぶ。一方C児は「この本（11 ぴきのねこふくろのなか）みたいにしたい。」と保育者に話し、A児も仲間に入ってリュックを背負い、絵本を見ながらホール内を歩き回って探検して遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日を挟んでいたため、幼児が遊びの続きに関心をもてるようきっかけを作る。 ・ この時期まだ5～6人の話し合いは難しいため、全員で考え合うよりもまずは核となる幼児（自分なりの遊びのイメージのある幼児）は誰か捉えて進めていく。 ・ 幼児のやりたいことや一人一人のイメージを聞き取りながら、共通になりそうな目的を探っていく。 ・ 大型積み木を使った場作りの経験が積み重ねられるように、保育者も仲間の一員となり、モデルを示しながら、一緒に考えていくようにする。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と共通のイメージで遊ぶ。（協） ・ 大型積み木で保育者や友達と一緒に場を作る。（協） ・ 友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。（協） ・ 遊びの中で思いついたアイデアを伝える。（言） ・ 絵本の物語に沿って動くことを楽しむ。（豊） ・ 友達と一緒に遊びに必要なものを自分なりに考えて作る。（豊） 	

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

「ダンゴムシ実験！」

保育園 5歳児7月


ねらい	・ダンゴムシに興味をもち、自分の考えたことを友達に伝えたり、試したりする。	
これまで の経験	・日頃の戸外遊びの中で虫探しを楽しんでいる。 ・見付けたダンゴムシを手に乗せ、歩くところを観察している。	
環境 構成	・飼育ができるよう飼育ケースや図鑑を用意する。 ・ダンゴムシの習性の面白さを感じ考えたことを試せるように様々な素材を用意する。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>ダンゴムシに興味をもっている幼児たち。いろいろな場所を歩かせてみる中で、滑り台を登らせていると「端っこを歩くね。」と気付く。保育者は<u>その習性の面白さをもっと味わえるように</u>と考え、<u>ダンゴムシの段ボール迷路を幼児と一緒に作る</u>ことにする。</p> <p>幼児たちは「矢印があれば分かるかな?」「ドアもいるよね。」とそれぞれに思い付いたことを言葉にし、みんなで順番にポンドを付けて、迷路を組み立てていく。あいうえお表を持ってきて、「だんごむしめいろ」や「すたあと」などを書く幼児もいる。実際にダンゴムシを歩かせてみると、迷路の上を登ったり後戻りしたりしてしまう。そこで「餌をゴールに置くのはどう?」と落ち葉を置いてみたり、ゴールに向かってちぎった落ち葉の欠片を少しずつ置いたりして、さらに工夫する姿も見られる。</p> <p>食事前に<u>ダンゴムシ迷路の話</u>を学級全体にすると、他の幼児から「段ボールだと登っちゃうから、もっとツルツルしたもので作ったら?」など新しい意見も出る。その意見に「いいね。」と周りの幼児も賛同する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の気付きをもとに、更に考えるきっかけになるような新しい活動を提示する。 ・気付いたことや考えたことを試せるように素材を用意したり、必要に応じて手助けしたりする。 ・学級全体に遊びを知らせることで、面白さを共有したり広げたりできるようにする。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に興味関心をもち、積極的に関わる。(思)(自然) ・繰り返し関わる中で、ダンゴムシの習性に気付く。(思) ・目的に向かって考えたり予想したりして、試す。(思) ・うまくいかない時に自分なりに工夫しようとする。(思) ・学級の友達の遊びの様子や考えを聞き、自分なりに考えて伝える。(思)(言) ・友達の様々な考えに触れる。(思)(協) 	

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

「ロケットを作ろう」


保育園 5歳児7月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材に関わりながら、試したり工夫したりすることを楽しむ。 	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 魚釣りごっこの中でタライに水を張ったところ、数名の幼児がペットボトルを沈めてから手を離すと勢いよく飛ぶことに気付く。そこで保育者は、この気付きを生かしペットボトルロケットを作ることを提案する。 	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルロケットに使えるような材料（ペットボトル、両面テープ、ビニールテープ）を用意する。 ペットボトルロケットを試すことができるよう、タライに水を張っておく。 	
	<p>幼児の姿</p> <p>A 児が紙を切ってペットボトルの横に貼り付ける。保育者が「この紙は何？」と尋ねると、「ロケットの横にあるじゃない。」と、翼であることを説明する。保育者が「なるほど、よく考えたね。でも紙だと濡れてしまわないかな。」と声を掛けると、A 児「じゃあ段ボールにする。」、保育者「段ボールも紙の仲間だよ。」、A 児「でも段ボールは強いから大丈夫。」と段ボールの翼に付け替える。翼が完成しタライに入れると、段ボールが濡れ、層ごとに剥がれる。そこでA 児はビニールテープを持ってきて、翼の縁に貼る。すると今度は嬉しそうに「取れなかったよ！」と話す。他の幼児たちも、繰り返しペットボトルロケットを飛ばす中で、「深く沈めるとよく飛ぶ。」「ロケットの中に水を入れると飛ばなくなる。」など、自分なりに気付き言葉にする。</p>	<p>援助のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> A 児が自分なりに考え工夫している姿を認める。 素材の性質に気付くことができるようにする。 答えを押し付けるのではなく、A 児の判断を尊重し、A 児自身が試す中で気付くことができるよう見守る。
	<p>幼児の経験している内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 水や空気の性質を生かした遊びに関心をもつ。(思) 保育者の話を聞き、受け止め、自分の考えを伝える。保育者の考えと自分の考えが異なることに気付き、自分で判断する。(思) 自分の考えを試す中でうまくいかないことに気付き、どうすればより良くなるのか自分なりに工夫する。(思) 自分なりにイメージを膨らませながら作ることを楽しむ。(豊) 	 <p>The illustration shows a young child with a thoughtful expression, looking upwards. Above the child's head are two thought bubbles. The left bubble contains a drawing of a rocket launch, and the right bubble contains a drawing of a rocket with a star on its side. The child is holding a pair of scissors and a piece of paper, suggesting they are in the middle of a craft project.</p>

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

「段ボール箱積み」

幼稚園 2年保育5歳児6月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 箱の形や大きさに関心をもち、遊びに活用する面白さを味わう。 学級のみんなで共通の目的に向かって考えたり試したりする面白さを味わう。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 様々な大きさや形の空き箱や段ボール箱を組み合わせて虫やロボット作りを繰り返して楽しんだ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 学級での活動で段ボール箱を高く積み重ねるゲームを行う。 様々な形や大きさの段ボール箱を用意する。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>箱積み1日目、まずはそれぞれ箱を積んでいくが、箱の数が足りずにけんかになる。保育者が「箱が足りないね。どうしよう。」と言葉を掛けると、「2チームに分けよう。」とA児が提案し、赤白でチーム分けをする。</p> <p>近くにあった幼児椅子やゲームボックスを使って足場を作るなど工夫も見られ、最後は学級全体で1つの箱積みに取り組む。途中何度も箱が倒れるが、箱の組み合わせを変えて取り組む。ゲーム終了後、学級全体で集まると「明日は天井まで届けたい。」「明日も絶対やろう!」と話をする。</p> <p>箱積み2日目、2チームに分かれて箱積みを始めるとB児は「まずは大きい方から積んだ方がいいよ。」と仲間に声を掛け、相手チームの積む姿をじっと見つめている。</p> <p>最後に学級全体で1つの箱積みに取り組むが、学級の目標である天井の高さにはなかなか届かない。「こっちの小さい箱に変えてみよう」など箱の大きさを比べたり、「先生なら届くんじゃない?」と背の高さに注目したりし、保育者も手伝いながら様々な方法を試してみるが、天井まであと10cm届かない。</p> <p>活動の最後に学級全体で集まると、B児は「まずは大きいから積んで、最後に小さいのを積む作戦がいいと思う。」と自分なりの作戦を学級のみんに伝える。B児の話を聞き、「それいいね。」「明日は天井まで届くといいな。」とみんなて話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の困り感に共感し、困ったことについて自分なりに考えられるようにする。 幼児の考えを受け止め、実現できるように手助けをする。 幼児の考えを学級全体で共有する機会を作り、みんなで学級の目的に向かって考えられるようにする。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の経験している内容  </div>	
<ul style="list-style-type: none"> 箱の形や大きさなどの違いに気付く。(数) より高く積むための重ね方を工夫する。(数)(思) 学級全体で同じ目的をもち考えを伝えたり、受け入れたりすることで、よりよい考えをみんなで共有する。(思) 	

【4歳児・5歳児の保育】

5歳児Ⅲ期

5歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

資質・能力 育みたい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	5領域	生きる力の基礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎	健康な心と体（健） 自立心（自立） 協同性（協）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びに興味を広がって進んで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。 ・ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返しながら、楽しさや悔しさなど様々な思いを味わう。 ・健康的な生活や食事の大切さなどを知り、自分の体に関心をもつ。 ・所持品の整理や片付けを進んで行う。
	道徳性・規範意識の芽生え（道） 社会生活との関わり（社） 思考力の芽生え（思）	人間関係	豊かな人間性につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の園生活の流れを予測したり見通したりして、状況に応じて行動する。 ・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・学級や同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。 ・自分の考えと相手の考えの違いに気付き、互いに歩み寄ろうとする。 ・自分の力を発揮し、友達の良さに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・ルールの必要性や危険なことについて分かり、意識して行動する。 ・自分の行動の結果を自分なりに考える。 ・自分の身近な人（高齢者、年下の子ども、地域の人など）との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
	自然との関わり・生命尊重（自然） 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（数） 言葉による伝え合い（言） 豊かな感性と表現（豊）	環境	言葉	確かな学力につながる

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな活動を通して、すすんで物事に取り組む楽しさや達成感を味わう。 • みんなでする活動を楽しみながら、友達のよさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 • 自分の目的に向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。
環境構成・援助	保育・教育指導（例）
<ul style="list-style-type: none"> • 自分たちで誘い合って遊びを進め、のびのびと体を動かしたり、自己の力を十分発揮したりできるよう、場、用具、遊具を用意し、安全な使い方を知らせていく。 • 自分なりに挑戦する気持ちもてるよう、様々な動きを幼児とともに考え合い、繰り返し取り組む姿を認め、楽しさに共感する。 • 大勢の仲間と一緒に体を動かして楽しめるリズム遊びを用意する。 	<p><運動会に期待をもち、すすんで運動遊びに取り組むために></p> <p>パルーン、リレー、玉入れ、縄跳び、鉄棒、リズム、体操</p> <p><元気な体のために大切なことが分かるように></p> <p>規則正しい生活リズムの確認（早寝早起き朝ごはん食べようカレンダー、絵本、紙芝居、パネルシアターなど）、身支度や片付けを済ませる時間の確認</p>
<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな活動の中で、幼児の挑戦しようとする気持ちを受け止め、目的が明確にもてるようにする。 • 友達との関わりの中で、互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。 • それぞれの頑張る姿を学級の幼児に知らせ、よさに気付かせるとともに、みんなで喜び合う気持ちを高めていく。 • 遊びの中で生じるトラブルは幼児同士で解決できるように意見を調整しながら見守ったり、いろいろな解決方法を知らせたりしていく。必要な場合は学級全体の中で取り上げ、考え合う機会を作っていく。 • ルールを守ることで遊びがより楽しくなることに気づき、互いの思いや考えに耳を傾けることができるよう、振り返りの時間を設けていく。 • 行事などを通して、身近な様々な人と触れ合う機会を設け、相手の側にたって考えることの大切さに気付かせていく。 	<p><自分たちで生活や遊びを進めていくように></p> <p>当番や係の仕方の話し合い、週や日の予定、それぞれのめあての確認</p> <p><自分たちで遊びを進め、仲間意識を高めていくために></p> <p>大型積み木、巧技台、リレー、サッカー、鬼遊び ドッチボール</p> <p><勝敗で悔しい思いを経験しながら、ルールの大切さに気付くように></p> <p>リレー、鬼遊び、サッカー、ドッチボールなど</p> <p>→事例「ルールをつくろうよ」</p> <p><身近な様々な人と触れ合い、親しみをもつように></p> <p>敬老の日、敬老施設訪問、未就園児との交流（運動会）</p> <p>→事例「一緒に遊びたいの?」「歌・手遊びを通じた触れ合い交流」</p>
<ul style="list-style-type: none"> • めあてをもって活動を進めていく中で、幼児の気づきや考えを取り上げたり、皆で準備や取り組み方について確認したりしながら、考えを出し合ってやり遂げる充実感を味わえるようにする。 • これまでの経験から、自分なりに考えて取り入れて遊びを進めていくよう、素材の種類を豊富に準備し、一人一人が十分に試したり工夫したりできるよう時間を保障する。 • 身近な動植物に関わっていく中で、幼児の発見や感動に共感するとともに、愛情を持って世話をする姿を認めていく。 • 行事に向けての取り組みや遊びの中で、分かりやすく動きやすくするために標識や図を取り入れたり、競い合う中で量や長さ重さなど比べることを十分経験できるようにしたりし、興味や関心を高めていく。 • 身近な出来事について話題にする時間や、一人一人の発言の機会を保障し、話したり聞いたりすることを十分経験させていく。 • 教師が読み聞かせをした絵本や言葉遊びの本などを置いておき、自分なりのペースで興味を深めたり、友達と面白さを共有したりできるようにする。 • 様々な表現手段でそれぞれが表していることに共感し、表現して伝えることの充実感を味わえるようにする。 	<p><身近な自然物とかかわって遊ぶことができるように></p> <p>色水遊び、キバナコスモスやあさがお、オシロイバナなどの園庭の草花 サツマイモ堀 野菜スタンプ 絵本「14ひきのおつきみ」「はっぱのぼうけん」「つき」「さつまのおいも」など 季節の歌「とんぼのめがね」「くだものれっしゃ」など</p> <p>飼育当番や関わり →事例「みーたんありがとう」</p> <p><みんなで一緒にすることを楽しみながら、考えを伝え合い、自分の力が出せた喜びを感じていけるように></p> <p>旗づくり リズムや競技で身に付ける物作り 運動会の立て看板作り 作戦会議</p> <p>→事例「この作戦にしよう」</p> <p><必要感を感じて遊びに使うものを作ったり、作る楽しさを感じたりできるように></p> <p>空き箱 プラスチック容器 お面バンド</p>

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりを作ったり、守ったりするようになる。

「ルールを作ろうよ」

幼稚園 2年保育5歳児 10月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 遊びのルールを確かめたり考えたりして、友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> リレーやドッジボールなど、繰り返し取り組んできた遊びは、自分たちで仲間集めやチーム分けをして始められるようになった。 ゲームの途中でトラブルが起きると、怒ったりつまらなくなったりして遊びを抜ける姿がある。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びを始められるように、事前にドッジボールのコートを描いておいたり、ボールやラインカーを用意したりする。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>園庭で6名の幼児が集まってドッジボールを始めた。しばらくするとその内の一人が「Aくんがけんかになってる。」と保育者を呼びに来る。保育者が状況を聞き、様子を見に行くと、A児と言っている幼児もいれば、ボールで遊んでいる幼児もいる。保育者が「<u>ドッジボールしていた人、みんな集まって。</u>」と声を掛ける。全員で集まったところで、<u>どうしたのか一人ずつ尋ねると</u>、B児は「Aくんが当たってから転んだのに『今のなし』って言う。」と主張する。</p> <p>A児が当たったのかどうか話し合う内に、ドッジボールで転んだ人に当ててるのはあつか、という話になる。C児が「新しくルールを作ろうよ。」と提案し、みんなで決めることになる。A児以外は「転んだ人にボールを当ててもよい。」と答える。B児が「多数決だからありってことね。」と言うと、A児は「自分が多いからってBくんが決めるのはずるい。」と譲らない。保育者が「<u>AくんにはAくんの考えがあるんだよね。みんながいいよって言えるルールにしたいね。</u>」と声を掛けるが、なかなか話がまとまらない。</p> <p>しばらくすると、D児が時計を見て「早くしないと片付けになっちゃうよ。」と言う。するとA児が「じゃあ『あり』でいいよ。続きをしよう。」とさっと立ち上がる。保育者「当たってから転ぶのもなしだよ。」、A児「分かったよ。」そのまま片付けの時間になるまでゲームを続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に遊んでいる仲間を集め、みんなで考える機会を作って解決していくことで、仲間としての意識をもてるようにする。 幼児同士のトラブルでは、互いに思いを言葉で伝え合いながら、自分たちで解決できるように、保育者は様子を見守ったり投げかけたり話を整理したりする。 幼児が自分たちで思いを伝え合おうとする姿を認め、納得して折り合いをつけられるように支えていく。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の経験している内容  </div>	
<ul style="list-style-type: none"> みんなで楽しく遊ぶために共通のルールが必要であることが分かり、自分たちできまりを考えようとする。(道) 自分の気持ちに折り合いをつける。(道)(協) 自分たちで誘い合って遊びを進めていこうとする。(健) 友達と互いの思いを言葉で伝え合う。(言) 時間を意識し、生活に見通しをもつ。(健) 	

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。

「一緒に遊びたいの？」

保育園 5歳児 10月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 年下の友達との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わろうとする。 	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 1歳児クラスとの交流では、年下の友達に関心を示してはいるものの、相手の気持ちが読み取れなかったり関わり方が分からなかったりし、戸惑うことがある。 保育者が年下の友達の思いを代弁することで、表情や仕草からも気持ちが読み取れることに気付かせながら、交流を重ねてきている。 	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に交流日を設け、異年齢児と関わる機会をつくる。 1歳児が安心して交流できるよう、少人数で1歳児クラスを訪れる。 	
	<p style="text-align: center;">幼児の姿</p> <p>1歳児クラスとの交流の日。5歳児A児が「先生、この子抱きついてきて困る。」と言う。保育者が「抱きつくってことは、Aさんと一緒に遊びたいのかな？」と1歳児の思いを代弁して伝えると、A児は「B君、一緒に遊びたいの？」とB児の顔を覗き込む。その後は、B児を抱っこして遊んであげるようになる。B児も満足そうな笑顔を見せる。</p> <p>5歳児C児は1歳児が二人で1冊の絵本を取り合っている様子を見て、「同じ絵本があるから、持って来ればいいんだ。」と言って、急いで絵本を持ってくる。二人に渡すと、二人は取り合いをやめ、喜んで絵本を見始める。C児は「よかった。」と胸をなでおろす。保育者も「同じ絵本を見たかったんだね。」とC児に声を掛ける。</p> <p>以前おもちゃを貸してあげられなかった5歳児D児は、園庭での交流日に年下の友達が外に出てくるのを待ち、靴を履かせたり手をつないだりして遊び、親しみをもって関わる姿が見受けられるようになる。</p>	<p style="text-align: center;">援助のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 年下の友達の、言葉にならない思いを表情や仕草から読み取り、幼児が相手の気持ちに気付けるようにする。 年下の友達を助けたり、可愛がったりするなど、何かしてあげたいという幼児の気持ちを受け止める。 相手の気持ちを考えて関わろうとする姿を十分に認め、満足感につなげる。
	<p style="text-align: center;">幼児の経験している内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 異年齢児と継続して関わる中で親しみをもつ。(社) 年下の友達の気持ちを考えて、関わろうとする。(社) 年下の友達の言葉に耳を傾けたり、表情や仕草から気持ちを読み取ったりする。読み取った思いを言葉にしたり、要求に応じたりして気持ちを満たしてあげようとする。(社) 	

社会生活とのかかわり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。

「歌・手遊びを通じた触れ合い交流」

保育園 5歳児10月


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者と触れ合うことで、公共施設の存在を知り、親しみをもつ。 ・歌を聴いてもらったり手遊びをしたりし、触れ合い交流を楽しむ。 		
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・園内行事の発表会へ向けて、みんなで歌うことを繰り返し楽しんでいる。 ・手遊び「お寺の和尚さん」を、友達と一緒に楽しんでいる。5月に実施した園内行事で、祖父母と触れ合いを楽しんだ経験がある。 		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の体調を十分に把握しておく。 ・園と施設で、日程や時間の調整をしたり内容を相談したりする。 		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">幼児の姿</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">援助のポイント</td> </tr> </table>		幼児の姿	援助のポイント
幼児の姿	援助のポイント		
<p>近隣の高齢者福祉施設へ行き、歌を聴いてもらったり、手遊びをしたりする計画を学級で話す。初めての経験に「楽しみ！」との声上がる。<u>施設で過ごす人々の様子（車椅子を使用している人、寝ている人、健康状態は様々であることなど）を事前に伝えると、「じゃあ私たちの歌を聴いて、元気になってくれたらいいな。」と何人かの幼児が話す。</u></p> <p>当日に向けてみんなで練習する中では、「<u>歌い方は、大きな声よりも優しい方がいいの？</u>」「<u>手遊びのときは、どれくらいの強さで手を握ったらいいの？</u>」などの質問が出る。自分なりに歌い方を考え練習する。</p> <p>当日は、普段と異なる様子に表情が硬い幼児もいるが、少しずつ緊張もほぐれ大きく口を開けて歌うようになる。「上手だね。」と声を掛けられた幼児は、少し頬を赤らめながら嬉しそうに笑う。</p>			
幼児の経験している内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉施設の存在や役割を知る。（社） ・歌や手遊びを通じ、高齢者との触れ合いを楽しむ。（社）（言）（豊） ・どのように参加するか、自分なりに考えながら友達と一緒に練習に参加する。（健）（自立）（協）（思） 			
			

言葉による伝え合い

先生（保育士等・保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

「この作戦にしよう」

幼稚園 2年保育5歳児 10月

ねらい	・自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを注意して聞いたりする大切さを感じる。	
これまで の経験	・学級の活動でリレーに取り組む前には、作戦タイムを設け、チームごとに自分たちで走順を決めてから取り組むようにしている。	
環境 構成	・走順が分かりやすいよう、ホワイトボードに数字と枠を書き、幼児自身が名前の書かれたマグネットを貼れるようにする。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>運動会に向け、リレーの走順についてチームごとに話し合っていると、A児が突然泣き始める。<u>保育者が理由を尋ねると</u>、「いつも勝てないから作戦を考えてきたのに、聞いてもらえない。」と答える。このチームではB児とC児が「1番は〇〇くん、2番は△△ちゃんね。」など、理由を説明したり他のチームメイトに確認したりすることなく走順を決めてしまうことが多かった。この日も2人だけで走順を決め、話し合いを終えようとする。<u>保育者が「Aちゃんも勝ちたいと思って作戦を考えてきたんだって。聞いてみようよ。」と投げかけると</u>、A児は「走るのが得意な人で、走るのが苦手な人をはさむのはどう？」と自分の意見を伝える。B児はA児の考えを聞き、「でも得意な人を最後にした方が、後から追い抜けるからいいと思うよ。」と言う。A児が「いつもその順番で勝てないから、今日はこの作戦でやってみようよ。」と言うと、D児が「私もその作戦がいいと思う。」と答え、最後にはチーム全員が納得し、走順を決め直すことになる。<u>その結果</u>、初めて1位になることができ、「みんなで作戦を決めてよかった。」とチーム全員で喜び合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児同士の力関係を把握し、機会を捉えて話し合うためのきっかけを作る。 ・B児、C児に対し、A児も同じように勝ちたいと思っていることを伝え、聞こうという気持ちをもてるように橋渡しする。 ・自分たちで相談し決めたことを実現できる機会を設けることで、折り合いを付けながら話し合う大切さや、自分たちの考えを実現させる面白さや達成感を味わえるようにする。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを、保育者や友達に分かりやすく言葉で伝える。(言) ・相手の思いに気付き、話を最後まで聞く。(言) ・相手の考えを知り、さらに自分の思いを伝え、言葉でのやりとりを重ねる。(言) 	

【4歳児・5歳児の保育】

5歳児Ⅳ期

5歳児 IV期（11月～12月）

資質・能力 育みたい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	5領域	生きる力の基礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎 思考力・判断力・表現力等の基礎	健康な心と体 （健）	健康	健康・体力につながる	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな運動遊びに進んで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 • 遊具や用具、遊びに使う間所など安全に気を付けて遊ぶ。 • 健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して生活する。 • 所持品の整理や片付けをすすんで行う。 • 交通ルールや公共のマナーを知り、気を付けて行動する。 • 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 • 1日の園生活の流れに見通しを持ち、友達と声を掛け合って行動する。
	自立心 （自立）			
	協同性 （協）	人間関係	豊かな人間性につながる	<ul style="list-style-type: none"> • グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 • 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。 • 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。 • 友達の中で、自分の力を発揮していく。 • 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 • 相手の立場に立って、考えたり行動したりする。 • 良いことや悪いことを自分で考えて行動する。 • 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら、それを守って進める。 • その時にすべきことが分かって、自分から行動する。 • 地域の方に教えてもらったり温かく接してもらったりして、親しみを深める。
道徳性・規範意識の芽生え （道）				
社会生活との関わり（社）				
学びに向かう力・人間性等	思考力の芽生え （思）	環境	確かな学力につながる	<ul style="list-style-type: none"> • 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 • 友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。 • 季節の変化に関心を持ち、遊びに取り入れたり調べたりする。 • 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。 • 遊具や用具の形や大きさをそろえたり分類したりして、整える気持ちよさを感じる。 • 理由を添えたり、新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 • 友達の話の内容を理解しようと、関心をもって聞く。 • 生活の場に応じた言葉の使い方や表現仕方が分かる。 • 自分が表現したいことを、材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ。 • 絵本や物語に親しみをもち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。
	自然との関わり・生命尊重 （自然）	言葉		
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（数）	表現		
	言葉による伝え合い（言）			
豊かな感性と表現（豊）				


ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探求心を深める。 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。 	
環境構成・援助	保育・教育指導（例）	
<ul style="list-style-type: none"> 幼児の興味、関心を引き出す運動遊びを取り入れ、すすんで取り組み体を動かす楽しさが感じられるようにする。 友達と競い合ったり認め合ったりして、自分の力を発揮していく楽しさを味わえるよう場や用具、遊具を用意する。 子どもたちが生活習慣や生活の仕方について気付いたり考えたりする機会を作る。 就学を意識し、必要な生活習慣や態度が身についていくよう、個々の育ちを確認し、家庭と連携しながら指導していく。 	<p>〈力を発揮し、認め合って運動遊びを楽しめるように〉</p> <p>ドッジボール、リレー、宝取り鬼、手つなぎ鬼助け鬼、サッカー、縄跳び</p> <p>〈一日の流れや時間の見通しがもてるように〉</p> <p>就学時健診の話題 当番活動、時計・日程表・カレンダーの活用 大掃除、冬休みの過ごし方の話</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 少し難しいことに向き合い、友達に助けってもらったり助けたりして乗り越えていく機会を意図的に作り、達成感を感ぜられるようにする。 グループでの取組の中で、これまでの経験を活かし、一人一人が十分に自己を発揮し、互いの良さや考えに触れて協同して遊べるような機会を意図的に作る。 思いや考えの違いに気づき、グループの友達と折り合いをつけながら遊びを進めていくことができるように援助していく。 人の話に耳を貸さない、思いや考えを受け付けない、嫌がることをするなどのことは、自分自身も嫌な気持ちがするという共感性を機会をとらえて育てていく。 地域の方との連携は、事前の計画や指導内容などを共有し、子供たちの学びが充実するように配慮する。 	<p>〈友達と共通の目的をもち、試したり工夫したりして遊びや生活を進めていくように〉</p> <p>生活発表会、イメージを共通にする絵本・物語・童話「エルマーのぼうけん」「ロボットカミイ」、お話作り、劇、音楽会ごっこ</p> <p>〈学級としてまとまりをもちながら、自分の力を発揮していくために〉</p> <p>生活発表会（劇、合奏、司会）ドッジボール、長縄跳び、三色鬼、はないちもんめ</p> <p>〈地域の方への親しみが深まるように〉</p> <p>音楽鑑賞、劇鑑賞、お茶の会、小学校、高齢者との交流活動 →事例「秋の小学校交流」</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 幼児が試行錯誤し考えを巡らせることができるよう、幼児の気付きを受け止め、興味関心を深めるようなものを提示したり、友達に広げたりする。 一人一人が自分の課題に向かって繰り返し挑戦する姿を励ましたり、認めたりする。 自分の課題をやり遂げた喜びを味わえるように、自分なりの目的に向かって試したり工夫したりできる素材、用具、遊具、時間、場を確保する。 幼児が自然と関わる中で発見したことや驚いたことに共感し、保育者自身も自然の変化を敏感に感じ取るようにする。 落ち葉の遊びなどは、タイミングを逃さず経験できるように工夫する。 生活がしやすくなるよう、また遊びが充実するためになど、幼児自身が必要感を感じて文字や数量や図形を取り入れるよう、環境を整える。 ユニバーサルデザインを意識し、幼児とともに生活に取り入れていく。 場に応じた丁寧な話し方が意識できるよう、言い方を教えたり保育者がモデルとなって見せたりする。 幼児たち同士で表現を楽しんでいる姿を認め、イメージを膨らませることができるよう、一緒に考えたり工夫したりする。また、互いに見合い認め合ったり刺激しあったりする時間を確保する。 歌詞や曲想を感じ取ったり、声を合わせて歌う気持ちよさを感じたりしながら、学級の友達とのつながりが深まるような曲を選ぶ。 	<p>〈自分なりに、試行錯誤し工夫してやり遂げる達成感を味わうように〉</p> <p>製作活動（動くもの、リアルなもの）</p> <p>〈冬の自然に触れ、遊びや生活に取り入れるように〉</p> <p>どんぐりや松ぼっくりなどを使った遊び 球根植えや水栽培</p> <p>〈文字や数量、図形に関する感覚を豊かに〉</p> <p>しりとり、言葉集め、環境を整える</p> <p>→事例「4個ずつにしたら？」</p> <p>〈生活や場に応じた言葉や表現が分かるように〉</p> <p>係活動 集会での発表</p> <p>〈想像を豊かにして、表現する楽しさを味わえるように〉</p> <p>ごっこ遊び（チケット、看板、メニュー、目印） 劇遊び →事例「劇の小道具づくり」</p>	

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

「秋の小学校交流」

幼稚園 2年保育5歳児 11月


ねらい	・近隣の児童と触れ合い、小学校生活に関心をもつ。	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園が小学校に併設しているため、日常的に小学校の様子を見たり、校舎内に行ったりしている。 ・A児は幼稚園での好きな遊びで友達と一緒に切り絵を楽しみ、遊びの場に飾ったり、友達にプレゼントしたりすることを楽しんでいる。 	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーに今月の予定を書き、見通しがもてるようにする。 ・切り絵の見本を事前に見せたり、保育室に飾ったりする。 	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>併設する小学校の1年生の児童から、展覧会で展示する切り絵のやり方を教えてもらう。最初は緊張から表情が硬かったA児。ペアの児童に優しく声を掛けられるもなかなか表情が明るくならない。小学校の教員から今日の活動の説明を聞き、ペアの児童に「やり方分かる？」と聞かれると、A児は「分かるよ！」と得意げに答える。児童に教えてもらいながら切り絵を始めるとA児は次々と作品を作っていく。児童が「Aちゃん、すごいね！いろいろな切り方を知ってるね。」と言葉を掛けると、A児は「うん！幼稚園とお家でもいっぱいやってるからね。」と笑顔で答える。</p> <p>交流の終わりに保育者が「1年生のお兄さん、お姉さんに教えてもらえてよかったね。」と伝えると、幼児は「また、会える？」と保育者に尋ねる。「お隣だからいつでも会えるよ！」と児童が答えると、幼児は笑顔になる。保育者が「よかったね。今度は1年生の勉強してるところも見たいよね。」と伝えると、幼児は「見たい！国語とかあるでしょ。」と嬉しそうに話し、小学校の教員と児童も「いつでもおいで。」と答える。</p> <p>交流後、<u>児童からもらった手紙を学級のみんなで見ること</u>で、自分たちも手紙を書いたり、生活発表会でする劇を見せたりしたいなど、お礼の気持ちを伝えたい思いが高まる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での活動に安心して参加できるように、交流内容を幼稚園でも経験したことのある活動にする。 ・幼児と児童、先生たちの温かい会話の中で、次の交流に期待をもてるよう言葉掛けをする。 ・児童との楽しかった経験を振り返ったり、お礼を伝えたりする手段を一緒に考える。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との交流の中で優しくしてもらい親しみをもつ。(社) ・直接会えない児童にお礼の気持ちを伝えるために、様々な方法を考えて出し合う。(社) 	

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

「4個ずつにしたら？」

幼稚園 2年保育5歳児 11月


ねらい	・必要感を感じて数えたり比べたりして、生活しやすくなるよう、工夫する。	
これまでの経験	・15人の幼児で、椅子を5個重ねて片付ける経験を4歳児の時から繰り返していた。転入園児が増え、学級的人数が16名になった。	
環境構成	・重ねた椅子を4列置けるように場所を増やしておく。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>学級の活動の後、全員で椅子を順番に重ねて片付ける。A児は自分の椅子を置いた後、友達が片付ける様子を見て、みんなが5個ずつ重ねているのを確認している。<u>保育者も一緒に近くに立って見守っている。</u></p> <p>最後の幼児が、他の椅子が5個ずつ重ねられているのが分かると、「先生、1つ余っちゃう。」と言う。保育者は「そうなの、友達が1人増えたからね。」と答え、それを聞いていたA児が「じゃあ4個ずつにしたら？」と提案する。<u>保育者は「いいね、4個ずつだとちょうどいいかな？やってくれる？」とお願いすると、</u>A児は重なっている椅子を1個ずつ移動させ、同じ高さになったかを見たり、数を数えたりする。そして、「ぴったり」と言い満足そうな表情を浮かべる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、椅子が5個重なっているか確認するよう言葉掛けを行い、5までの数を数える機会を作る。 ・椅子の数が変わったことに気づき、椅子の置き方を4個ずつに変えるといいのではないか、という幼児の提案を受け止め、自分で試せるようにする。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・5つ重ねられた椅子と、1つだけ置いてある椅子の高さや数の差に気付く。(数) ・同じ数で揃える気持ちよさを感じる。(数) ・自分なりの発想を伝えやってみて、うまくいったことで満足感を感じる。(自立)(思) 	

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「劇の小道具作り」

幼稚園 2年保育5歳児 12月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達と一緒に共通の目的をもち劇遊びに必要なものを工夫して作る。 ・絵本に親しみをもち、想像を豊かにして、表現する楽しさを味わう。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びでは、店員とお客さんの役になり、友達とのやり取りを楽しんでいる。 ・言葉遊びを好み、言葉遊びの絵本やクイズ、なぞなぞなどを学級のみinnで楽しんでいる。 ・生活発表会で絵本「ぎろろんやまと10びきのかえる」を題材に劇をすることになり、いろいろな役になったり、小道具を作ったりして準備を進めている。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会当日までの取組に見通しがもてるよう、振り返りの時間を設け、当日までに必要な準備や明日やりたいことなどを幼児と一緒に紙に書く。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>「しゃっきりだけを食べ、しゃっきりする」場面の表現方法をみんなで考える。</p> <p>「食べたら元気いっぱい、しゃきーんって感じにしたいよね。」とA児が言うと、他の幼児も「そうだよね。」とA児の意見を受け入れる。「他にもキノコがあるといいんだよね。」とA児がつぶやくと、「ひっく、ひっく。」とB児が突然しゃっきりをし始める。「Bくん、いったいどうしたの？」と幼児と保育者が心配そうに声を掛けると、B児は「しゃっきりだけ。」とにやっと笑いながらつぶやく。保育者が「なるほど、しゃっきりとしゃっくり、似ているもんね。」と伝えると、B児は「食べるとしゃっくりが止まらなくなるよ。」と答える。すると、他の幼児も「どっきりだけはどうか？食べるとどっきりするんだよ。」「食べると眠っちゃうねむりだけでもいいんじゃない？」など言葉を楽しみながら次々とアイデアが生まれていく。実際にキノコを作る中で、しゃっくりだけは唇の模様、どっきりだけは！のマークなど、仲間と相談しながら様々な工夫をしていく。</p> <p>その後、「いろんなキノコが出てきたけど、かえるじいさんが間違えて食べたら大変じゃないかな…」と保育者がつぶやくと、A児が「そうだ！きのこの凶鑑があったらいいんじゃないかな？」と仲間にと伝える。A児の考えを聞いた他の幼児も「それいいね！」と考えを受け入れ、キノコの絵と解説をそれぞれ書いて、キノコ凶鑑を作り始める。</p>	
<p>幼児の経験している内容</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にキノコの特徴を考え、新たな考えを生み出す面白さを味わう。(豊) ・作りたい物のイメージを自分の言葉で伝えたり、動きで表現したりする。(豊)(言) 	
	

【4歳児・5歳児の保育】

5歳児V期

5歳児 V期（1月～3月）

資質・能力 育みたい	幼児期の終わり までに育ってほ しい姿（10の姿）	5 領域	生 きる 力 の 基 礎	経験させたい内容
知識や技能の基礎	健康な心と体 （健）	健康	健康・ 体力につな がる	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいや手洗いなどの病気の予防に必要な活動を理解し、進んで行う。 ・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールを作ってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分たちで判断して安全に行動しようとする。 ・行事や経験を通して、伝統的な日本の食生活に関心をもつ。
	自立心 （自立）			
	協同性 （協）	人間関係	豊 かな 人 間 性 につ な がる	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、協力して進んで行く。 ・時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ・友達と支えあいながら、自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・学級や学年の友達とみんなです活動する楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。 ・自分たちで考えたルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 ・今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。 ・交通ルールが分かり、守って行動する。 ・小学校との交流を通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・地域の方と関わり、親しみをもつ。
道徳性・規範意識 の芽生え （道）				
思考力・判断力・表現力等の基礎	社会生活との 関わり（社）	環境	確 かな 学 力 につ な がる	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりして遊びに取り入れる。 ・文字や数字、標識や時間に関心をもち、遊びや生活の中に取り入れる。 ・小学校での授業体験などを通して、入学への期待をもつ。 ・動植物や自然現象に関心をもち、考えたり試したりして自然を取り入れてねらいと内容遊ぶ。 ・飼育物への愛着が深まり、次の学年に世話を託すため、丁寧に教えようとする。 ・自然の変化に心を動かし、それを自分なりに言葉に表して保育者や友達に伝え、共感することの嬉しさを味わう。 ・見る、聞く、感じる、考えるなどの経験を、自分なりの言葉で十分に表現する。 ・誰とでも進んで挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。 ・話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって聞く。 ・生活の中の様々なものに自分から関わり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。 ・友達と一緒に共通の目的をもち、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。
	思考力の芽生え （思）			
	自然との関わり・ 生命尊重（自 然）	言葉		
学びに向かう力・人間性等	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚（数）	表現		
	言葉による伝え 合い（言）			
	豊かな感性と表 現（豊）			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達とともに過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心をもち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。 	
環境構成・援助	保育・教育指導（例）	
<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けて、自分でできることを増やし、認め。自信をもたせていく。必要な生活習慣や態度について、個々の育ちを確認し、家庭と連携しながら指導していく。 ・寒さに負けずに戸外で体を動かせる活動を意図的に取り入れる。 ・仲間意識をもち、友達と誘い合って、作戦を考えたり力を合わせたりして思い切り体を動かせるように、時間を保障し、保育者も仲間になって幼児とともに十分に楽しむ。 ・行事や経験の意味を分かりやすく伝えながら、幼児の興味関心を高めていく。 	<p>〈季節に応じた健康管理ができるように〉 手洗い、うがい励行、薄着の奨励</p> <p>〈寒さに負けずに体を動かして楽しめるように〉 縄跳び、凧揚げ、鬼遊び →事例「私できるよ」</p> <p>〈日本の伝統的な食文化への関心をもち〉 鏡開き、節分、雛祭り</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・一年生への期待や意欲をもって生活できるように、子どもの気持ちを十分に認め励まししながら、一日一日を丁寧に過ごし、成長とともに喜ぶ。 ・学級で集まって落ち着いて行う活動を意識的に取り入れる。 ・学級の課題を自分のものとしていけるように、課題の内容や取り組み方を分かりやすくするとともに、幼児同士が支え合うことを認めていく。 ・自分たちで遊びを作る楽しさや充実感が味わえるようにし、自分の思いや考えを出し合って、受け入れ合い、認め合って、遊びを進めている姿を信頼し見守っていくようにする。 ・友達同士で考えや思いを言い合う場面では、やり取りの中で状況を考え、自己コントロールし折り合いをつけたり、歩み寄りたり、譲ったりできるよう、気持ちを受け止めながら、支えていく。 ・就学に向けて、自分で道路を安全に歩けるように意識付けるとともに、家庭への啓発も行っていく。 ・事前に十分な打ち合わせを行い、小学生と触れ合いや学校施設を見ることによって、小学校を身近に感じ安心感をもてるようにする。 ・地域の方との連携は、事前の計画や指導内容などを共有し、子どもたちの学びが充実し、地域への親しみが深まるように配慮する。 	<p>〈一人一人の成長をともに喜べるように〉 〈時間を意識し見通しをもち落ち着いて過ごすように〉 園生活を振り返る活動、修了式、卒園式、修了お祝い会に向けての活動 継続童話の読み聞かせ 生活スケジュール</p> <p>→事例「時計の針、4過ぎちゃった」</p> <p>〈友達と共通の目的をもち、役割を分担し力を合わせて進めていけるように〉 ごっこ遊び（遊園地ごっこ、学校ごっこなど） →事例「お寿司屋さんをつくろう」「お楽しみ会の準備」</p> <p>〈チーム意識をもち、ルールを確かめ合って遊べるように〉 ドッジボール、宝取り鬼、三すくみ鬼、サッカー、リレー →事例「ドッジボールのチーム分け」</p> <p>〈就学に向けて、交通安全を身に付けるように〉 親子交通安全教室、通学路散歩</p> <p>〈就学への期待をもてるように〉 学校見学、一年生との交流、交流給食</p> <p>〈地域の方への親しみが深まるように〉 音楽鑑賞、劇鑑賞、お茶の会 高齢者との交流活動</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに気付いて関わり、考えたり、試したり、挑戦したりすることが繰り返し楽しめるよう素材や場を用意する。 ・様々な事象や体験を通して、文字、数量、形、位置、時間などへの感覚や関心が養われるよう、遊びや生活の中で十分に配慮していく。 ・可愛がってきた飼育物を次の学年に託す取り組みを、学年間で十分に連携を取り、気持ちに共感しながら進められるようにする。丁寧に教える姿を認めていく。 ・季節の移り変わりを風、空気の冷たさ、日差しの温かさなどの実感を共感したり、動植物の変化に関心が高まったりするように、幼児に気付かせていく。 ・これまでの経験や今体験していること、興味をもっていること、社会事象などを話題にする機会を十分にもち、自分なりの言葉で表せるように支えたり、話している人にしっかりと向き合ってよく聞くように促していく。 ・表現しようと思うもののイメージがわくような雰囲気作りや、ヒントになる物、絵本や写真などを提示し、様々な材料や用具を適切に使えるように準備したり提案したりしながら、表現する喜びを十分に味わえるようにしていく。 ・自分たちの経験や思い、状況を思い描きながら、表現することの喜びを味わえるような歌や作品を選んでいき、気持ちに共感しながら進めていく。 	<p>〈自分なりの課題に向かって考えたり試したり挑戦したりできるように〉 投げゴマ、凧作り、鬼のお面作り、編み物、雛人形作り、修了製作</p> <p>〈文字、数量についての感覚を豊かにするように〉 しりとり、かるた、かるた作り、言葉集め、双六、双六作り</p> <p>〈自分たちの成長、季節の変化や栽培物の成長の喜び、不思議を感じられるように〉 球根の栽培、氷づくり、霜柱、当番活動の引継ぎ</p> <p>〈伝えたり、相手のことを理解したりすることをおして、分かり合う喜びを感じるように〉 グループでの話し合い、帰りの会での伝え合い、伝言ゲーム、スリーヒントゲーム</p> <p>→事例「お別れ会の言葉を考えよう」</p> <p>〈イメージや思いを膨らませ、表現する喜びを味わえるように〉 ごっこ遊び、劇遊び、作品作り 歌（「ドキドキドン一年生」「はじめのいっぽ」）</p>	


幼稚園（保育所・幼保連携型認定こども園）生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

「私できるよ」

幼稚園 2年保育5歳児3月

ねらい	・保育者や友達とのつながりの中で多様な運動遊びに取り組み、楽しさを味わう。
これまでの経験	・A児は5歳児4月から転入園。転園する前の幼稚園では縄跳びを繰り返し楽しみ、転入園してからも取り組む。走るのが遅く鬼遊びに苦手意識があり、その他の運動遊びにも自分から取り組むことはなかった。
環境構成	・週2回、全10回外部講師による運動遊び（コーディネーショントレーニング）や学級での運動遊び、自発的な活動としての運動遊びなどいろいろな形態で、多様な運動遊びに触れられるように機会や環境を設定する。

幼児の姿	援助のポイント
<p>1学期、A児は初めのうち、コーディネーショントレーニングに参加せず様子を見ていたが、<u>保育者がA児の不安な気持ちを受け止め、そばで一緒に動いていくことで取り組むようになった。</u>やってみて「できた」という経験を重ね、最後には喜んで取り組んだ。遊びの中で友達が楽しんでたフープや巧技台を使った運動遊びにも自分から参加するようになり、<u>保育者もその楽しさに共感するようになった。</u></p> <p>2学期、これまで苦手意識をもっていたリレーで、運動会に向けてチームの友達と嬉しそうに自主練習を楽しみ、「練習したら走るのが速くなった。」と自信をもつ姿が見られた。とても明るくなり、得意なことを行事で発揮したり学級の中で自分から意見を言ったりするようになった。</p> <p>3学期、<u>学級の友達と鉄棒に目標をもって取り組めるよう、技の絵表示に「挑戦中」「できたよ！」の項目が入ったボードを用意した。</u>挑戦している技のところに名前を書けるようにすると、友達と一緒に繰り返し練習して楽しむようになる。いろいろな技ができるようになりたいと何度も挑戦して、できるようになる楽しさを十分に味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加を無理強いせず、保育者との信頼関係で安心して取り組めるよう、声を掛けたり促したりする。 ・「できた」嬉しさや、運動遊びが「楽しい」という気持ちを捉えて、共感する。 ・チームの仲間と一緒に励まし合って、苦手なことも乗り越えていく経験ができるようにする。 ・学級の友達と、共通の関心に向かって刺激し合いながら、個の目標に向かって取り組めるようにボードを用意し、努力の過程を十分に認める。

幼児の経験している内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びに取り組み、多様な動きを経験しながら、それぞれの楽しさを十分に味わう。（健） ・学級の友達と一緒につながりやチーム意識を感じたり、互いに刺激を受けあったりしながら、体を動かして遊ぶことを楽しむ。（健）（協） ・自分なりの目標に向かって試しながら粘り強く挑戦し、達成感やできるようになる喜びを味わい、自信をもつ。（健）（自立） ・保育者や友達との信頼関係を基盤に、苦手なことにも挑戦してみようとする。（自立） 	

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

「時計の針、4過ぎちゃった」

幼稚園 2年保育5歳児2月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • 一日の流れや時間を意識して、生活に見通しをもって行動しようとする。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> • 保育者が片付けの時間を伝え、みんなで片付け始める経験は4歳児後半から取り組み、5歳児の1月から、集まる時間を伝えた上で片付ける時間を示していた。前日の片付けでは、集まる10分前に片付け始めることを決めたが、間に合わなかった。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> • 黒板に一日の流れをイラストと文字で示し、学級の活動を始める時間や、みんなで決めた片付ける時間を表示しておく。

幼児の姿	援助のポイント
<p><u>朝の集まりで、保育者が「宝取り鬼ごっこをするから、長い針が4になったらみんなでホールに移動したいんだけど、いつになったら片付けにする？」と尋ねると、A児「3?」、B児「1!」と数人の幼児が思い思いに答える。</u></p> <p><u>保育者「昨日はここからここ（時計の2~4までを指で押さえる）だと間に合わなかったよね。」</u>と言うと、幼児がうなずく。C児「1かな?」、保育者「1にしてみる?」、幼児「うん。」、保育者「分かった。1になったら片付けをして、4になったらホールで鬼ごっこをしようね。」と最後に伝える。</p> <p><u>保育者は片付ける時間が近付いた頃、「鬼ごっこできるかな。」などとつぶやく。</u>時間になり、保育室で遊んでいたB児が時間に気付いて友達に知らせると、B児と一緒に遊んでいたD児がテラスに出て戸外で遊ぶ友達に「お片付けだよ。」と声を掛ける。みんなで片付けながら、保育者が「あっという間に2になっちゃった。」と言うと、E児が「大変だ、もう2だ!」と保育室にいる友達に声をかける。</p> <p><u>針が4を少し過ぎてから全員が集まり、E児「時計の針、4過ぎちゃった。」、保育者「そうだね、でもみんな頑張って片付けてたからすごいと思ったよ。でも今日の時間だと足りないんだね、次は12から片付けてみようか。」</u>と言うと幼児はうなずき、みんなでホールに向かう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 片付けに掛かる時間を見通して、自分たちで片付け始める時間を決める機会を設ける。 • 前日の経験を思い出せるように伝える。 • 自分で時間に気付いて取り組み始められるよう、時計への意識がもてる言葉掛けをする。 • 決めた時間を過ぎてしまった残念な思いに共感し、友達と協力して片付けたことを認める。 • 取組を振り返り、次に活かせるように伝える。

幼児の経験している内容
<ul style="list-style-type: none"> • 前日の片付ける時間が足りなかった経験を振り返り、片付ける時間を考える。(自立)(健) • 幼児同士で片付ける時間を声を掛けて知らせながら、自分たちの遊んだ場を片付ける。(自立)(健)



協同性


友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

「お楽しみ会の準備」

幼稚園 2年保育5歳児2月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会までの見通しをもち、友達の考えを聞いたり、受け入れたりしながら同じグループの友達と一緒に遊びを進めていく。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 12月の生活発表会では、劇の役ごとに分かれて友達と一緒に必要な物を考えたり、準備したりしていた。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会当日までの見通しがもてるよう、カレンダーを用いて予定を確認する。 他のグループの様子に関心をもち、互いの取り組みを認め合うことでよいものにしていく意識を高められるよう、振り返りの時間を作る。

幼児の姿	援助のポイント
<p>A児、B児、C児の3人は、お楽しみ会で自分たちで編んだマフラーを売るマフラー屋さんをすることにします。準備の終わりにA児が「完成！これでお店開けるね。」と仲間に声を掛けると、B児は「マフラーいっぱい作ったよね。」と答える。</p> <p>学級のみみんなで今日の準備について振り返りを行う中で、A児が「マフラーをたくさん作りました。」と発表する。他のグループのD児が「マフラーは全部で何個できたの？」と尋ねると、C児は「えーと、たくさん！」と答える。「たくさん作ったんだね。明日何個できたか教えてね。」と保育者が伝えると3人は笑顔でうなずく。</p> <p>翌日、B児「先生、マフラー10個だったよ。」、保育者「3人で力を合わせて頑張ったんだね。お客さんは、誰が来るんだっけ?」、B児「つき組(4歳児)とちゅうりっぷさん(未就園児)。」、保育者「つき組さんって全員で何人?」、A児「24人。」、保育者「じゃあちゅうりっぷさんは?」、B児「一緒に遊ぶときは5人くらいだけでもっと来るかな。10人くらい?」、A児「待って、マフラー全然足りないよ!」、C児「どうして?」、A児「だってまだ10個しかできてないんだよ。つき組は24人もいるのに。」、C児「本当だ。これは毎日頑張るしかない。」、B児が不安そうに「間に合うかな。」、A児「毎日一人二個作ろう。」、C児「いいね。頑張ろう。」</p> <p>その後、新たにD児も加わり、4人でマフラー作りを行う。毎日遊びの終わりに仲間と完成したマフラーの数を数えていたが、一人、一日二個編むのは難しいことに気付く。そこでプレスレットや指輪など新たなアクセサリーも増やし、店名をおしゃれ屋さんにすることで必要な数が準備でき、お楽しみ会で多くのお客さんにプレゼントすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 準備の状況を振り返ることで見通しをもてるようにする。 みんなで協力して頑張ったことを認め、当日に向けて期待が高まるようにする。 完成したマフラーの数と予想されるお客さんの数の相違に気付けるよう、きっかけとなる言葉掛けをする。 数の見通しがもてるよう、細かく分けて数えられるようにする。 幼児が自分たちで解決策を考え乗り越えていけるように取組の様子を見守る。

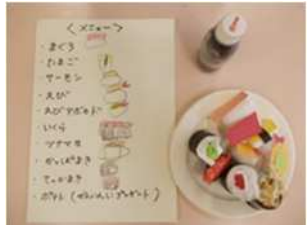
幼児の経験している内容	
<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いたり、受け入れたりしながら共通の目的に向かって同じグループの友達と一緒に遊びを進めていこうとする。(協) 準備が間に合うか不安そうな友達に寄り添い、助け合う。(協)(道) 保育者のヒントをもとに、予想されるお客さんの人数やそれに必要なプレゼントの数などを数えたり比べたりする。(思)(数) 気付いたことを言葉で伝え合い、取り組みを進めていく。(言) 	

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

「お寿司屋さんを作ろう」

保育園 5歳児1月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的をもちグループの友達と協力して進める中で、自分の力を発揮する。 	
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中でフードコートのお店屋さんごっこを楽しむ。 グループで共通の目的に向かって、話し合いをする経験を積み重ねている。 	
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 幼児のイメージが実現するよう、必要な材料を用意する。(画用紙・セロハンテープ・梱包材・油性マーカーなど) 落ち着いてグループで取り組みつつ、他のグループが何をしているか感じられるように、場を少し離して設定する。 	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>ごっこ遊びの行事に向けて、学級でお寿司屋さんごっこをすることになる。A 児の「グループで作ったほうがいいと思う。」という言葉にみんなが納得し、作りたい寿司をグループごとに決めていく。</p> <p>保育者が用意しておいたクッション材や梱包材などから、幼児たちは寿司に使える材料を選び、「このプチプチ(梱包材)いくらみたい。」「色を付けたらいいかも…」と言う。材料から寿司のイメージが広がり、作りたい気持ちが高まっていく。<u>保育者は幼児たちと相談し「こんな感じかな?」と見本を示しながら、幼児たちのイメージを整理する。そして、グループごとに寿司作りを始める。</u></p> <p>初めは一人一人の幼児が1貫ずつ作っていく。取り組む中で、時間がかかってしまうことに気付いた B 児が「やることを分けようよ。」と提案する。「じゃあ私はハサミで切るね。」「私は、セロハンテープでとめるね。」と自分で役割を決め、どんどん作り始める。</p> <p><u>保育者は幼児が自分たちで進めていけると感じ、お寿司屋さんのお店ごっこの分担も幼児たちで決めるよう投げかける。「呼び込みをする人が必要だよ。やりたい人いる?」という C 児の言葉に、「私やりたい。」と D 児が答える。「お寿司を握る役をやりたいけどいい?」と E 児が言うと、「いいよ。」と言って幼児たちで分担を決めていく。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級で共通の目的に向かってそれぞれが力を出せるように、課題を提示する。 寿司のイメージが広がり作りたい気持ちが高まっていくような材料を予想して準備する。 幼児たちがイメージしたものを分かりやすく整理して、共通の目的をもって取り組めるようにする。 自分たちで進めている姿を見守る。 遊びの状況を見ながら次のグループの課題を提示することで、自分たちで作り上げる達成感が味わえるようにする。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって、グループの友達と協力する。(協) グループで活動する中で、役割を分担し、自分の力を発揮する。(協) 目的の実現に向けて、考えや意見を伝え合う。(言) 	

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性がわかり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

「ドッジボールのチーム分け」

保育園 5歳児1月

ねらい	・友達と運動遊びに取り組み、自分たちでルールを考えながら、競い合う楽しさを感じる。	
これまでの経験	・ドッジボールが好きで、繰り返し取り組んでいる。 ・ドッジボールが得意な友達が誰なのか、分かってきている。	
環境構成	・幼児が扱いやすいように、投げやすく当たっても痛くないボールを用意する。 ・幼児の動きに合わせて、コートサイズを調整する。	
	幼児の姿	援助のポイント
	<p>ドッジボールのチーム決めをしている数人の幼児が言い合いになる。保育者が入り話を聞くと「A君がいないと負けちゃう。」「勝ちたいから強いチームに入りたい。」と言う。A児はボールを投げることが上手で、ドッジボールが得意なことをクラスの中で認められている。強く意見を言えない幼児やドッジボールが不得意な幼児が、A児のいないチームになることを押し付けられそうになっている。</p> <p>保育者が「そのチーム分けで楽しいかな？」とつぶやくと、それまでA児のいるチームがいいと言っていたB児の表情が変わる。B児「勝つのは嬉しいけど、簡単だと面白くないよ。」と言う。その言葉を聞いてC児が「頑張ったほうが、勝ったとき嬉しいよね。」と言う。二人の言葉にその場にいる幼児たちは頷き、数名が「A君を当てたいから、違うチームになる。」と言って、チームを変える。最後は、みんなが納得して二つのチームに分かれ、ゲームを始める。</p> <p>A児のいるチームが勝つ。D児は「次は当てるぞ。」と言い、繰り返し取り組む。A児も「Dくん、逃げるのが上手だな。」と友達に言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の話を聞いて状況を整理し、困っていることをみんなで共有できるようにする。 ・自分の行動を振り返り、状況を考えられるように、きっかけとなる言葉をつぶやく。 ・それぞれの幼児が自分の経験をもとに、競い合う楽しさに気付いたり、状況を解決するために提案したりして、遊びを進めていこうとする姿を見守る。
	幼児の経験している内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動を振り返り、状況や友達の気持ちに気付く。(道) ・友達の考えを受け入れて、みんなが楽しめる方法でやってみようとする。(道) ・充実感をもって繰り返し運動遊びに取り組む。(健) 	

言葉による伝え合い

先生（保育士等・保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

「お別れ会の言葉を考えよう」 幼稚園 2年保育5歳児2月

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修了の喜びや一年生になることへの期待をもつ。 ・ 園生活の思い出を振り返りながら、互いの思いやイメージを伝え合い、共感する。
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降園活動などの集合時にこれまでの園生活を季節ごとに振り返り、楽しかったことや頑張ったこと、嬉しかったこと、できるようになったことを出し合っている。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとの少人数グループで集まれるように場を設定し、幼児同士顔を合わせながら話し合えるようにする。 ・ 思い出を伝え合い、共感できるように、話し合いを行う時間を十分に保障する。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 幼児の姿 援助のポイント </div>	
<p>保育者の投げかけで、各グループ、それぞれどんなことを誰が言うかを、幼児同士で話し合いを進めている。</p> <p>秋グループでは、A児が「秋は、運動会頑張ったよね。」と言うと他の幼児も「うんうん。」と言ったり頷いたりしている。保育者の「他にどんなことあったかな？」という問いかけには、B児が「みんなでハロウィンタウンやったのが楽しかったな。」と答える。C児が「そうだそうだ、もも組（4歳児）を招待したんだよね。」と言うとB児が「もも組さんが来てくれたのが嬉しかった。」と続ける。保育者が「あれ、大成功だったよね。運動会とハロウィンタウンのことは言いたいね、他には何を言おうか？」と投げかけ、幼児の様子を見守る。</p> <p>その後みんなで話し合っ、秋グループは運動会、ハロウィンタウン、サツマイモ収穫、生活発表会について言うことに決めた。保育者が「次は誰が何を言うかを決めないとね。」と言うと、A児が「僕運動会のこと言いたいな。」と言う。B児が「私も運動会がいい。」と言うと、C児が「じゃあ、バルーンのこととYMCA（ダンス）のこと分けて言ったらいいんじゃないかな。」と提案する。周りの幼児も「いいね。」と言い納得した様子。保育者が「すごいね、みんな自分の気持ちを言えるんだね。話し合いが上手になったね。」と言うと「だってもうすぐ1年生だもん。」と笑顔を見せる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と園生活を振り返ることで、修了する気持ちをもち、思いや考えを出す意欲を高められるようにする。 ・ 一人一人が思いを出せているか見守りながら、話し合うきっかけとなるように幼児の発言を引き出す言葉を掛ける。 <p>・ 話し合いのテーマに沿って思いを表しながら話し合いを進める姿を認める。</p>
幼児の経験している内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活で経験したことを振り返り言葉で表現する喜びを味わう。（言）（豊） ・ 相手の立場に立ってどうしたら良いか考え、思いついたことを提案したりする。（言）（道）（思） ・ 友達の意見を受け入れる。（道） 	

3 充実のためのポイント

3 充実のためのポイント

(1) 家庭との連携

幼児教育の充実においては、家庭と緊密な連携を図ることが必要です。保育者は、保護者の子育てに関する不安や悩みを受け止め、共感しながら信頼関係を築き、「子どもにとって」の視点から幼児期の育ちと学びについて発信することが大切です。

(4歳児)

I 期 (4月～5月)
<ul style="list-style-type: none">・進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子どもを支えていけるようにする。・4歳児は友達とのかかわりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに務める。・園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。
II 期 (6月～9月上旬)
<ul style="list-style-type: none">・遊びや友達同士のかかわり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手へのかかわり方に気づいていけるように保育者が援助していることをクラスだよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携を図る。・大人が先に指示したりせず、子どもが自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていくことが自信や意欲につながっていくことを知らせる。
III 期 (9月中旬～10月)
<ul style="list-style-type: none">・日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子どもの姿に生きることを、懇談会やクラスだよりなどで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。・運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。
IV 期 (11月～12月)
<ul style="list-style-type: none">・個人面談等を設定し、日常生活での子どもの取組や友達との関わりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。
V 期 (1月～3月)
<ul style="list-style-type: none">・1年間の子どもの成長を振り返り、保護者とともに喜び合う。・子どもたちの進級に向けての活動の様子(お別れ会、新入园児との関わり、修了式への取組など)を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

(5歳児)

I期 (4月～5月)
<ul style="list-style-type: none">・園の教育方針、1年間の教育活動を保護者会、学級懇談会、家庭訪問、個人面談、保育参加、参観などを通して伝え、見通しをもって過ごせるようにする。・かつしかっ子生活スタイルの読み合わせや、かつしか家庭教育のすすめの配布を行い、子どもの発達や育ちを知り、就学前や家庭教育の大切さへの理解を深める。・進級による喜びや不安など保護者の思いに共感したり励ましたりして、ともに子どもを支えていく。
II期 (6月～9月上旬)
<ul style="list-style-type: none">・子ども同士の間で起こった出来事については迅速に丁寧に伝え、友達と関わる中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。・1学期の子どもの成長を共有し、喜び合う。・夏休みを前に、過ごし方のポイントを共有し、連携を密にする。・2学期の教育方針や教育活動について理解する。・夏休みの経験を共有し、話題にしたり遊びに生かしたりする。
III期 (9月中旬～10月)
<ul style="list-style-type: none">・目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいる姿を、日々の保育や行事などの様子から具体的に伝え、子どもの成長を感じ、喜び合えるようにする。・楽しみながら体を動かすことで、様々な意欲が引き出されることを伝える。親子で体を動かす機会を設け、子どもとともに楽しめるようにする。
IV期 (11月～12月)
<ul style="list-style-type: none">・グループの仲間との取り組みを通して、協同性、工夫、粘り強さなど、小学校以降の生活や学習の基盤となる力が育まれていることをドキュメンテーションなどを活用して伝える。その際には自分の子どもだけでなく友達の活動の様子を伝え、我が子や学級への理解が深まるようにする。・面談、個別相談の機会を設け、就学に向けて、それぞれの保護者の悩みや思いに寄り添い、子どものための協力体制を図る。
V期 (1月～3月)
<ul style="list-style-type: none">・学級懇談会などで、入学に向けて校長先生の話聞く機会などを設け、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けての不安を解消や疑問を解消する。また子どもが身に付けたいことについて、余裕をもって丁寧に取り組めるようにする。・園生活の具体的な場面をきめ細かく保護者に伝え、子どもの成長を喜び合い、自尊感情や入学への期待をより育むようにしていく。

また、公立保育園では、幼児期に必要な内容を「育て大きく！力あふれるかつしかっ子」としてまとめ、家庭への理解や協力を促す発信をしています。



育て大きく！力あふれるかつしかっ子

就学前教育と小学校教育をつなぐために

学校が始まるよ～

基本的生活習慣

早寝・早起き・朝ごはん

- ・ぐっすり寝よう、すっきり起きよう
- ・しっかり食べよう朝ごはん
- ・7時までには起きましよう

かつしかっ子 心も体も元気な力

自分で考えて生活できる力を育てます

- ・時間を意識し見通しが持てるようにします
- ・状況判断ができ健康や安全に気をつけて過ごします
(当番活動、食育、身の回りの自立等)

みてみて
どれどれ
すごいね！

実体験は学びの芽生えです

- ・見たり聞いたり触ったり、チャレンジする
気持ちを応援しましょう
- ・子どもができるお手伝いをたくさん経験させましょう
- ・子どもの発見や驚きに共感しましょう

かいていでも 豊かな体験学びの力

学びにつながる力を育てます

- ・経験したことを、あそびや生活に
活かせるよう育てていきます
- ・思いを伝え、相手の話を聞こうとする
意欲につなげていきます
- ・感じたことや想像したことを表現
できるようにしていきます

学びの芽生え

体を動かすことは楽しいことがいっぱい

- ・戸外で汗をいっぱいかいて
遊びましょう
(脳と体が一緒に育ちます)
- ・親子で一緒に歩きましょう

一緒に
歩くと
楽しいね

運動

つづけよう 遊びで育てる運動の力

仲間の中で運動能力を育てます

- ・様々な遊びの中で、多様な動きを
身につけて楽しく過ごします
(体を移動する動きやバランスを
とる動き用具を使う動き等)
- ・体を動かす時間を大事にします

おはよう
ありがとう
ごめんね！

人と関わる力を育てましょう

- ・挨拶は人の心をつなぎます
- ・子どもの話は目を見て、うなずいて
最後まで聞きましょう
- ・ルールやマナーを教えてあげましょう

しらせよう つなげる気持ち関わる力

人と関わる力を育てます

- ・友だちと折り合う経験で
自分の自信につないでいきます
- ・異年齢の関わりを通し
思いやりや役立ち感を育みます
- ・その場にあった行動や人との
接し方を学んでいきます
(挨拶・きまり)

人とのかわり

(2)かつしかっ子生活スタイル 5歳児版

就学前に身に付けておきたい基本的な生活習慣や規範意識を具体的な幼児の行動として10項目に絞り、5歳版として表記しました。

かつしかっ子生活スタイル 5歳児版

- 1 よばれたときは「はい」とへんじをします。
- 2 ひとのはなしをきくときはめをみてさいごまでききます。
- 3 おせわになったら「ありがとう」、めいわくをかけたなら「ごめんなさい」といいます。
- 4 じぶんのきもちをことばであいてにつたえます。
- 5 こまったときには、せんせいやともだちにしらせます。
- 6 ともだちがこまっていたら、たすけます。
- 7 きょうりょくしてとうばんかつどうにとりくみます。
- 8 ものはたいせつにし、つかったあとはもとのばしょにもどします。
- 9 ただしいしせいで、いすにすわります。
- 10 ようちえんやほいくえん、こどもえんにもっていくものは、じぶんでよいします。

この10項目は、単に「できる」「できない」の基準としてあるものではありません。幼児期は人間形成の基礎を培う時期であり、心情や意欲を基にして態度が育っていきます。

『園庭で、運動会にむけてリレーをしていた。走っている途中で負けると感じた幼児が、バトンを投げて歩き出した。同じチームの幼児が泣きながら最後まで走ってほしい気持ちを訴えるという姿があったので、保育者がこの二人の幼児の気持ちを代弁し、どうしようと投げかけた。速く走れるように練習をすることや他のチームがゆっくり走るといった幼児らしい意見が出た。自然に練習を手伝う声上がり、翌日、多くの幼児が集まって練習していた。このことをきっかけにバトンを投げた幼児は友達と協力して走ることを楽しみ、さらに頑張りを認められ自信をもつことができた。』

この事例のように、生活の中で起きるたくさんの出来事を通して、自分の気持ちを表し、そして、幼児が自分たちの問題として受け止め、考えあい、嬉しかったり、困ったり、ほっとしたり、戸惑ったりなど様々な感情体験を伴いながら、10項目の姿や態度が育っていきます。

(3) 葛飾保育者の保育スタンダード

就学前教育において、幼児の発達や学びを保障する保育を丁寧実践し、遊びや生活を通して資質・能力を育むことが、「かつしかっ子宣言」の達成につながります。保育者が専門性を高め、質の高い幼児期の教育を実践するために、保育者の役割や姿勢について図にまとめました。

① 保育者と子どもの 基本的信頼関係を築きます。

- ・遊びや生活の仕方を教えます。
 - ・話を聴き、気持ちを受け止めます。
 - ・困った時に援助します。
 - ・一緒に遊び、共感します。
- ⇒「先生といると安心・楽しい・大好き」



「かつしかっ子」宣言

- 人にやさしくします
- あいさつで心をつなぎます。
- 約束をまもります
- 自分で考え、行動します
- 仲間と力を合わせます

② 基本的な生活習慣を身に付け 体力を向上させます。

- ・身辺自立
- ・早寝早起き朝ごはん
- ・食育
- ・多様な動きを経験させる
- ・戸外遊びの充実



③ 心のエネルギー充足のために 様々な経験を提供します。

- ・楽しい経験
- ・心揺さぶられる経験
- ・友達と共に遊び、生活する喜びを感じられる経験



④ 知的好奇心を充足させます。

- ・興味、関心をもつように、
- ・集中して取り組めるように、
- ・夢中になって遊べるように、
- ・不思議さや面白さを感じられるように
- ・考え、試し、探究するように、

幼児の実態に合わせて、環境構成と保育者の援助を工夫します。



⑤ 社会的能力を身に付けさせます。

- | | |
|---------|------------|
| ・あいさつ | ・粘り強さ |
| ・認め合い | ・自己決定 |
| ・問題解決能力 | ・思いやり |
| ・規範意識 | ・言葉による伝え合い |
| ・協同性 | ・支え合い |



そのために保育者はこのように指導しています。

- ねらいを明確にもち、指導・援助をしています。
- 幼児が遊びや生活に意欲的に取り組めるよう、環境構成を工夫しています。
- 保育者が笑顔で積極的にあいさつをし、幼児のよきモデルとなるようにしています。
- 一人一人の発達をとらえ、適切な指導をしています。
- 幼児期に身に付けたい内容は、丁寧に繰り返し教えていきます。
- 見守り、励まし、認め、自己肯定感や自己有用感を育てています。
- 幼児の見本となるよう、職員が連携・協力して、幼児を温かく育てています。
- 幼児・保護者・地域の方々に見られていることを常に意識して、保育者らしく清潔感のある服装、言葉、行動で接しています。

4 小学校への接続

4 小学校への接続(学習・生活の様子)

遊びを通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程から、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なりその接続は決して容易ではありません。そこで、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続し、入学したかつしかっ子が、幼児教育での学びと育ちを基に、主体的に自己を発揮し、生き生きと新しい学校生活を創り出せるよう、小学校入学当初のカリキュラムを工夫した「かつしかっ子スタートカリキュラム」が本格実施されています。

(1)学習の様子

小学校の入門期の学習では、以下のことがポイントとなっています。

○就学前に子供が経験してきた内容のうち、各教科で生かせることを明らかにして指導に当たる。

○就学前教育で経験してきた内容を踏まえて、各教科の目標や内容に基づいて指導する項目を明らかにして指導に当たる。

また、小学校では、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を発揮できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導方法の工夫や時間配分、活動内容を工夫することで、より自覚的な学びになっていきます。

教科学習の事例1 (音楽科)

1 題材名「はくをかんじとろう」

2 本題材につながる幼児期の子供の姿と本題材の指導について

幼児は、感じたり考えたりしたことを率直に表現することが多く、身振りや動作、表情や声など自分なりの方法で表現します。

遊びや生活の中では、自ら興味のある音や音楽で十分に遊び感じたことや考えたことを自分なりに工夫し表現する楽しさを味わい、友達同士で表現する過程を楽しむ体験をしています。身近にある色々な物を楽器にして遊んだり、リズムを感じたり即興的に歌うだれかの歌に合わせて歌い出したり、友達と一緒に踊ったりすることを楽しんでいます。

本題材では、わらべ歌や手遊びなど園で遊んだことのある歌を取り上げ、友達や教師と共有・共感しながら楽しく歌ったり、踊ったりして、安心して音楽の授業に臨めるようにします。その過程で、音楽科としての学習内容「拍を感じ取る」ということを意識化させていきます。

環境構成としては、自由に体を動かしたり手遊びできるスペースを活用したりします。わらべ歌や「さんぼ」などの足踏みの活動は、音楽の時間に限らず、朝の時間、仲間づくり等にも効果的に働きます。

3 題材について

(1) 題材の目標

音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりしながら、拍の流れにのって表現する喜びを味わう。

(2) 題材の指導計画 (全 4 時間)

○主な学習内容・学習活動	
1	○「なまえあそび」などことばを使った遊びを通して、拍の流れにのって言葉のリズムをつくる。 ・拍うちに合わせて「〇〇〇・」(タンタンウン)に入る言葉を見付ける。 ・「なまえあそび」のリレーをして楽しむ。
2	○わらべうたを使った遊びを通して、拍の流れにのって表現を工夫する。 ・知っているわらべうたを紹介し合う。 ・教師の鳴らす音の数に合わせてペアやグループになる。 ・仲間づくりをしながら「おちゃらかほい」などペアやグループで歌う。 ・「おちゃらか」「なべなべそこぬけ」等、速度に変化をつけ、歌いながら手遊びをする。
3	○歌ったり、体を動かしたりして、拍の流れにのって表現を工夫する。
4	・「さんぽ」を聴いて歌ったり、手拍子をしたりする。 ・「さんぽ」に合わせて足踏みや行進をする。 ・教師の伴奏による様々な速度や強弱の「さんぽ」を聴いて、歩いたり体を動かしたりする。

4 本時の展開 (1/4)

目標:「名前遊び」など言葉をつかった遊びを通して、流れを感じ取る。

主な学習活動	○指導上の留意点
<p>○「なまえあそび」をして拍の流れを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の打つ拍に合わせて手拍子やひざ打ちしたりする。 ・教師の拍に合わせて呼び合う。 <p>「教師『〇〇さん・』 児童『はあい・』」 「教師『お名前は』 児童『〇〇です』」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童、児童同士で行う。 <p>○拍に合わせて、「名前遊びを」を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇〇・」に入る好きな3文字をみんなでみつ <p style="text-align: right;">思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人⇒一人、一人⇒全員、など拍打ちに合わせて「名前遊び」をする。 <p>○「名前遊び」のリレーをして楽しむ。 協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れにのって、「〇〇〇・」の中に入る言葉のリズムを当てはめながらリレーをする。 <p>○既習曲や手遊びなど、拍の流れにのって歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じながら、既習曲に合わせてペアで手拍子したり、みんなで歌ったりする。 	<p>○一定の速度で箔打ちを、児童の様子を見ながらゆっくりするなど、安心して答えることができるようにする。</p> <p>○「タンタンウン」のリズムに合わせて、児童の名前を呼び、教師が例示を示しながら「はあい・」とリズム合わせることができるようにする。</p> <p>○言葉が見つからないときは、みんなで見つけた言葉を使うようにする。</p> <p>○果物などテーマを決めて発展させてもよい。</p> <p>○拍の流れにのれなかったり、3文字の言葉を見付けられなくても、一生懸命考えていることや丁寧に取り組む姿を誉めるなどして意欲が続くように配慮する。</p> <p>○全員、ペア、グループなど段階を踏んで活動を広げていく。</p> <p>○いくつかのグループに発表させ、聴いている児童には良い点を発表させる。</p> <p>○本時の学習で意識した拍の流れを意識するようにし、様子を見ながら速さを変える。</p> <p>※既習曲で学習した内容を試すことで、定着が図ったり、次の学習への意欲につなげたりしたい。</p>

教科学習の事例2（国語科）

1 単元名 「よろしくね」

2 本題材につながる幼児期の子供の姿と本題材の指導について

幼児期には、自分の話や思いが相手に伝わり、相手の話や思いが分かる楽しさを感じる体験や、一人一人の幼児がその幼児なりの必要感をもって、標識や文字などに関心をもち、その役割に気付いたり、使ったりしながら、感覚が磨かれるような体験をしています。

このような経験を生かし、「自分のことを知ってもらいたい」「友達をいっぱい作りたい」という児童の思いや願いを実現する必要感をもったやり取りができるような言語活動を構成することが大切です。

本単元は児童の発達特性を踏まえて、集中力や意欲を持続させるために、15分間の短時間学習6回で構成しています。名刺カードの交換で児童は多くの友達と関わり、それを通して新しい友達関係を築き、安心感をもったり仲間意識が高まったりします。また、この時期の児童は、文字を書く経験の個人差が大きく、不安を抱いている児童も少なくありません。教科書や児童のワークシートの拡大版を黒板に貼ったり、イラストを使って視覚的に指示をしたりするなど、どの児童にも分かりやすい環境を構成することが重要です。

3 単元材について

(1) 単元の目標


名刺カードを作ったり交換したりする自己紹介の活動を通して、相手によく分かるように、自分の名前などを丁寧に書いたり、友達に知ってもらいたいことを考えたりする。

(2) 単元の指導計画（全6モジュール）

	○主な学習内容・学習活動
2	○姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、自分の名前を丁寧に書く。 ・書くときの姿勢や鉛筆の持ち方を知り、学年・組・自分の名前を練習する。
2	○自分の名前などを丁寧に書いたり、友達に知ってもらいたいことを考えたりする。 ・名刺カードに、自分の名前を書き、友達に知ってもらいたいことを絵で表す。
2	○自分の名前や友達に知ってもらいたいことを友達に伝えて、自己紹介をする。 ・名刺カードをクラスの友達と交換する。

4 本時の展開 (5~6/6モジュール)

目標： 自己紹介に向け、作成した名刺の交換の仕方を考えたり、友達に話したいことや聞いてみたいことなどについて進んで話したり聞いたりしようとしている。

主な学習活動	○指導上の留意点
<p>○前時を振り返って、本時のめあてや見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ともだちをいっぱい作るために なまえかあどをこうかんしよう</p> </div> <p>○名刺カードの交換方法を話し合っで決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶「はじめまして。よろしくね。」 「友達になってね。」 ・自分の名前 ・絵に描いたこと（好きなものや好きな色など） ・握手など <div style="text-align: right; margin-right: 50px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; display: inline-block;">協同性</div> </div> <p>○自己紹介をしながら、名刺カードを交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめまして、友達になってね。」 ・「犬が好きなんだね。私も飼っているよ。」 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="text-align: center; margin: 10px auto;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; display: inline-block;">言葉による伝え合い</div> </div> <p>○本時を振り返って、名刺カードを交換した感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「8人も友達ができで嬉しいな。」 ・「もっと友達をつくりたいな。」 ・「名刺を作ってまた交換しよう。」 <div style="text-align: center; margin: 10px auto;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; display: inline-block;">豊かな感性と表現</div> </div>	<p>○名刺カードに自分の名前などを書いたことを想起できるようにし活動の目的を明確にする。</p> <p>○名刺カードの交換方法を児童と考えることを通して、活動への意欲を高める。</p> <p>○児童と教師が教室の前で名刺カードの交換を実際にやってみるなどして、活動の仕方を理解できるようにする。</p> <p>○自分から声を掛けることができない児童には、声の掛け方を教えて一緒にやる。</p> <p>○違う園出身の友達と自分から交換している児童や、友達の名刺カードの絵を見て質問をするなどしている児童を褒め、学級全体に紹介する。</p> <p>○新しい友達ができた喜びを共感的に受け止める。</p> <p>○継続的な活動に心えられるように日常的に白紙の名刺カードを教室に準備しておく。</p>

教科学習の事例 3 (算数科)

1 題材名 「なかまづくりとかず」

2 本題材につながる幼児期の子どもの姿と本題材の指導について

就学前に、児童はものを数えたり数字を読んだり、順番を意識したりすることなどを日常生活の中で経験してきている。本題材は絵や写真を中心に構成されており、数についてイメージを膨らませやすい。入学時の児童に「数」に対する関心をもたせるため、児童に親しみのある動物たちを登場させ、児童の自由な発想の中から数理がひきだせるようにした。また、児童の興味をひきつけるために身近な学校の場面にした。また、数量の多少に関心をもたせるために集合を作りやすい場面を設定し、いろいろな観点や条件を決めて集合づくりをする。設定された場面の中でいろいろな集合作りをしていく。

本題材では、日常の体験から経験的に対応させやすい 2 つの集合を用いて、直接的、間接的に 1 対 1 に対応させる活動を通して対応の考えの良さを理解させる。そして、対応させた結果の過不足、「数が同じ」「数が違う」「数が多い」「数が少ない」というように数の大きさに着目した集合の見方へと高めていく。

3 題材について

(1) 題材の目標

10 までの数について、個数の数え方や数の読みかた、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。

(2) 題材の指導計画 (全 11 時間)

○主な学習内容・学習活動	
1	○「なかまをつくろう」 ・いろいろな観点や条件に応じて集合をつくること
2	○くらべよう ・1対1対応による、集合の要素の個数の多少や相当の比較
3 ~ 9	○10までのかず ・1~5の数字のかきかた ・1~5の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけること ・6~10個のものの数をかぞえること ・6~10の数字の書き方 ・6~10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけること ・ものの個数を集合別に整理して表したり、特徴を読み取ったりすること
10	○おおきい ちいさい かずならべ ・1~10の数の大小や系列
11	○0というかず ・1つもないことを0と表すこと

4 本時の展開 (2/11)

目標： 集合の要素の個数の多少を1対1対応の方法で比べることができ、数が同じ、違う（多い、少ない）などの意味を理解する。

主な学習活動	○指導上の留意点
<p>二つの集合の要素を1対1対応させて比べよう</p> <p>○どんな場面か話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タヌキが傘をとろうとしている。 ・ネズミは椅子取りゲームをしている。 ・ウサギは一輪車をしたいのかな。 ・カエルは葉っぱにのろうとしている。 ・チョウは花にとまろうとしている。 <p>○タヌキと傘の数を比べる。 思考力の芽生え</p> <p>「タヌキと傘とではどちらが多いか比べるにはどうしたらよいか考える。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傘をタヌキに持たせよう。 ・タヌキは動かないから線で結びよう。  <p>○その他のものを比べ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネズミと椅子 言葉による伝え合い ・ウサギと一輪車 ・カエルと葉っぱ 思考力の芽生え ・チョウとお花 <p>○数の比べ方についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようにすると、どちらが多いか比べられたかな。 ・次時の活動への興味・関心をもてるようにする。 <p>思考力の芽生え</p> 	<p>○教科書を見てどんな場面か話し合う。</p> <p>タヌキと傘、ネズミと椅子、それぞれの絵の中の2つの集合を明確にし、2つの集合の要素の個数を比較する必要性をつかませる。</p> <p>○タヌキと傘とではどちらが多いかを比べるにはどうすればよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらが多いかを考える。 ・動かさないから線で結び、比べてみる。 ・ブロックを置いてみる。 <p>○安心して発表できるような雰囲気大切にしながら、徐々に動物と物の数について着目させ、課題を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を挙げて発表する学習のルールを知らせる。 ・同じ考えの児童の有無を確認し、個を認めていくようにする。 ・個の疑問を全体の課題へと共有化していく。 <p>1対1対応させたとき余ったほうが多いこと、同じなら等しいことをおさえる。</p> <p>○学習を振り返り、数の比べ方についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線で結んだら比べられたよ。 ・ブロックを置いて並べたら比べられたよ。 <p>2つの集合の要素を、線で結んだり、ブロックを並べたりして1対1対応をさせれば数を比べることができることをおさえる。</p>

1 題材名「たのしくあそぼう1」

2 本題材につながる幼児期の子供の姿と本題材の指導について

幼児は、走ったり、跳んだり、転がったり、ぶら下がったり、投げたり、好きなものになりきって動いたりといった自分の体を動かすことが好きである。就学前に、園にある様々な遊具や用具に興味をもち、工夫して遊んできた。そして、「できるようにになりたい」と自分なりの目標に向けて取り組む中で、教職員や友達の動きをよく見てまねたり、やり方を聞いたり、応援されたりしながら繰り返し挑戦し、やり遂げる達成感を味わってきた。また、友達と一緒に遊ぶことを通して自分たちでその遊びが楽しくなるように遊び方やルールを考え、それを守って遊ぶことを経験してきている。

体育科の入門期の学習では、固定施設を使うなどして、様々な動きを身に付けることをねらいとしている。就学前教育での経験を生かしながら、きまりや遊びのルールを友達と話し合いながらつくることも大切にしていこうとする。

本単元の学習では、校庭にある固定施設を使った遊び方を知らせるとともに、鬼遊びを通して、友達と一緒に体を動かすことの楽しさを味わいながら、遊びのルールをつくることができるようにする。

3 題材について

(1) 題材の目標

- ・固定施設を使ったいろいろな遊び方を楽しんだり、友達と競争や鬼遊びをしたりして、自己の体を動かし、楽しく遊ぶことができる。
- ・運動のきまりや順番を守り、場所の安全を確かめて運動することができる。
- ・固定施設を使った運動のしかたや競争、ゲームのしかたを知り、運動が楽しくなるように活動のしかたを工夫することができる。

(2) 題材の指導計画（全5時間）

○主な学習内容 ・学習活動	
1	○いろいろな動きをしてみよう（かけっこ・鬼遊び・固定施設遊び）
・	・かけっこや鬼遊びのやり方、固定施設の遊び方を知り、学習の見通しをもつ。
2	・簡単なルールでかけっこや鬼遊びを行う。
	・自分の好きな固定施設で好きな遊び方をする。
	・自分のできる遊び方を紹介する。
3 ～ 5	○工夫した動きをしてみよう（かけっこ・鬼遊び・固定施設遊び）
	・第1・2時で試した遊び方から工夫した遊びをすることを知り、学習の見通しをもつ。
	・ルールを工夫してかけっこや鬼遊びを行う。
	・固定施設で自分ができるような遊び方を工夫して楽しんだり、友達と競争したりする。
	・友達のよい動きや楽しかった遊び方などを紹介する。

4 本時の展開 (2/5)

目標：関わり合いながら行う手軽な運動や固定施設を使った運動遊びをすることで、いろいろな動きをすることができる。

主な学習活動	○指導上の留意点
<p>○集合・整列・挨拶をする。 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>○本時のめあてを確かめる。 いろいろなうごきをして たのしくあそぼう</p> <p>○準備運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> 体を動かす遊びをしながら運動に向かう準備をする。 健康な心と体 </p> <p>○簡単なルールでかけっこや鬼遊びを行う。 <ul style="list-style-type: none"> かけっこ・「だるまさんがころんだ」・簡単な鬼遊びなど、幼児期に親しんできた遊びや活動（伝承遊びや集団による運動遊び）を楽しむ。 協同性 健康な心と体 </p>  <p>○自分の好きな固定施設（ジャングルジム・雲梯・鉄棒など）で、いろいろな動きをして遊ぶ。 健康な心と体</p>  <p>○自分のできる遊び方を紹介する。 言葉による伝え合い</p> <p>○整理運動をする。</p> <p>○後片付け・集合・整列をする。</p> <p>○本時の学習を振り返る。 思考力の芽生え</p> <p>○次時の学習内容を知り、挨拶をする。</p>	<p>○集合するときの合図など、学習の約束事をしっかりと決めておく。</p> <p>○本時でしたい遊びや活動が出るように、前時を振り返らせる。</p> <p>○体でじゃんけんをしたり、動物や忍者になりきって動いたりするなど、楽しみながら体を動かすことができる遊びを取り入れる。</p> <p>○幼児期に親しんできた遊びや活動を取り入れて、安心して運動できるようにする。</p> <p>○園によって経験してきた遊びや活動が異なるので、ルールを話し合う活動などを適宜行う。</p> <p>○誰もが楽しんだり友達との関わりを増やしたりするために、必要に応じて遊びの工夫を教師からも提案する。</p> <p>○教師も児童と遊びや活動を楽しんだり、輪に入ることが難しい児童と一緒に取り組んだりする。</p> <p>○固定施設を使って遊ぶ時の楽しい遊び方、ルールやきまり、してみたいことを出し合う。 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>○児童が気付いていない安全面での注意事項は、教師が分かりやすく端的に示す。</p> <p>○固定施設に苦手意識をもつ児童には、教師と一緒に遊んだり友達同士で遊べるよう声を掛けたりする。</p> <p>○他の児童が行っていない動きをしている児童を褒めたり紹介したりして、いろいろな動きを引き出したり広めたりする。</p>

(2)生活の様子

小学校では、幼保小連携教育の取組やスタートカリキュラムが始まってから、児童が安心して学べる環境づくりに取り組んでいます。連携している近隣の園などを見学し、生活の様子や環境構成の違いを知った上で、児童が自分の力を発揮しながら生活できるような取組が進められています。

教室環境

園と小学校における環境の違いに、以下のような特徴があります。

	園	小学校
外観		
施設	<ul style="list-style-type: none"> 園舎や園庭が比較的小さい。園庭ではなく、近所の公園や施設を活用する場合もある。  <ul style="list-style-type: none"> トイレ、水飲み場、幼児用に低く小さめの物が設置されている。    	<ul style="list-style-type: none"> 園に比べ、校舎や校庭大きい。  <ul style="list-style-type: none"> トイレ、階段、水飲み場、プールなど標準的な高さや大きさの物が設置されている。    

<p>室内環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動に応じて机と椅子を使用する。 図や絵などの情報が中心  	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人机と椅子がある。 文字情報の割合が多い。  
<p>時間と学び方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間の区切りが緩やか。 様々な環境に触れ、興味や関心をもって関わり、個別または集団で遊ぶ。  	<ul style="list-style-type: none"> 時間割がある。 学級全体で学ぶことが多い。  


学習規律

小学校では、児童が安心して学習に取り組めるようにするために、一人一人が学習に臨む態度やきまり（学習規律）を身に付けていきます。園から継続して指導する事項に加え小学校で指導する学習規律があります。

【園】

- 話の聞き方
- 返事や挨拶の仕方
- 椅子の座り方など
- 整列の仕方、着替え

【小学校】

- 
- 教科書やノート、文具類の使い方
 - 机の使い方（机の上の物の配置、道具箱など）
 - 校庭の遊具、特別教室、体育館の使い方
 - 決められた時間内での学習

【かつしかっ子学習スタイル】

葛飾区では、小学校 1 年生から中学 3 年生まで発達段階に合わせた「かつしかっ子学習スタイル」を定めています。区内のどの学校、どのクラスでも定着し、落ち着いて学習できるよう取り組んでいます。

(小学校 1 年生版)

- 1 じゅぎょうのまえに、きょうかしょやノートなどをつくえの上におきます。
- 2 じゅぎょうのはじまりのチャイムまでに、じぶんのせきにすわります。
- 3 じゅぎょうのはじまりとおわりに、せすじをのばしてあいさつをします。
- 4 まえをむき、よいしせいですわってべんきょうし、へんじをするときは、大きなこえで「はい」といいます。
- 5 先生やともだちのほうをむいて、はなしをしっかりききます。
- 6 こえの大きさをかんがえて、「です・ます」をつけて、ていねいにはなします。
- 7 こくばんにかかれたことを、ノートにていねいにかきます。
- 8 ともだちのはなしをきき、じぶんのかんがえをつたえます。
- 9 まい日、しゅくだいをきちんとやります。
- 10 ねるまでに、あしたごうにもっていくものをカバンに入れます。

給食の時間

園によっては、お弁当でなく給食を食べる場合もありますが、小学校に入ると、給食の配膳の仕方が異なったり食べ慣れてないものがあつたりするなど、戸惑うこともあります。また、食べる時間や量も異なり、おやつもなくなります。小学校では、給食の時間設定や指導の仕方を工夫することで徐々に慣れるようにしています。



〔接続を意識した指導のポイント〕

【園】

- テーブルを拭くだけでなく、布巾を洗う、絞るといったこともすると、掃除の時にも活用できます。
- お茶を注ぐなどの当番がある場合、お盆に友達のコップを集め、お茶を注ぎ、テーブルまで運び配膳の体験をさせます。
- お弁当の準備や食べ終わった後の時間は、みんなで「いただきます」「ごちそうさま」を待つ習慣が身に付くようにします。



【小学校】

- 小学校では、当番は石鹸で詰めや手首まで丁寧な手洗い後、白衣に着替えます。絵などで、着衣の仕方が示します。
- 配膳は、危険がないようにおしゃべりをせず落ち着いてできるように指導します。お盆が重くならないよう牛乳は机に配ります。
- 当番以外の人は、トイシ、手洗いを済ませ、静かに座って待つなど、食事の決まりを理解し、守るように指導します。

清掃

小学校では、毎日清掃の時間が決まっています。教室や廊下を交代で清掃します。清掃用具の基本的な使い方（ほうき、ちりとり、雑巾の絞り方やかけ方、机の運び方）を身に付けます。



〔接続を意識した指導のポイント〕

【園】

- 身の回りを片付けます。保育室の床に、ほうきでごみを集める場所を示すなど幼児が清掃しやすいように工夫します。また、ロッカーを雑巾で拭いたりします。
- きれいにできたことを価値付けたり、すがすがしさを体験したりして、片付けることよさを実感できるようにします。



【小学校】

- 教室は広く、机やいすの移動も必要です。ルールを決めて円滑に清掃の仕方を身に付けられるようにします。
- ほうきで履く時間、雑巾で拭く時間を決めて見通しをもたせます。
- 役割分担を明確にします。
- 児童机は二人一組で運びます。

登下校

園では保護者が送り迎えをしますが、小学校は自分で登下校します。行き帰りが分からなくなならないように準備しておく必要があります。



〔接続を意識した指導のポイント〕

【園】

- 保護者に協力してもらい、入学前に行き帰りの道順を何度か親子で小学校まで実際に歩いてもらいます。



【小学校】

- 児童が慣れるまで、区域ごとに班をつくり、教職員が協力して引率し、危険箇所や交通ルールを守った歩き方ができるよう指導します。

(3)円滑な接続のための指導の工夫

○5歳児5期（3学期）の過ごし方の工夫

小学校見学や小学生との交流活動、また就学時健診を経験し、小学校を身近に感じて親しみを持ち、就学に向けての期待感が膨らむようになります。そこで就学前の3学期は、小学校生活への期待や意欲を高め、幼児期の学びを生かしながら、就学前に身に付けたいことに余裕をもって取り組むことができるようにすることが大切です。家庭と連携・協力し進めていきましょう。

【小学校生活を意識させる言葉掛けの例】

- 学校でも、元気よく挨拶をするよ。幼稚園や保育園と同じだね。
- 自分の机が決まっているよ。教室の後ろの方の席でも、先生の話をしっかり聞こう。
- 勉強に使う道具は、持って帰る物と自分の机の中に入れておく物があるよ。机の中は、いつも整理整頓しておく使いやすいね。
- 体育の時は、体育着に着替えるよ。脱いだ物はたたんでおくと、体育が終わって着替えるときにやりやすいね。
- トイレは、休み時間に行っておくと安心だね。
- 靴箱は大勢が使うから、立ったまま履き替えられるようになろうね。
- 前の日のうちに、時間割や連絡帳を見ながら、次の日に使う物を揃えて準備しておこう。
- 正しい姿勢で、椅子に座ろう。姿勢が良いと学習に集中できるし、体にも良いよ。
- 交通安全はとても大切だね。小学校へ行くとき、家に帰るときも、車や自転車によく注意して、落ち着いて歩こう。

○発達段階に即した系統的な指導の工夫

小学校では、チャイムによって授業と休み時間を切り替えるようになります。子ども自身が、生活の見通しを持ち、切り替えの必要性が分かって行動できる力を身に付けておくことが大切です。幼児期に長期的な計画の下で段階を踏んだ指導を積み重ねていきましょう。

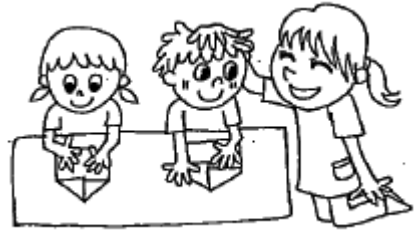
ステップ①

入園当初は安心して集団生活を送れるようにすることが第一です。幼児一人一人の気持ちに寄り添い、保育者との信頼関係を築いていきましょう。また興味や関心を把握して遊びを援助し、園生活の楽しさを感じるようにしていくことも大切です。



ステップ②

幼児は、夢中になって遊び満足感を味わうこと、また自分の取り組みを保育者に認められることで、片付けや次の活動へと切り替えていくことができます。



ステップ③

一斉活動の楽しさを繰り返し経験することが大切です。「先生や友達とみんなで行うことは楽しい」と感じる活動を積み重ねられるようにします。主体的に取り組む遊びと、学級全体で行う活動のバランスをとり、活動意欲を満たすようにしましょう。



ステップ④

「片付けたら、みんなで楽しい〇〇をしようね。」などと、次の活動に期待をもち、遊びから片付けへと切り替えられるようにしていきます。



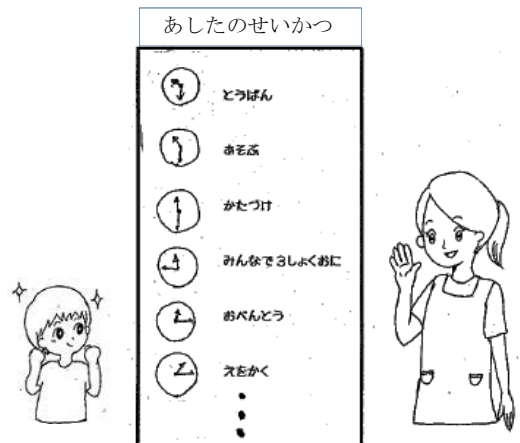
ステップ⑤

その日のこれからの予定を保育者から聞いて、見通しをもって生活する時間を、少しずつ長くしていきます。



ステップ⑥

前日のうちに1日の流れを伝え、見通しをもって生活できるようにします。学級のみんで日の流れの組み立てを考えることもよいでしょう。また、カレンダーなどを活用し、週や月の予定を知らせ、見通しをもてるようにすることも大切です。



【就学前教育カリキュラム作成委員】

区立幼稚園長会代表者	飯塚幼稚園	園長	加賀美学
	水元幼稚園	園長	矢野靖子
	北住吉幼稚園	園長	鈴木悦子
区立保育園長会代表者	堀切保育園	園長	土屋優子
	二上保育園	園長	富井優子
区立小学校長会代表者	亀青小学校	校長	杉山勇
	東金町小学校	校長	河村麻里
私立幼稚園連合会代表者	葛飾二葉幼稚園	園長	二葉昭二
私立保育園連盟代表者	徳育保育園	副園長	高根沢康浩

【事例作成協力】

区立幼稚園教育研究会	飯塚幼稚園	副園長	山中敦子
		主任教諭	久松奈央
		教諭	新田千璃
	北住吉幼稚園	主任教諭	橋本奈帆
		教諭	河原崎霞
	水元幼稚園	教諭	岡小百合
		教諭	佐藤由季
区立保育園長会及び区立保育園職員のみなさま			

【事務局】

葛飾区教育委員会事務局指導室	統括指導主事	木村文彦
葛飾区教育委員会事務局指導室	指導主事	高久道子

かつしかっこ就学前教育カリキュラム

令和3年3月発行

編集・発行 葛飾区教育委員会事務局指導室